

第2章 アンケート及びヒアリング調査

第2章 アンケート及びヒアリング調査

社会人教育に対する現状の把握を主目的として、(1) 大学院等におけるリカレント教育および職業訓練に関するアンケート調査、(2) 社会人向けアンケート調査、(3) 大学・大学院等に対する社会人教育に関するヒアリング調査を実施した。

第1節 大学院向けアンケート調査と分析

本アンケートは平成14年度末時点で、学生を募集した大学院・専門職大学院等に送付しており、調査時点において、少なくとも大学院設置後1年以上経過していることとなる。これらの大学院・専門職大学院の事務局長もしくは、研究科長に相当する方に対しアンケート票を送付し、回答を頂いた。

1 大学院向けアンケート調査

1.1 調査概要

■ 調査実施方法

項目	概要
調査方法	郵送アンケート調査 ※送付、回収ともに郵送
調査対象者	1つ以上研究科が設置されている全国の大学(508校) ※平成14年度末時点(募集をしていなかった大学院を除く)
調査時期	平成17年1月14日～平成17年2月4日 (22日間)

■ 回収結果

項目	計
配布数	508
回収数	213
回収率	41%

■ 集計における留意事項

- ・ 集計分析は、①単純集計、②クロス集計、をおこなっている。
- ・ 分析コメントについては、単純集計の分析結果は全ての設問においてコメントしている。クロス集計については、特徴の見られる設問のみコメントしている。
- ・ 集計における構成比率(%)は、四捨五入により合計比が100%にならない場合がある。
- ・ 集計は、基本的に小数点第2位を四捨五入している。そのために、SA(単一回答)の設問でも、合計が100%にならないことがある。

■ グラフ・文中の標記について

各設問において、次の略称を使用している。

略称名	意味
SA (Single Answer)	選択回答が1つのみ
NA (Number of Answer)	数字回答
MA (Multiple Answer)	複数回答 MA : 当てはまるもの全てに回答 MA ≤ ○: 選択項目の中から○項目まで回答 ※例えば、「 MA ≤ 3」とは、選択項目の中から「3つまで」選択するということを示す。 MA = ○: 選択項目の中から○項目回答 ※例えば、「 MA = 3」とは、選択項目の中から「3つ」選択するということを示す。
FA (Free Answer)	自由回答

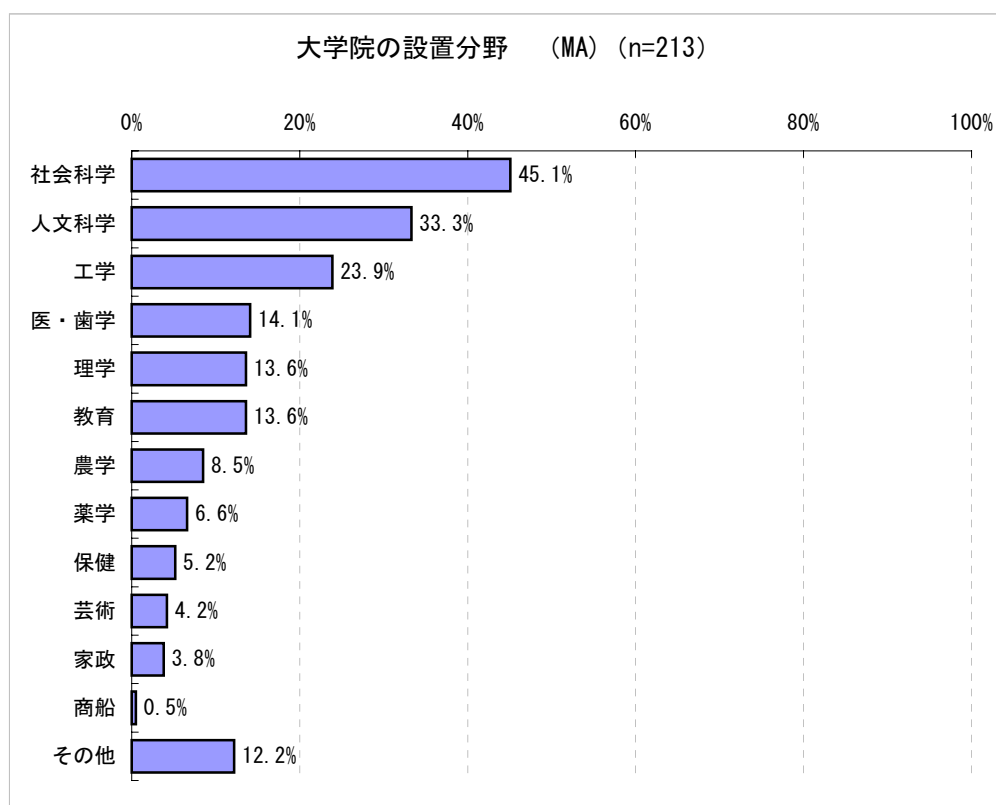
■ クロス集計における留意事項

略称名	意味
専攻分野別	問18の「回答者の専門分野(13分野)」とのクロス集計。 ※問1「大学院の設置分野」ではない点に留意。
分野系統別	問18の「回答者の専門分野」(13分野)を、「文系」、「理工系」、「医・歯学系」、「その他系」に統合した上でのクロス集計。 文系: 「人文科学」、「社会科学」 理工系: 「理学」、「工学」、「農学」 医・歯学系: 「保健」、「医・歯学」、「薬学」 その他系: 「家政」、「教育」、「芸術」、「商船」、「その他」

1.2 アンケート結果

問1. 貴校が設置している大学院はどの分野に当てはまりますか。(MA)

設置している大学院の分野に関する設問である。各大学には複数の研究科が設置されているため、複数回答での回答を依頼した。「社会科学」(45.1%)、「人文科学」(33.3%)が上位にあがっており、今回のアンケートでは、文系の研究科を持つ大学からの回答割合が多い。さらに、「工学」(23.9%)、「医・歯学」(14.1%)などが続く。



問2. 貴校の大学院のカリキュラム内容で重視する点はどれですか。(MA)

大学院のカリキュラム内容で重視する点を尋ねたところ、「応用・実践問題の研究・学習に重点をおいた内容」(61.5%)、「特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容」(60.6%)、「学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習が可能な内容」(56.3%)などへの回答割合が多かった。

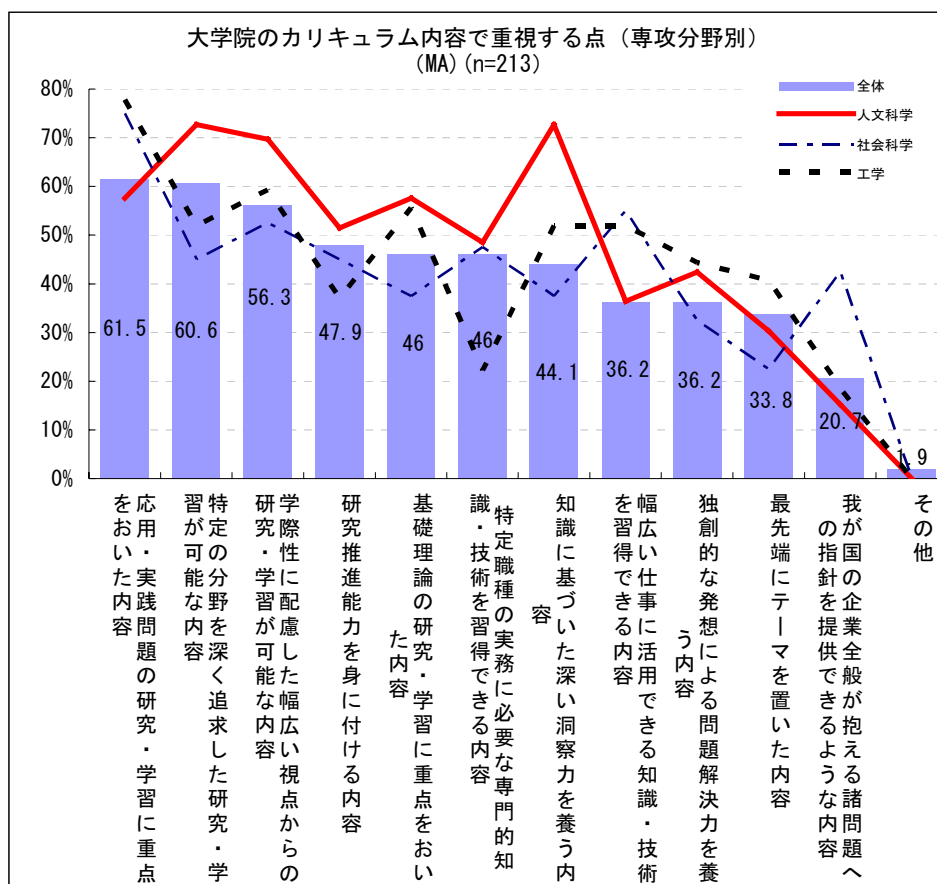
一方、「最先端にテーマを置いた内容」(33.8%)、「独創的な発想による問題解決能力を養う内容」(36.2%)などは、比較的低い水準となっている。

問18の「回答者の専門分野」をもとに、「専攻分野別」で回答を見ると、「人文科学」では、「特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容」(72.7%)、「知識に基づいた深い洞察力を養う内容」(72.7%)、「学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習が可能な内容」(69.7%)の順で回答割合が多い。

「社会科学」では「応用・実践問題の研究・学習に重点をおいた内容」(75%)が突出している。「工

学」においても、「応用・実践問題の研究・学習に重点をおいた内容」(77.8%)が最も回答割合が多く、次いで「学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習が可能な内容」(59.3%)、「基礎理論の研究・学習に重点をおいた内容」(55.6%)となっている。

サンプル数が少ないが、「医・歯学」では「研究推進能力を身につける内容」(75%)、「最先端にテーマを置いた内容」(75%)、「薬学」では、「特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容」(88.9%)、「研究推進能力を身につける内容」(77.8%)との結果が得られている。



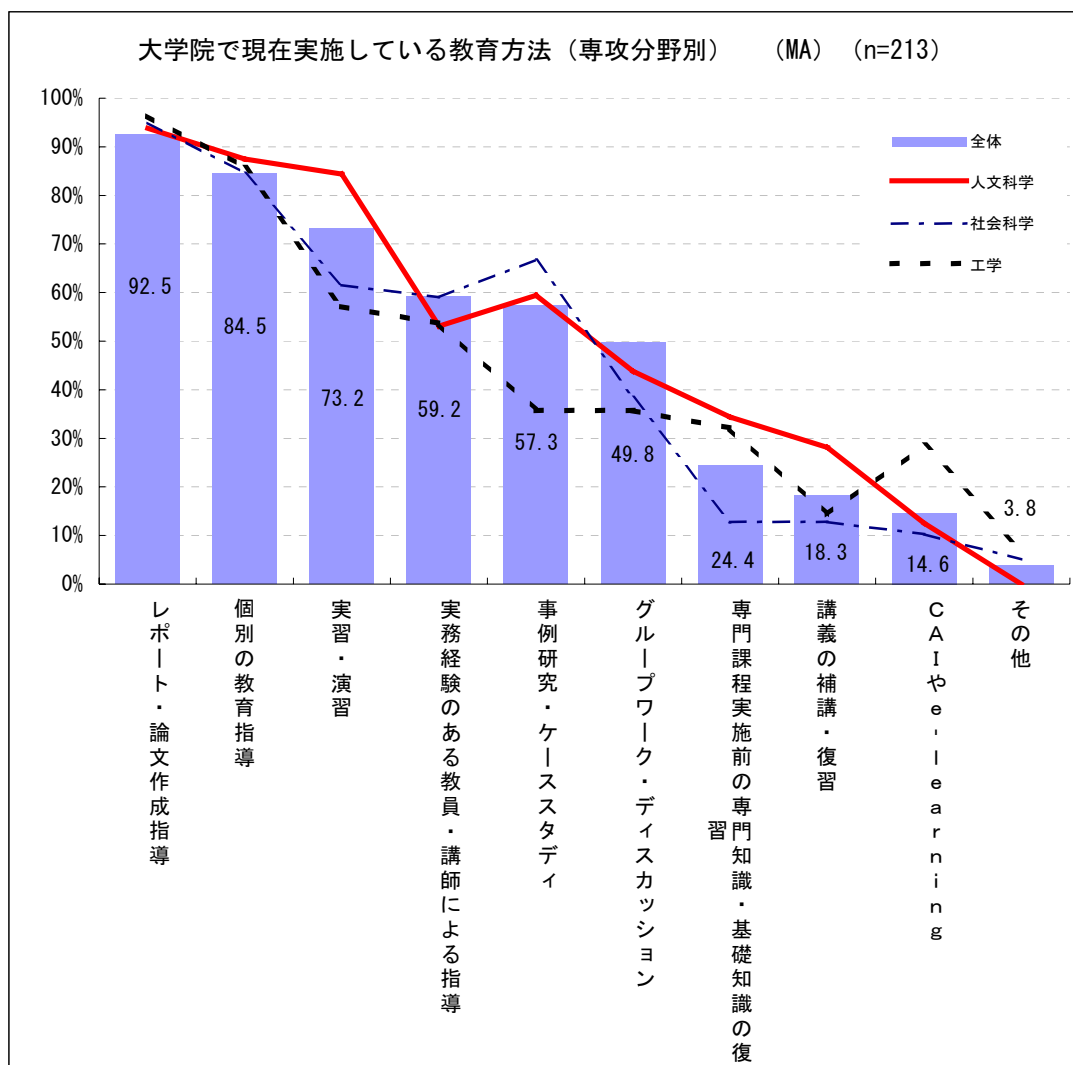
	応用・実践問題の研究・学習に重点をおいた内容	特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容	学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習	研究推進能力を身に付ける内容	基礎理論の研究・学習に重点をおいた内容	特定職種の実務に必要な専門的知識・技術を習得できる内容	知識に基づいた深い洞察力を養う内容	幅広い仕事に活用できる知識・技術を習得できる内容	幅広い仕事に活用できる知識・技術を習得できる内容	独創的な発想による問題解決力を養う内容	最先端にテーマを置いた内容	我が国の企業全般が抱える諸問題への指針を提供できるような内容	その他	n
全体	61.5	60.6	56.3	47.9	46.0	46.0	44.1	36.2	36.2	33.8	20.7	1.9	213	
人文科学	57.6	72.7	69.7	51.5	57.6	48.5	72.7	36.4	42.4	30.3	15.2	0	33	
社会科学	75.0	45.0	52.5	45.0	37.5	47.5	37.5	55.0	32.5	22.5	42.5	0	40	
理学	66.7	33.3	77.8	44.4	55.6	22.2	33.3	33.3	44.4	33.3	0	11.1	9	
工学	77.8	51.9	59.3	37.0	55.6	22.2	51.9	51.9	44.4	40.7	18.5	0	27	
農学	80.0	60.0	40.0	80.0	60.0	20.0	40	20.0	60.0	60.0	40.0	0	5	
医・歯学	55.0	70.0	50.0	75.0	50.0	55.0	40	30.0	45.0	75.0	0	0	20	
薬学	33.3	88.9	33.3	77.8	66.7	55.6	22.2	33.3	44.4	44.4	0	0	9	
保健	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	100	0	0	100.0	0	0	2	
商船	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
家政	0	50.0	100.0	0	0	50.0	0	50.0	0	0	0	0	2	
教育	44.4	44.4	22.2	22.2	33.3	33.3	33.3	0	0	22.2	11.1	11.1	9	
芸術	0	100.0	50.0	50.0	0	0	50	0	0	0	0	0	2	
その他	88.9	66.7	66.7	66.7	22.2	66.7	11.1	22.2	55.6	33.3	11.1	11.1	9	

(n以外は%)

問3. 大学院において、現在実施している教育方法、今後重視する教育方法はどれですか。(MA)

大学院において現在実施している教育方法としては、「レポート・論文作成指導」(92.5%)、「個別の教育指導」(84.5%)、「実習・演習」(73.2%)となっている。

「専攻分野別」で回答を見た場合にも、全般的に「レポート・論文作成指導」、「個別の教育指導」への回答割合が多く、現在実施している教育方法として最も定着している様子が見える。



	レポート・論文作成指導	個別的教育指導	実習・演習	実務経験のある教員・講師による指導	事例研究・ケーススタディ	グループワーク・ディスカッション	専門課程実施前の専門知識・基礎知識の復習	講義の補講・復習	CAIやe-learning	その他	n
全体	92.5	84.5	73.2	59.2	57.3	49.8	24.4	18.3	14.6	3.8	213
人文科学	93.8	87.5	84.4	53.1	59.4	43.8	34.4	28.1	12.5	0	32
社会科学	94.9	84.6	61.5	59.0	66.7	38.5	12.8	12.8	10.3	5.1	39
理学	100.0	100.0	75.0	37.5	50.0	75.0	12.5	12.5	12.5	12.5	8
工学	96.4	85.7	57.1	53.6	35.7	35.7	32.1	14.3	28.6	7.1	28
農学	100.0	40.0	80.0	60.0	40.0	40.0	20.0	0	0	0	5
医・歯学	95.2	85.7	81.0	81.0	42.9	42.9	28.6	14.3	4.8	0	21
薬学	77.8	77.8	77.8	66.7	55.6	33.3	11.1	0	22.2	0	9
保健	50.0	50.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0	0	0	2
商船	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家政	100.0	100.0	100.0	0	50.0	0	50.0	0	50.0	0	2
教育	100.0	77.8	88.9	33.3	88.9	77.8	33.3	33.3	11.1	0	9
芸術	50.0	100.0	50.0	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	100.0	100.0	88.9	77.8	77.8	88.9	33.3	22.2	22.2	0	9

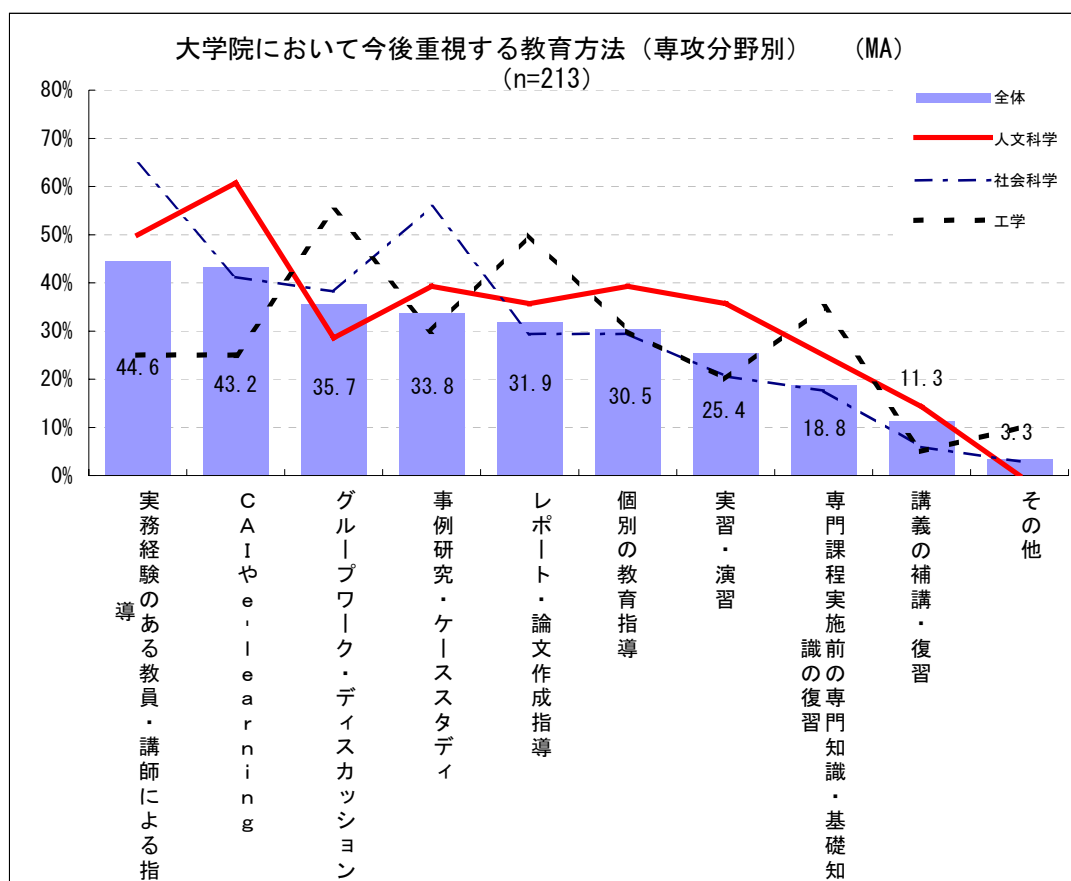
(n以外は%)

一方、今後重視してゆく教育方法では、「実務経験のある教員・講師による指導」(44.6%)、「グループワーク・ディスカッション」(35.7%)、「事例研究・ケーススタディ」(33.8%)など、より実社会への適用などを見越した実務的な方法を取り入れたいとの意向が見て取れる。また、「CAI (Computer

Aided Instruction: コンピュータ支援教育)やe-learning」(43.2%)など情報システムを活用した教育方法に対する利用意向も強い。

「専攻分野別」に見ると、「人文科学」では「CAIやe-learning」(60.7%)が最も多く、「実務経験のある教員・講師による指導」(50%)である。「社会科学」では、「実務経験のある教員・講師による指導」(64.7%)、「事例研究・ケーススタディ」(55.9%)、「工学」では、「グループワーク・ディスカッション」(55%)、「レポート・論文作成指導」(50%)となっている。

参考までに、「医・歯学」では、「CAIやe-learning」(50%)が最も回答割合が多い。



	実務経験のある教員・講師による指導	AIやe-learning	グループワーク・ディスカッション	事例研究・ケーススタディ	レポート・論文作成指導	個別的教育指導	実習・演習	専門知識・基礎知識の復習	専門課程実施前の専門知識・基礎知識	講義の補講・復習	その他	n
全体	44.6	43.2	35.7	33.8	31.9	30.5	25.4	18.8	11.3	3.3	213	
人文科学	50.0	60.7	28.6	39.3	35.7	39.3	35.7	25.0	14.3	0	28	
社会科学	64.7	41.2	38.2	55.9	29.4	29.4	20.6	17.6	5.9	2.9	34	
理学	28.6	71.4	42.9	42.9	42.9	57.1	28.6	57.1	28.6	14.3	7	
工学	25.0	25.0	55.0	30.0	50.0	30.0	20.0	35.0	5.0	10.0	20	
農学	60.0	80.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0	0	0	5	
医・歯学	38.9	50.0	38.9	27.8	27.8	27.8	33.3	11.1	5.6	5.6	18	
薬学	66.7	44.4	77.8	33.3	44.4	22.2	33.3	22.2	0	11.1	9	
保健	0	100.0	0	0	0	0	0	0	50.0	0	2	
商船	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
家政	100.0	0	50.0	0	0	0	0	0	0	0	2	
教育	62.5	50.0	50.0	37.5	50.0	37.5	25.0	25.0	25.0	0	8	
芸術	100.0	0	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	0	0	0	2	
その他	55.6	88.9	44.4	55.6	44.4	44.4	33.3	22.2	33.3	0	9	

(n以外は%)

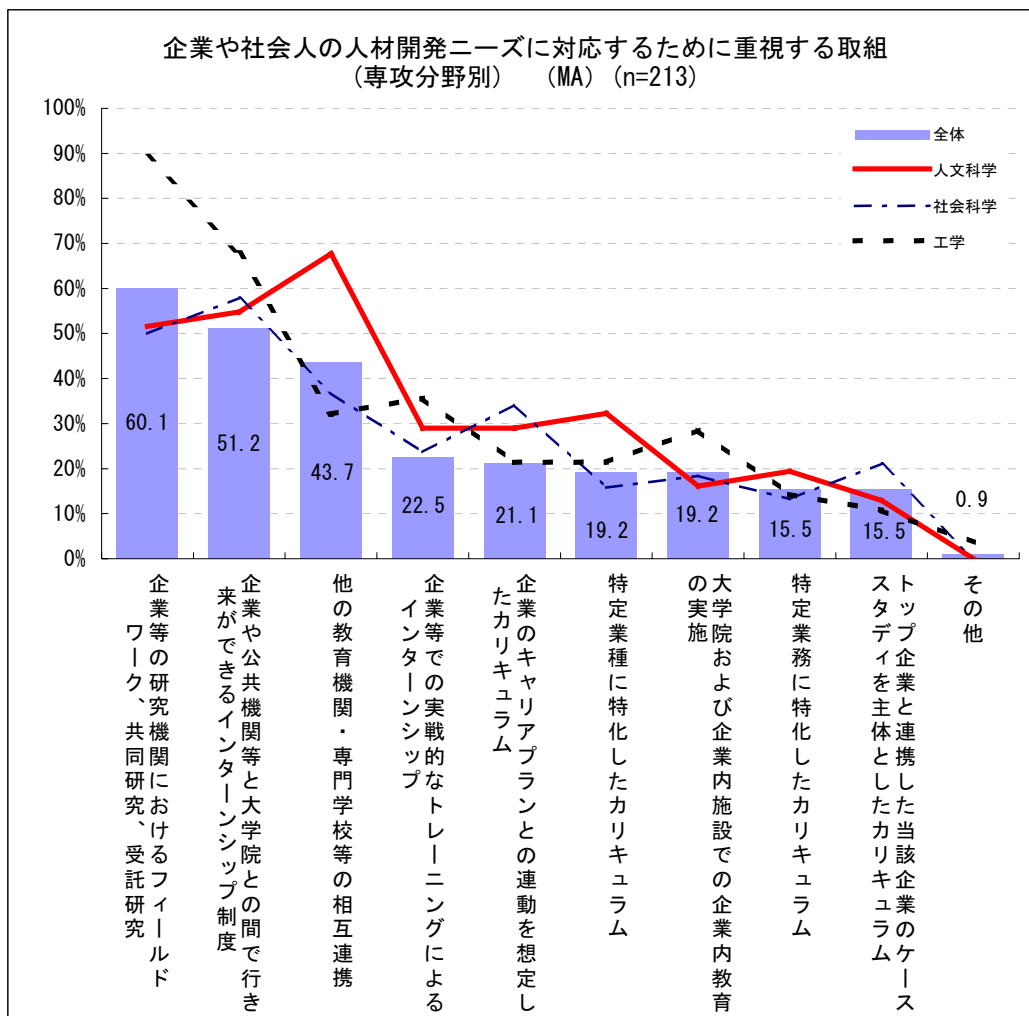
問4. 大学院において、企業や社会人等の人材開発ニーズにこたえるために、重視したい取組はどれですか。(MA)

企業や社会が求める人材を輩出するために重視したい取組を尋ねたところ、「企業等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究」(60.1%)が高く、「企業や公共機関等と大学院との間で行き来ができるインターンシップ制度」(51.2%)がそれに続く。大学院と企業や公共機関等との間で、様々な形で人が交流しながら研究をするというスタイルでの教育を重視する傾向が見受けられる。

「専攻分野別」に見ると、「人文科学」では「他の教育機関・専門学校等の相互連携」(67.7%)、「企業や公共機関等と大学院との間で行き来ができるインターンシップ制度」(54.8%)の順で回答割合が多い。「社会科学」では「企業や公共機関等と大学院との間で行き来ができるインターンシップ制度」(57.9%)、「企業等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究」(50%)となっている。

「工学」では、「企業等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究」(89.3%)と回答した人が9割近くにのぼる。「企業や公共機関等と大学院との間で行き来ができるインターンシップ制度」(67.9%)も回答者の割合が多い。

「企業等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究」と回答したのは、「医・歯学」(81.3%)、「薬学」(71.4%)でも多く、専攻分野に問わず多くの人が重視する傾向が見られる。



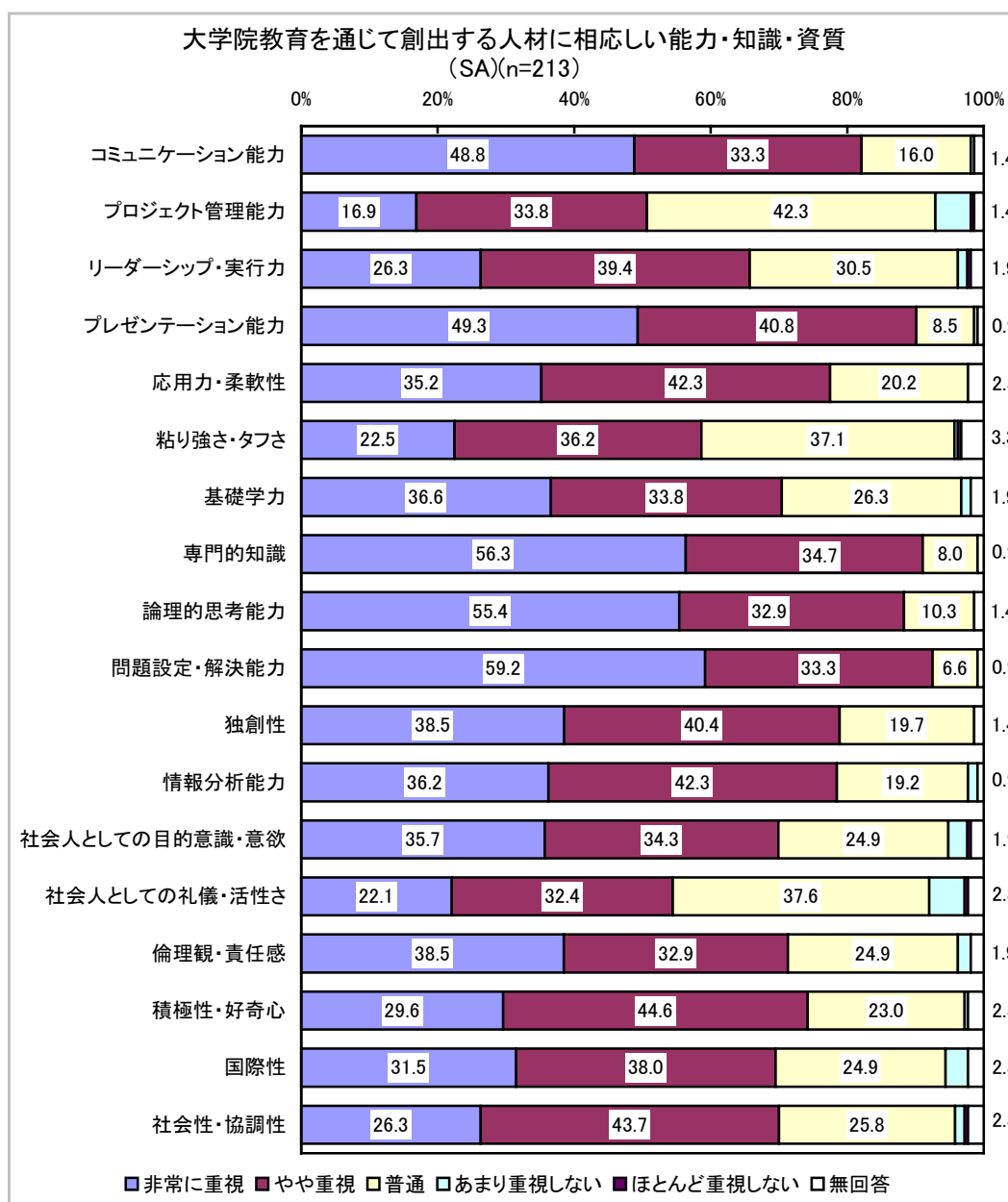
	企業等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究	企業や公共機関等と大学院との間で行き来ができるインターンシップ制度	他の教育機関・専門学校等の相互連携	企業等での実践的なトレーニングによるインターンシップ	企業のキャリアプランとの連動を想定したカリキュラム	特定業種に特化したカリキュラム	大学院および企業内施設での企業内教育の実施	特定業務に特化したカリキュラム	トップ企業と連携した当該企業のケーススタディが主体のカリキュラム	その他	n
全体	60.1	51.2	43.7	22.5	21.1	19.2	17.4	15.5	15.5	0.9	213
人文科学	51.6	54.8	67.7	29.0	29.0	32.3	16.1	19.4	12.9	0	31
社会科学	50.0	57.9	36.8	23.7	34.2	15.8	18.4	13.2	21.1	0	38
理学	87.5	75.0	50.0	37.5	37.5	12.5	12.5	12.5	25.0	0	8
工学	89.3	67.9	32.1	35.7	21.4	21.4	28.6	14.3	10.7	3.6	28
農学	100.0	40.0	60.0	20.0	0	20.0	0	0	40.0	0	5
医・歯学	81.3	56.3	81.3	6.3	0	12.5	6.3	18.8	12.5	0	16
薬学	71.4	42.9	28.6	14.3	0	0	14.3	28.6	0	0	7
保健	50.0	50.0	100.0	0	100.0	100.0	0	50.0	50.0	0	2
商船	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家政	100.0	50.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
教育	33.3	33.3	55.6	0	22.2	11.1	0	11.1	0	0	9
芸術	0	0	100.0	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	66.7	66.7	55.6	11.1	0	33.3	22.2	33.3	11.1	0	9

(n以外は%)

問5. 貴校の大学院教育を通じて創出する人材像として相応しい能力・知識・資質等を5段階で評価してください。(SA)

大学院教育を通じて身につけて欲しい能力・知識・資質等を回答してもらうことで、大学院教育を通じて輩出する人材像を示したものである。非常に重視する、やや重視するに着目してみると、最も多い項目は「問題設定・解決能力」(非常に重視する:59.2%、やや重視する:33.3%)、「専門的知識」(56.3%、34.7%)、「論理的思考能力」(55.4%、32.9%)など思考能力や知識を身につけてもらいたいとの意向がうかがえる。

続いて、「プレゼンテーション能力」(49.3%、40.8%)、「コミュニケーション能力」(48.8%、33.3%)などへの回答が多く、対人的な表現能力向上への意識の強さが見て取れる。



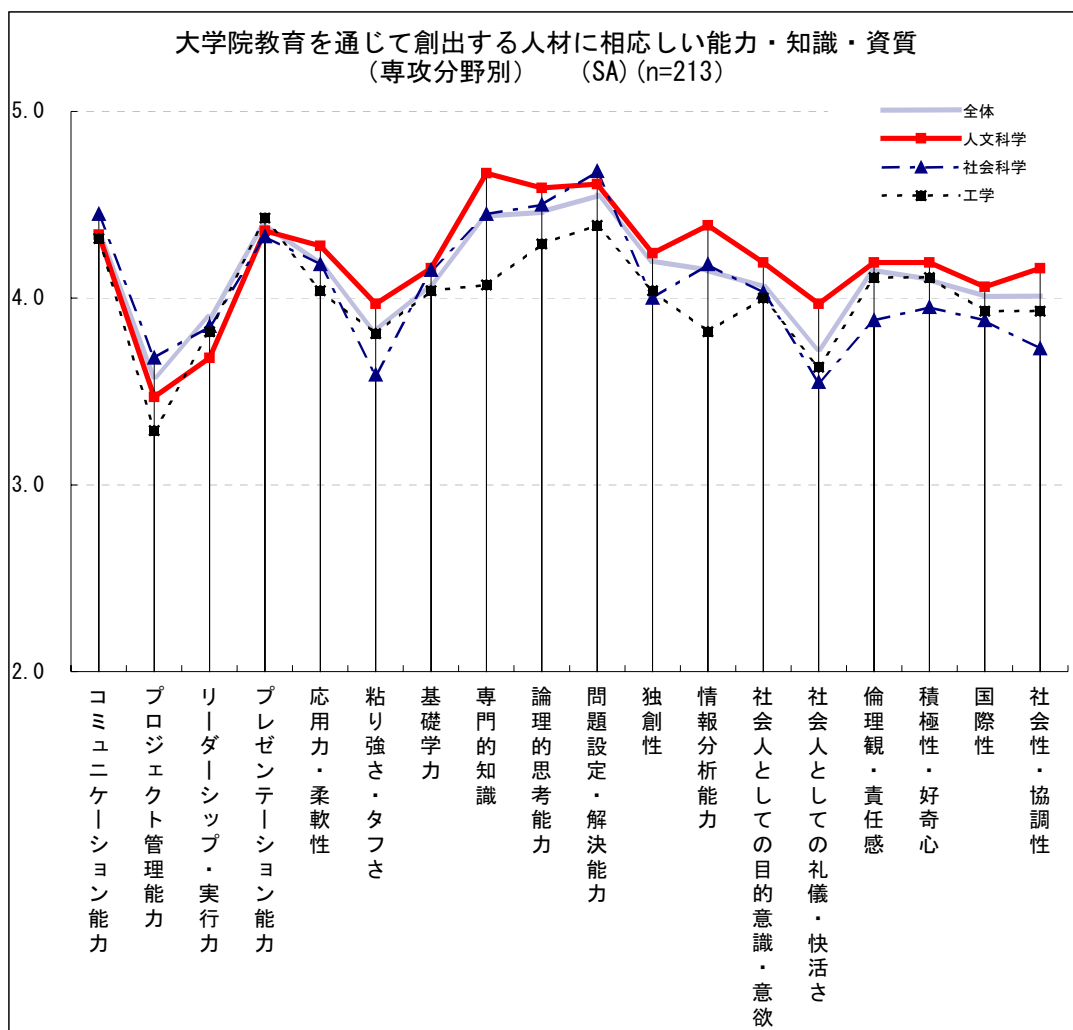
次のグラフは、同じデータを「非常に重視」を5、「やや重視」を4、「普通」を3、「あまり重視しない」を2、「ほとんど重視しない」を1と数量化し、専攻分野別に平均値を算出したものである。

「人文科学」は「専門的知識」(4.67)、「問題設定・解決能力」(4.61)、「論理的思考能力」(4.59)を重視する傾向がある。平均値と比べて「情報分析能力」(4.39)、「社会人としての礼儀、快活さ」(3.97)が高く、逆に「プロジェクト管理能力」(3.47)、「リーダーシップ・実行力」(3.68)は低い。

「社会科学」では、「問題設定・解決能力」(4.68)を最も重視しており、平均値よりも高い。平均値より低いのは、「倫理観」(3.88)、「積極性・好奇心」(3.95)、「独創性」(4.00)等である。「工学」では、

「プレゼンテーション能力」(4.43)、「問題設定・解決能力」(4.39)、「コミュニケーション能力」(4.32)が高い。平均値より高いものは少なく、平均値よりも低いものは「専門的知識」(4.07)、「プロジェクト管理能力」(3.29)等である。

「医・歯学」では、「問題設定・解決能力」(4.76)、「独創性」(4.71)、「論理的思考能力」(4.57)、「倫理観・責任感」(4.57)が最も高く、それぞれ平均値よりも高い。「理学」では、「基礎学力」(4.22)が平均値よりも高い。



	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	保健	家政	教育	芸術	その他	n
コミュニケーション能力	4.35	4.34	4.45	4.33	4.32	4.40	4.00	4.78	5.00	4.00	4.11	3.50	4.67	213
プロジェクト管理能力	3.58	3.47	3.68	3.56	3.29	3.40	3.81	3.56	4.50	3.00	3.78	2.50	4.11	
リーダーシップ・実行力	3.90	3.68	3.85	4.00	3.82	3.60	4.05	4.00	5.00	4.00	4.22	3.00	4.33	
プレゼンテーション能力	4.40	4.36	4.33	4.44	4.43	4.60	4.19	4.44	5.00	5.00	4.56	4.00	4.67	
応用力・柔軟性	4.18	4.28	4.18	4.11	4.04	4.20	4.19	4.22	5.00	3.50	3.78	4.00	4.67	
粘り強さ・タフさ	3.82	3.97	3.59	4.00	3.81	3.60	3.90	3.78	4.50	3.50	3.67	4.00	4.22	
基礎学力	4.08	4.16	4.15	4.22	4.04	4.00	3.90	4.33	5.00	3.00	3.89	4.00	3.89	
専門的知識	4.44	4.67	4.45	4.00	4.07	4.60	4.48	4.56	5.00	4.50	4.56	4.50	4.56	
論理的思考能力	4.46	4.59	4.50	4.33	4.29	4.60	4.57	4.56	5.00	3.00	4.11	3.50	4.78	
問題設定・解決能力	4.55	4.61	4.68	4.22	4.39	4.60	4.76	4.44	5.00	3.50	4.44	3.50	4.67	
独創性	4.20	4.24	4.00	4.33	4.04	4.40	4.71	4.00	4.50	4.00	3.89	4.00	4.44	
情報分析能力	4.15	4.39	4.18	4.33	3.82	4.20	4.29	4.11	5.00	3.00	4.00	2.50	4.33	
社会人としての目的意識・意欲	4.06	4.19	4.03	3.89	4.00	3.60	4.00	4.00	5.00	3.50	4.33	3.00	4.44	

社会人としての礼儀・快 活さ	3.73	3.97	3.55	3.56	3.63	3.40	3.80	3.78	5.00	4.00	3.89	3.00	3.89
倫理観・責任感	4.15	4.19	3.88	4.22	4.11	3.50	4.57	4.44	5.00	4.00	4.11	3.00	4.44
積極性・好奇心	4.10	4.19	3.95	4.22	4.11	3.60	4.43	4.22	4.50	4.00	4.00	3.50	3.78
国際性	4.01	4.06	3.88	3.78	3.93	4.25	4.24	4.22	4.50	3.50	4.00	4.00	4.00
社会性・協調性	4.01	4.16	3.73	4.22	3.93	3.80	4.19	4.22	4.50	4.00	4.33	3.00	4.00

問6. 大学院から上記のあるべき人材を創出するにあたり、大学院生に特に不足している資質・能力・知識等を問5の1～18の項目から4つ選んでください。(MA=4)

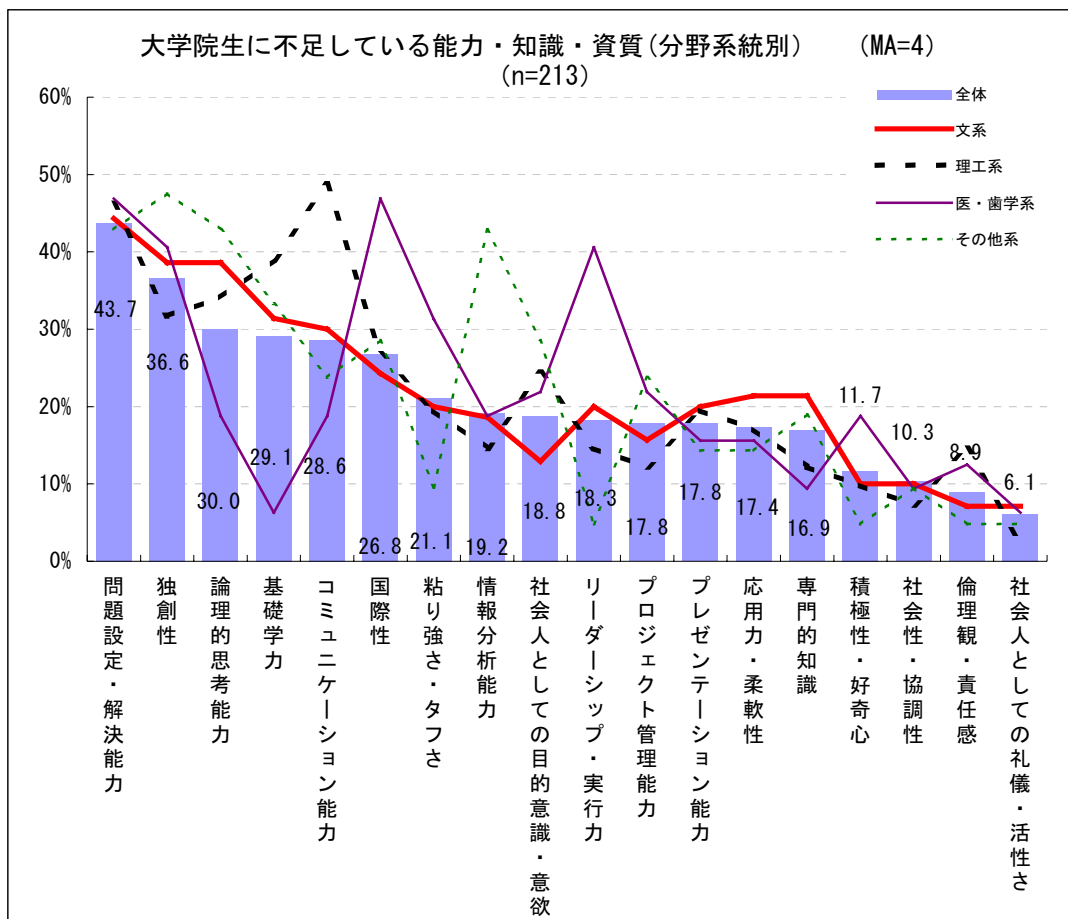
この設問は、今の大学院生に不足している能力・知識・資質等を同一項目で尋ねたものである。「問題設定・解決能力」(43.7%)、「独創性」(36.6%)、「論理的思考能力」(30%)、「基礎学力」(29.1%)、「コミュニケーション能力」(28.6%)が上位にあげられた。問5で、『大学院で創出したい人材像』として挙げられた知識・能力が、今の大学院生に不足していると捉えられている人が多いことが見て取れる。

問5と比較して、「プレゼンテーション能力」(17.8%)は相対的に低く、不足しているとの回答は少ない。逆に、「独創性」(36.6%)は前の設問ではそれほど上位ではなかったが不足している能力としては2番目に位置付けられている。ここから、独創性などは大学院教育以前に身につけてもらいたい能力として認識されているものと推察できる。

「分野系統別」の「文系」では、「問題設定・解決能力」(44.3%)、「独創性」(38.6%)への回答割合が多い。また、平均より多いのは「論理的思考能力」(38.6%)、「基礎学力」(31.4%)である。

「理工系」では、「コミュニケーション能力」(48.8%)、「問題設定・解決能力」(46.3%)、「基礎学力」(39%)の割合が多い。特に、「コミュニケーション能力」と「基礎学力」は平均よりも多い。

「医・歯学系」では、「問題設定能力」(46.9%)、「国際性」(46.9%)、「独創性」(40.6%)、「リーダーシップ・実行力」(40.6%)が多く、平均値より高いのが「国際性」(46.9%)、「リーダーシップ・実行力」(40.6%)、「粘り強さ・タフさ」(31.3%)である。

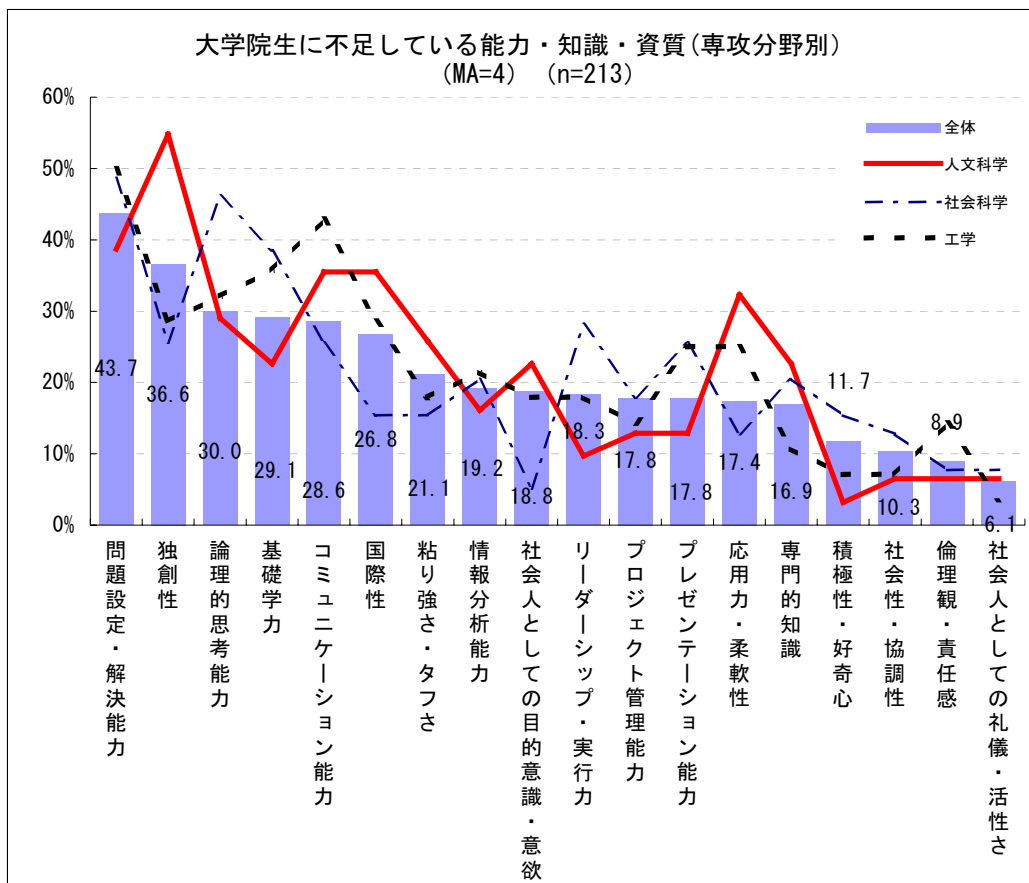


	問題設定・解決能力	獨創性	論理的思考能力	基礎学力	コミュニケーション能力	国際性	粘り強さ・タフさ	情報分析能力	的意識・意欲	社会人としての目的意識・意欲	実行力	リーダーシップ・実行力	プロジェクト管理能力	プレゼンテーション能力	応用力・柔軟性	専門的知識	積極性・好奇心	社会性・協調性	倫理観・責任感	儀・活性さ	社会人としての礼儀・活性さ	n
全体	43.7	36.6	30.0	29.1	28.6	26.8	21.1	19.2	18.8	18.3	17.8	17.8	17.4	16.9	11.7	10.3	8.9	6.1	6.1	213		
文系	44.3	38.6	38.6	31.4	30.0	24.3	20.0	18.6	12.9	20.0	15.7	20.0	21.4	21.4	10.0	10.0	7.1	7.1	7.1	70		
理工系	46.3	31.7	34.1	39.0	48.8	26.8	19.5	14.6	24.4	14.6	12.2	19.5	17.1	12.2	9.8	7.3	14.6	2.4	2.4	41		
医・歯学系	46.9	40.6	18.8	6.3	18.8	46.9	31.3	18.8	21.9	40.6	21.9	15.6	15.6	9.4	18.8	9.4	12.5	6.3	6.3	32		
その他系	42.9	47.6	42.9	33.3	23.8	28.6	9.5	42.9	28.6	4.8	23.8	14.3	14.3	19.0	4.8	9.5	4.8	4.8	4.8	21		

(n以外は%)

「専攻分野別」で見ると、「人文科学」は「獨創性」(54.8%)が最も回答割合が多く、平均よりも大分高い。「社会科学」では、「問題設定・解決能力」(48.7%)、「論理的思考能力」(46.2%)、「基礎学力」(38.5%)が多い。

「工学」では、「問題設定・解決能力」(50%)、「コミュニケーション能力」(42.9%)、「基礎学力」(35.7%)の順で多く、いずれも平均値よりも高い値となっている。



	問題設定・解決能力	独創性	論理的思考能力	基礎学力	コミュニケーション能力	国際性	粘り強さ・タフさ	情報分析能力	社会人としての目的意識・意欲	リーダーシップ・実行力	プロジェクト管理能力	プレゼンテーション能力	応用力・柔軟性	専門的知識	積極性・好奇心	社会性・協調性	倫理観・責任感	社会人としての礼儀・活性さ	n
全体	43.7	36.6	30	29.1	28.6	26.8	21.2	19.2	18.3	18.3	17.4	17.8	17.8	16.9	11.7	6.1	10.3	8.9	164
人文科学	38.7	54.8	29	22.6	35.5	35.5	25.8	16.1	22.6	9.7	12.9	12.9	32.3	22.6	3.2	6.5	6.5	6.5	31
社会科学	48.7	25.6	46.2	38.5	25.6	15.4	15.4	20.5	5.1	28.2	17.9	25.6	12.8	20.5	15.4	12.8	7.7	7.7	39
理学	50	37.5	37.5	62.5	62.5	12.5	12.5	0	37.5	0	0	0	0	25	25	12.5	12.5	0	8
工学	50	28.6	32.1	35.7	42.9	28.6	17.9	21.4	17.9	17.9	14.3	25	25	10.7	7.1	7.1	14.3	3.6	28
農学	20	40	40	20	60	40	40	0	40	20	20	20	0	0	0	0	20	0	5
医・歯学	38.1	42.9	19	4.8	9.5	57.1	33.3	23.8	23.8	33.3	23.8	9.5	19	4.8	19	14.3	19	4.8	21
薬学	55.6	44.4	11.1	11.1	33.3	33.3	33.3	11.1	11.1	55.6	11.1	22.2	11.1	22.2	22.2	0	0	11.1	9
保健	100	0	50	0	50	0	0	0	50	50	50	50	0	0	0	0	0	0	2
商船	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家政	50	0	50	0	50	50	0	50	50	0	100	0	0	0	0	0	0	0	2
教育	22.2	66.7	33.3	33.3	22.2	33.3	11.1	33.3	22.2	0	11.1	11.1	22.2	33.3	11.1	11.1	11.1	11.1	9
芸術	50	50	100	0	0	0	0	50	50	50	0	50	0	0	0	0	0	0	2
その他	62.5	37.5	37.5	50	25	25	12.5	50	25	0	25	12.5	12.5	12.5	0	12.5	0	0	8

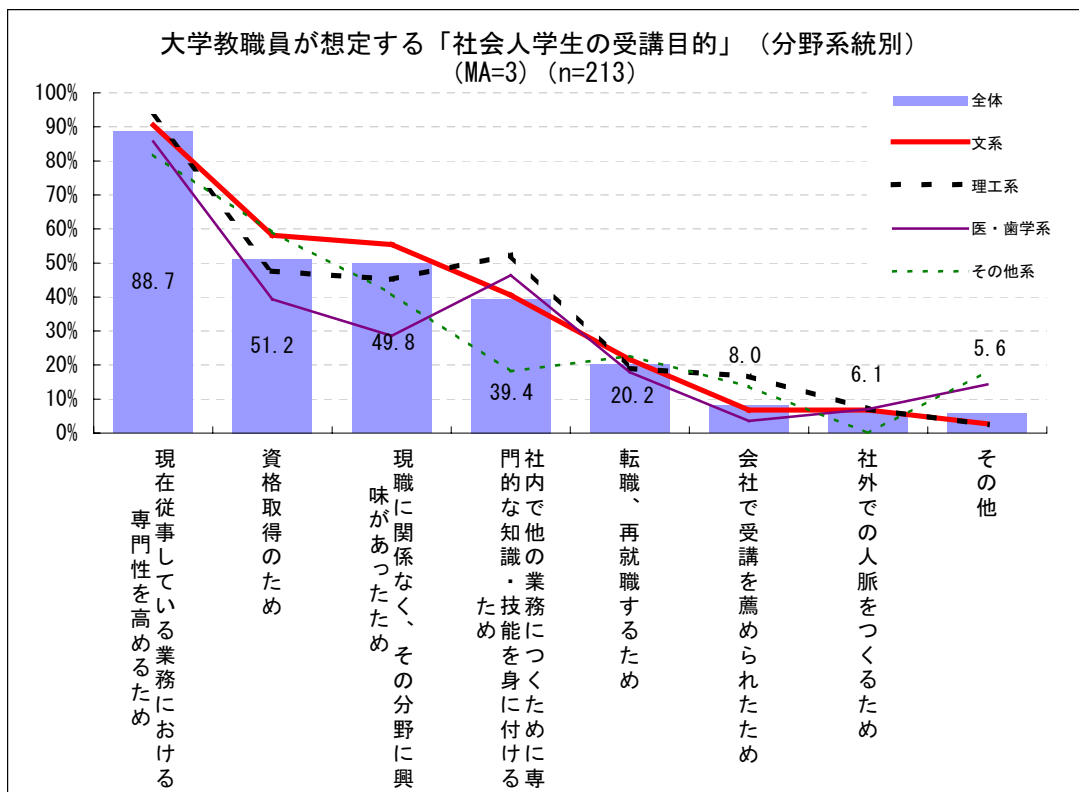
(n以外は%)

問7. 貴校の社会人学生の認識についてお尋ねします。「社会人学生が大学院で教育を受ける主な目的・動機」は次のどれだとお考えですか。(MA=3)

社会人学生がどのような目的で大学院で受講しているのか、大学側の認識を問う設問である。大学側では、「現在従事している業務における専門性を高めるため」(88.7%)と回答した人が9割近くにのぼる。社会人の多くは現職の業務の専門性を高めるために受講しているものと、ほとんどの教職員が捉えていることがわかる。

その他の回答としては、「資格取得のため」(51.2%)、「現職に関係なく、その分野に興味があったため」(49.8%)等が続く。

「分野系統別」で見た場合にも、全般的に分野系統別の差はそれほどない。違いとしては、「医・歯学系」で、「資格取得のため」(39.3%)、「現職に関係なく、その分野に興味があったから」(28.6%)が平均値よりも低いなどが挙げられる。

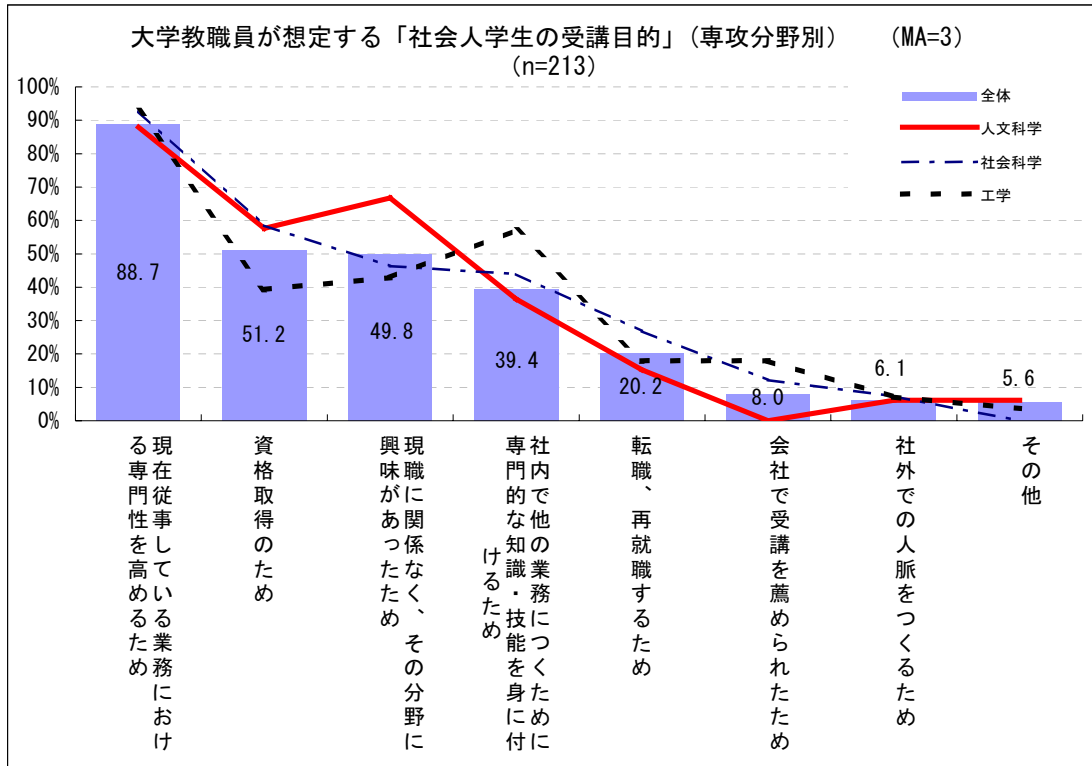


	現在従事している業務における専門性を高めるため	資格取得のため	現職に関係なく、その分野に興味があったため	現職に専門的な知識・技能を身に付けるため	社内での他の業務につくために専門的な知識・技能を身に付けるため	転職、再就職するため	会社で受講を薦められたため	社外での人脈をつくるため	その他	n
全体	88.7	51.2	49.8	39.4	20.2	8.0	6.1	5.6	213	
文系	90.5	58.1	55.4	40.5	21.6	6.8	6.8	2.7	74	
理工系	92.9	47.6	45.2	52.4	19.0	16.7	7.1	2.4	42	
医・歯学系	85.7	39.3	28.6	46.4	17.9	3.6	7.1	14.3	28	
その他系	81.8	59.1	40.9	18.2	22.7	13.6	0	18.2	22	

(n以外は%)

「専攻分野別」で見ると、「現職に関係なく、その分野に興味があったため」に対する回答では「人文科学」(66.7%)が平均値より多い。「社内での他の業務につくために専門的な

知識・技能を身につけるため」では「工学」(57.1%)が平均値より高い。「資格取得のため」に対する回答としては、「工学」(39.3%)、「医・歯学」(33.3%)が平均値より特に低い。

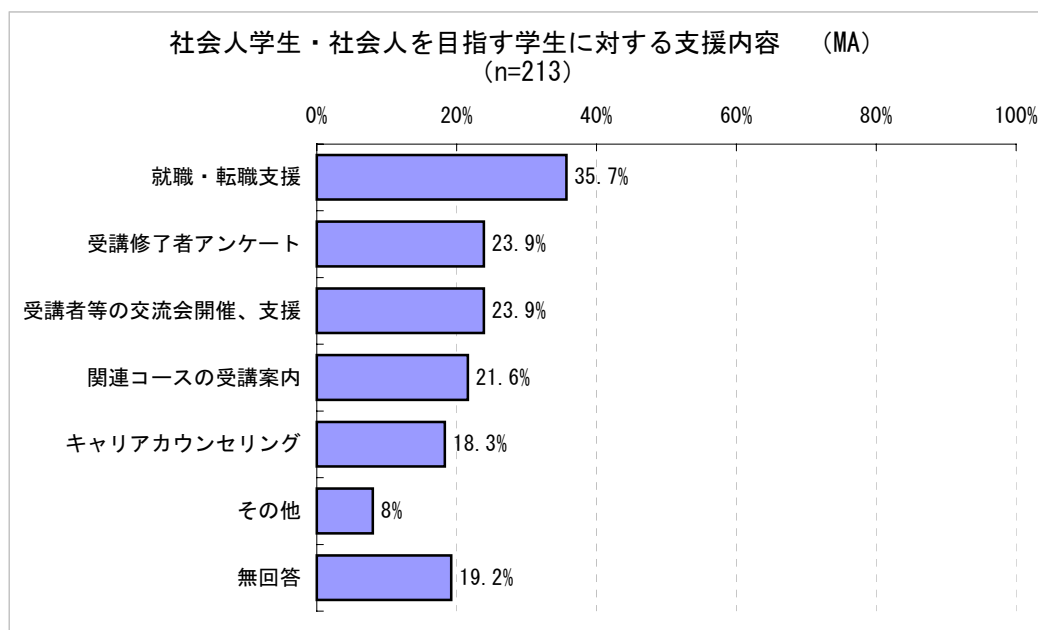


	現在従事している業務における専門性を高めるため	資格取得のため	現職に関係なく、その分野に興味があったため	社内で他の業務につくために専門的な知識・技能を身につけるため	転職、再就職するため	会社で受講を薦められたため	社外での人脈をつくるため	その他	n
全体	88.7	51.2	49.8	39.4	20.2	8.0	6.1	5.6	213
人文科学	87.9	57.6	66.7	36.4	15.2	0	6.1	6.1	33
社会科学	92.7	58.5	46.3	43.9	26.8	12.2	7.3	0	41
理学	100.0	66.7	44.4	44.4	11.1	22.2	11.1	0	9
工学	92.9	39.3	42.9	57.1	17.9	17.9	7.1	3.6	28
農学	80.0	60.0	60.0	40.0	40.0	0	0	0	5
医・歯学	88.9	33.3	38.9	44.4	16.7	5.6	11.1	11.1	18
薬学	75.0	50.0	12.5	37.5	12.5	0	0	25.0	8
保健	100.0	50.0	0	100.0	50.0	0	0	0	2
商船	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家政	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0	0	0	2
教育	100.0	88.9	44.4	22.2	22.2	22.2	0	0	9
芸術	100.0	50.0	50.0	50.0	0	50.0	0	0	2
その他	55.6	33.3	33.3	0	22.2	0	0	44.4	9

(n以外は%)

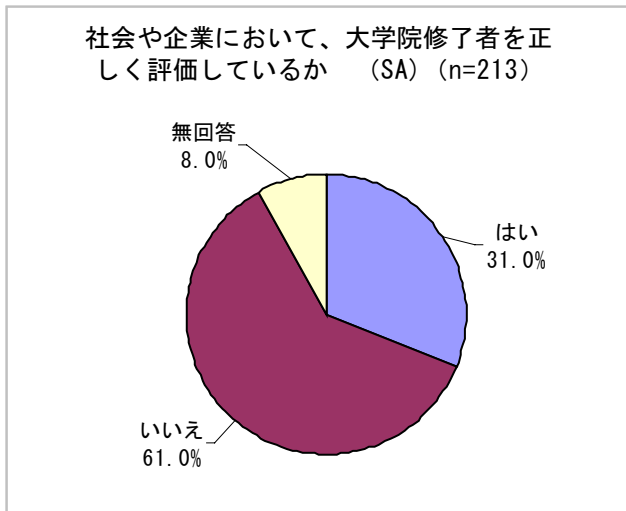
問8. 社会人学生、社会人を目指す学生に対し、実施していることは次のうちどれですか。(MA)

社会人学生や社会人となる学生に対する支援について尋ねたところ、「就職・転職支援」(35.7%)が多くあげられているものの、その他項目「受講修了者アンケート」(23.9%)、「受講者等の交流会開催、支援」(23.9%)等、実施しているとの回答が3割に満たない。「キャリアカウンセリング」(18.3%)は2割以下となっており、社会人に対するキャリアカウンセリング等はそれほど多くの学校で実施されていないと推察できる。



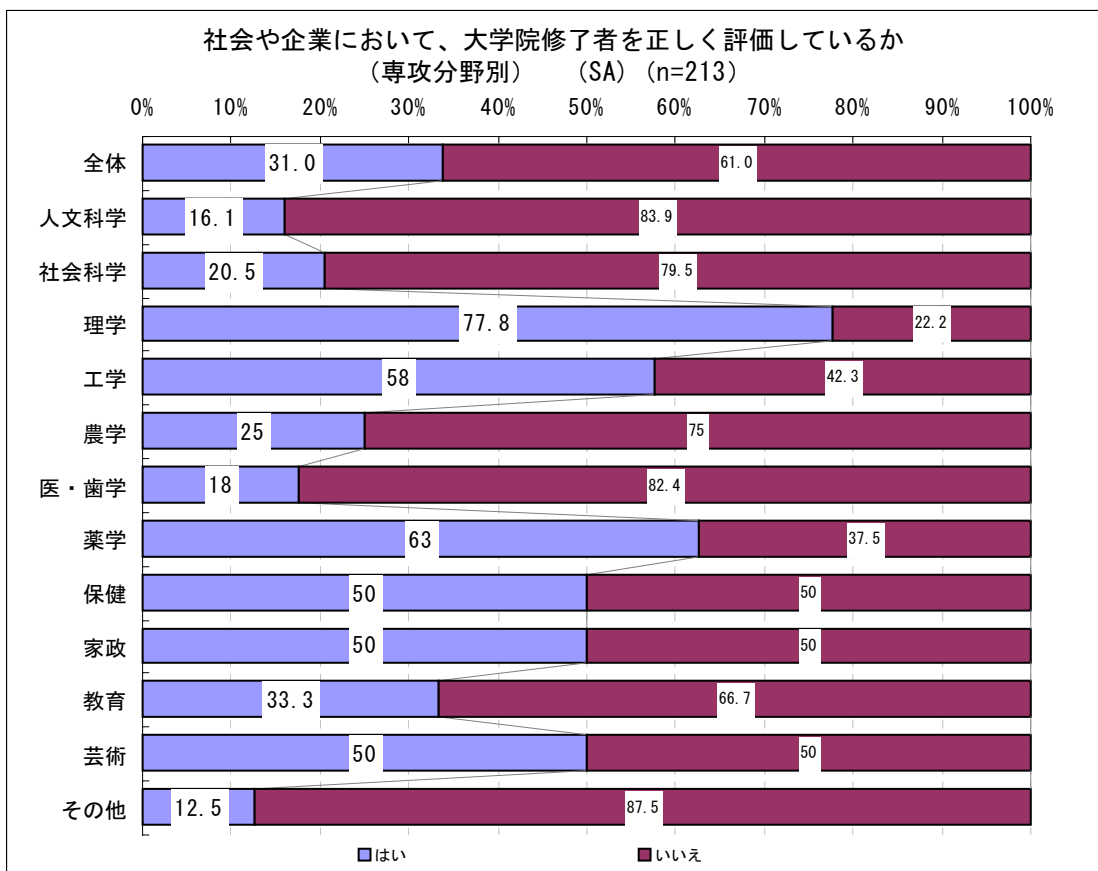
問9. 社会や企業では、大学院修了者の価値を正しく評価していると思いますか。(SA)

社会や企業では、大学院修了者の価値を正しく評価しているかとの問いに対し、「はい」(31.0%)、「いいえ」(61.0%)との回答が得られた。回答者の6割以上が、企業や社会で大学院修了者の価値が正しく評価されていない、と捉えていることがわかる。



「専攻分野別」の回答を見ると、「いいえ」との回答割合が高いのは、「人文科学」(16.1%)、「社会科学」(20.5%)となっており、大学院修了者が正しく評価されていない、と考える人の割合が多いことが分かる。また、「医・歯学」(82.4%)、「農学」(75%)でも大学院修了者が正しく評価されていないと捉えている人が多いことがうかがえる。

「はい」との回答割合が高いのは、「理学」(77.8%)、「工学」(58%)、「薬学」(63%)などであり、理工系では大学院修了者の価値が評価されていると捉えている人の割合が多い。



問10. 社会や企業における、大学院や大学院修了者の価値の評価を高めるために、国や大学が取り組むべきことについて具体的に記述してください。(FA)

主な回答は以下の通り。

大項目	小項目	件数
予算関連	財政支援	6
	研究予算、助成金の増額	4
	大学院予算の増額	1
	文化・芸術関連予算の増額	1
	国際性を高めるための予算措置	1
	予算・人員の削減	1
院生支援	奨学金・経済的支援	9
	院生の就職支援	1
教育・研究	人材養成に向けた大学の意識改革	7
	人材育成、能力向上	4
	実学的教育・研究の充実	4
	高度職業人養成の拡充	4
	カリキュラムの魅力向上	2
	基礎学力、基礎研究の重視	2
	実践的・実務的な教育	2
	研究環境整備	2
	大学内における大学院の地位の向上	2
	国際的に活躍できる人材の育成	1
	研究教育の充実	1
	研究内容の改善	1
	専門性の充実	1
	履修年数の改編	1
国・大学	評価制度の確立、学位等の社会的位置付けの明確化	8
	国家資格等の試験における院了者の優遇措置	5
	他大学との交流の促進	1
	大学院修了者の評価を下げること	1
産官学連携	企業等との交流促進、交流のシステム等の導入	6
	共同研究の推進	4
	国内外インターンシップ制度の導入・実施	3
企業・社会	院了者採用の職務・機能の明確化、処遇の優遇	20
	専門的人材の必要性を企業が認識すること	6
	院卒採用者の拡大、ポストクの採用	6
	雇用の確保、社会的需要の確保	6

大項目	小項目	件数
	企業による従業員の大学院通学支援	1
大学広報	大学における積極的な広報、PR	8
	リカレント教育促進の社会的コンセンサスの醸成	1
その他	国際化	1
	院了者の雇用確保に向けた大学側の積極的な雇用機会獲得	1
	国によるPR	1
	意見交換の場の創設	1
	時間的ゆとりを持たせること	1

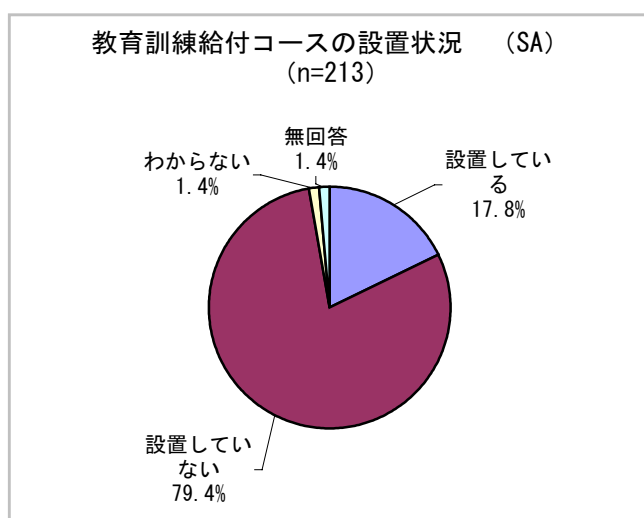
問11. 貴校の大学院では「教育訓練給付コース」を設置していますか。(SA)

教育訓練給付コースの設置状況に関する設問である。教育訓練給付コースとは以下のようなものである。なお、調査票にも同様の補足説明を付記した。

〔教育訓練給付コースとは〕

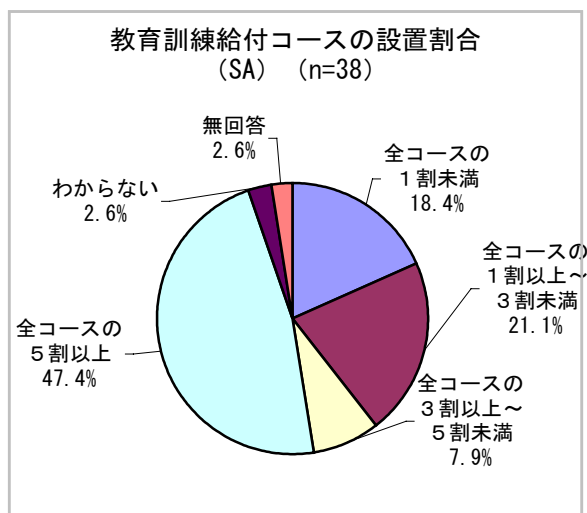
厚生労働省が労働者の自発的な職業能力の開発及び向上等を支援するために運営している「教育訓練給付制度」の指定を受けた教育訓練コースのこと。一定の要件を満たす雇用保険の被保険者(在職者)又は被保険者であった方(離職者)が、厚生労働大臣の指定する教育訓練コース(教育訓練給付コース)を受講し修了した場合、教育訓練施設に支払った経費の最大40%相当額(上限20万円)がハローワークから支給される。(詳しくは <http://www.kyufu.javada.or.jp/seido/>)

「設置している」(17.8%)、「設置していない」(79.4%)と、8割近くの回答者の学校で教育訓練給付コースを適用したコースを設置していないとの回答が得られた。



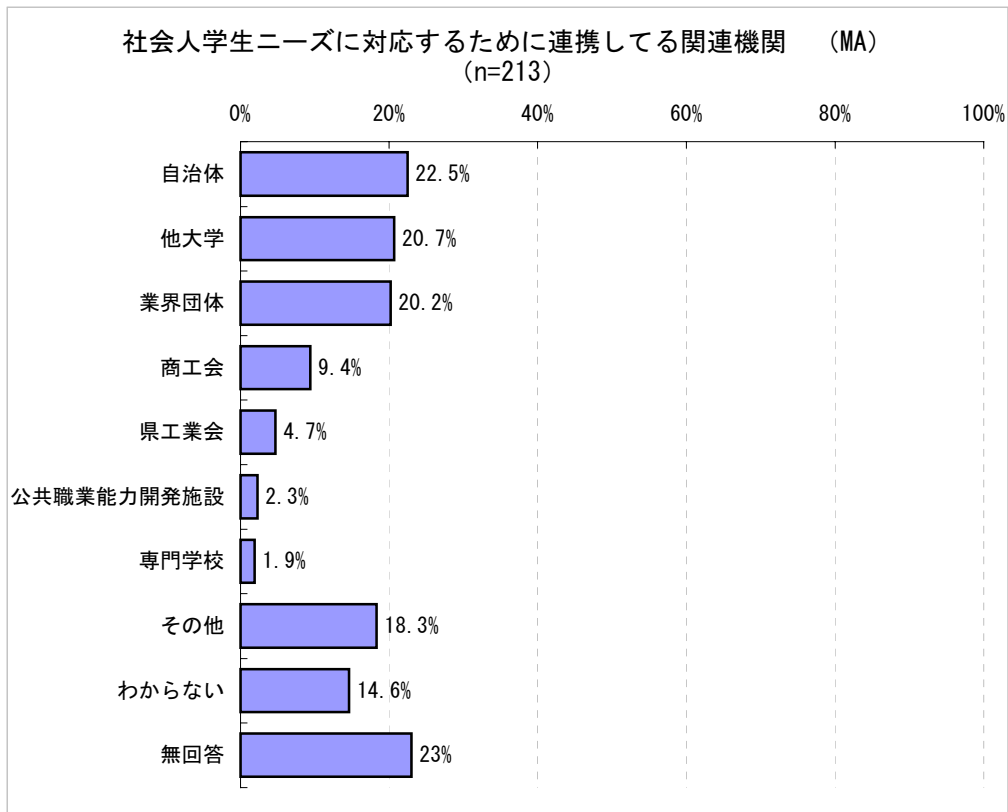
問12. 貴校の大学院・専門職大学院において、教育訓練給付コースとして認定されているコースの割合は次のうちの程度ですか。(SA)

問11で教育訓練給付コースを設置していると回答した方に、教育訓練給付コースとして認定されているコースの割合を尋ねたところ、「全コースの1割未満」(18.4%)、「全コースの1割~3割未満」(21.1%)、「全コースの3割以上~5割未満」(7.9%)、「全コースの5割以上」(47.4%)、となった。



問13. 社会人学生ニーズに対応するために、連携している関連機関は次のうちどれですか。(MA)

社会人学生の様々なニーズに対応するための施策として、関連機関との連携が考えられるが、その連携状況を尋ねたものである。「自治体」(22.5%)、「他大学」(20.7%)、「業界団体」(20.2%)との連携が上位に挙げられている。

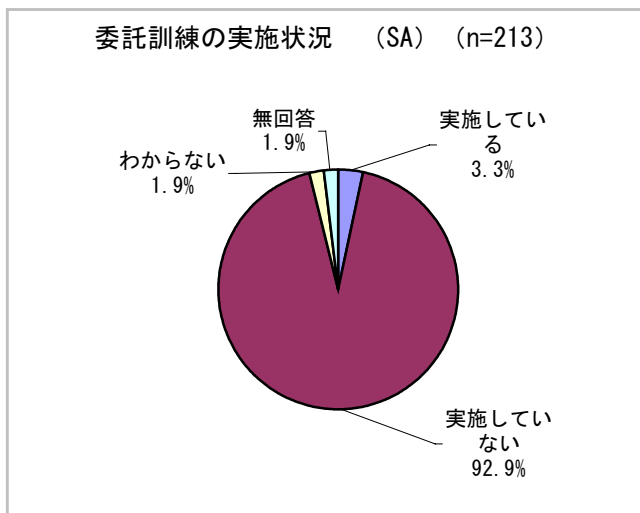


問14. 公共職業能力開発施設からの「委託訓練」を実施していますか。(SA)

公共職業能力開発施設からの「委託訓練」(下記参照)の実施状況に関して尋ねたところ、「実施している」(3.3%)、「実施していない」(92.9%)との回答が得られた。なお、調査票には以下と同様の補足説明を加えた。

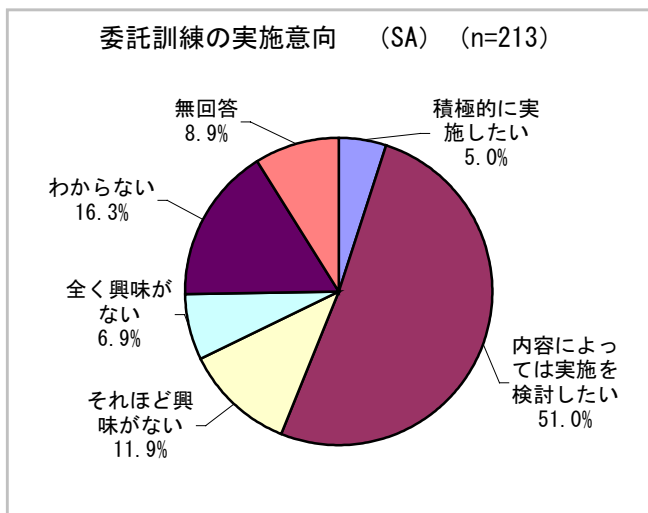
[委託訓練とは]

離転職者の方々の再就職を支援するため、国(雇用・能力開発機構)や都道府県では、専修学校、各種学校、大学、NPO法人等の民間教育訓練機関に再就職に役立つ職業能力の習得を図る訓練コースを設定し、訓練を委託している。これを「委託訓練」という。大学・大学院等に委託する場合の訓練期間は、3ヶ月から6ヶ月を標準とし、上限を1年としている。

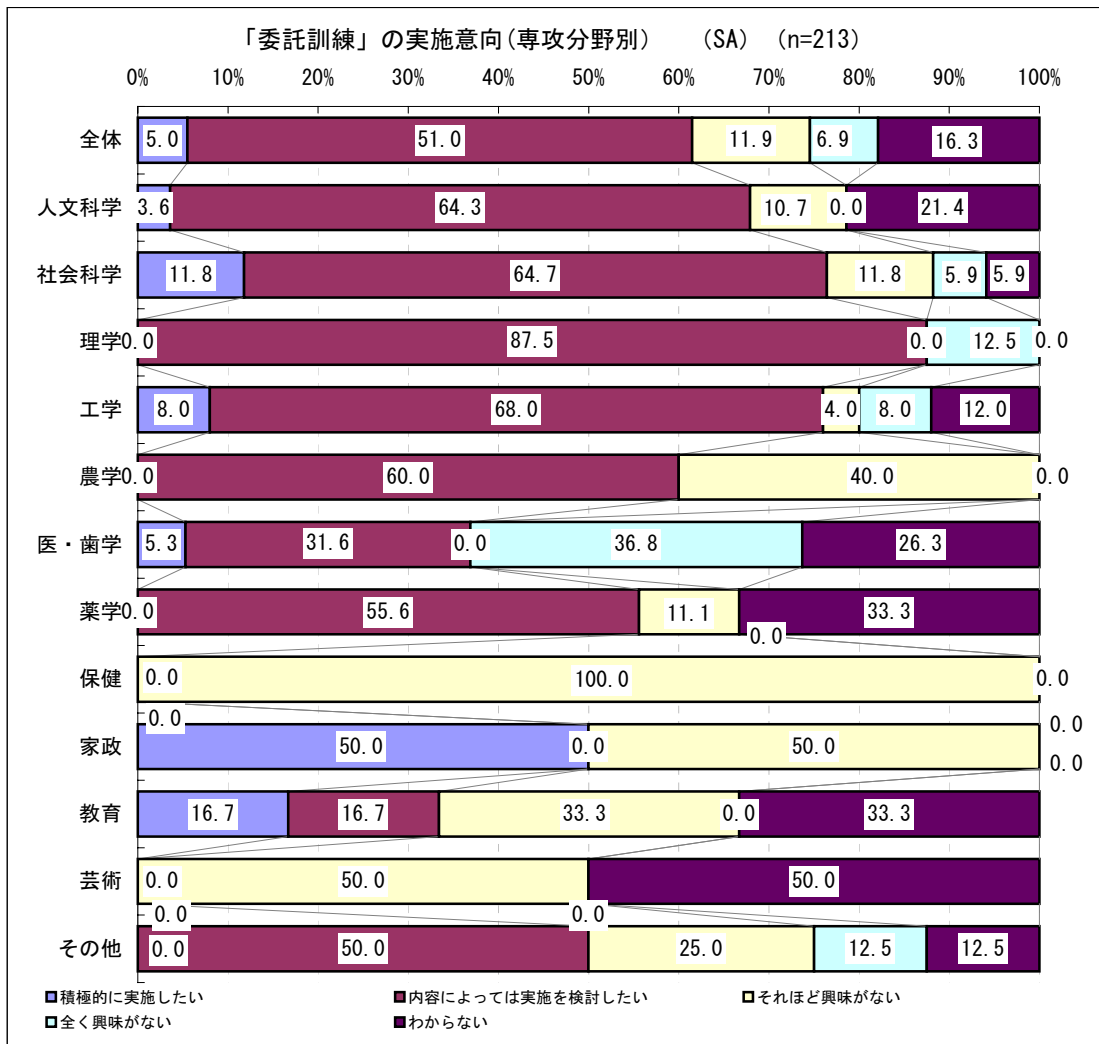


問15. 委託訓練を依頼された場合の実施意向をお答えください。(SA)

委託訓練を実施していない回答者に対し、委託訓練を依頼された場合の実施意向を尋ねたところ、「積極的に実施したい」(5%)、「内容によっては実施を検討したい」(51%)と、肯定的な意見が半数以上を占めている。「全く興味がない」(6.9%)、「それほど興味がない」(11.9%)と、否定的な意見は2割以下であった。



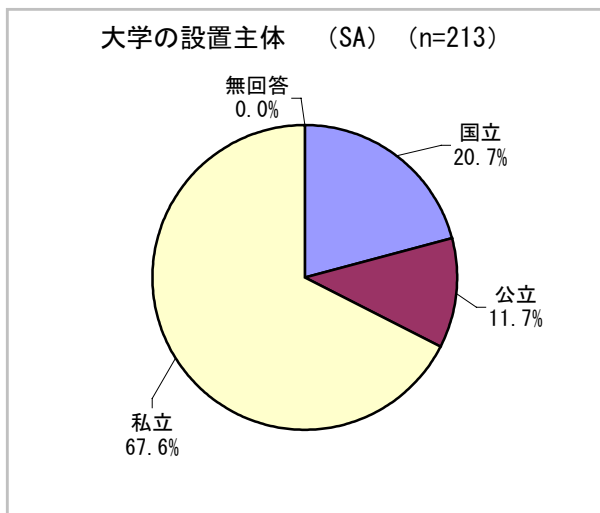
「専攻分野別」に「積極的に実施したい」と「内容によっては実施を検討したい」それぞれ見ると、「社会科学」(11.8%、64.7%)、「工学」(8%、68%)、「人文科学」(3.6%、64.3%)と実施する意向がある回答者の割合は7割前後となっている。サンプル数は少ないが、「医歯学」(5.3%、31.6%)、「薬学」(0%、55.6%)は実施意向が比較的少ない。



	積極的に実施したい	内容によっては実施を検討したい	それほど興味がない	全く興味がない	わからない	n
全体	5.0	51.0	11.9	6.9	16.3	213
人文科学	3.6	64.3	10.7	0	21.4	28
社会科学	11.8	64.7	11.8	5.9	5.9	34
理学	0	87.5	0	12.5	0	8
工学	8.0	68.0	4.0	8.0	12.0	25
農学	0	60.0	40.0	0	0	5
医・歯学	5.3	31.6	0	36.8	26.3	19
薬学	0	55.6	11.1	0	33.3	9
保健	0	0	100.0	0	0	1
商船	0	0	0	0	0	0
家政	50.0	0	50.0	0	0	2
教育	16.7	16.7	33.3	0	33.3	6
芸術	0	0	50.0	0	50.0	2
その他	0	50.0	25.0	12.5	12.5	8

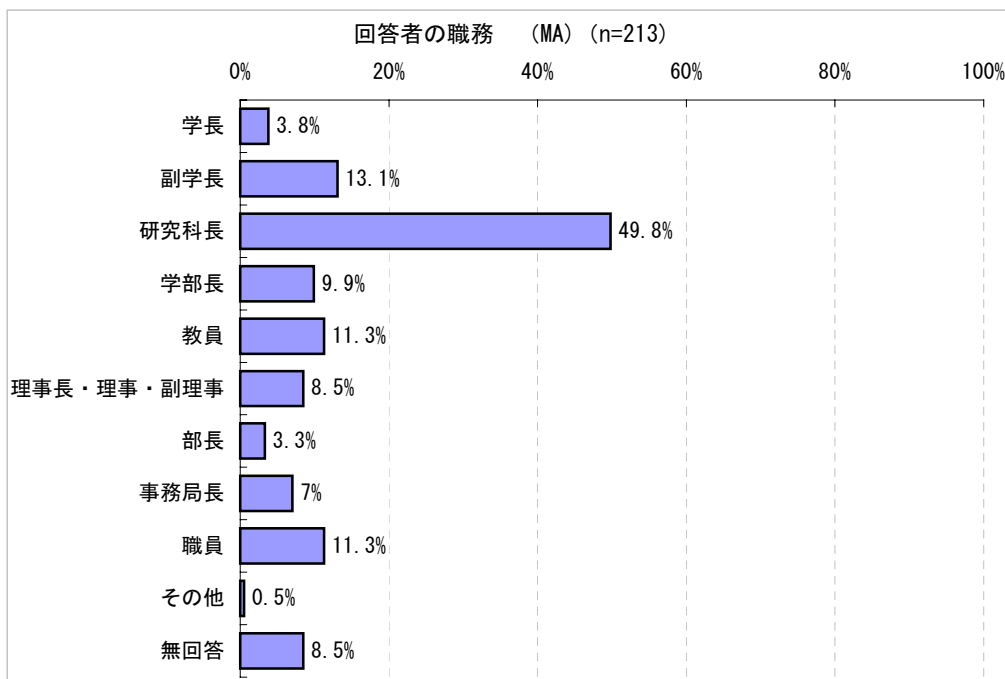
問16. 貴校はどの分類にあてはまりますか。(SA)

大学の設置主体に関する設問である。回答者の割合は、それぞれ「国立」(20.7%)、「公立」(11.7%)、「私立」(67.6%)となっている。



問17. あなたの職務は次のうちどれにあてはまりますか。(MA)

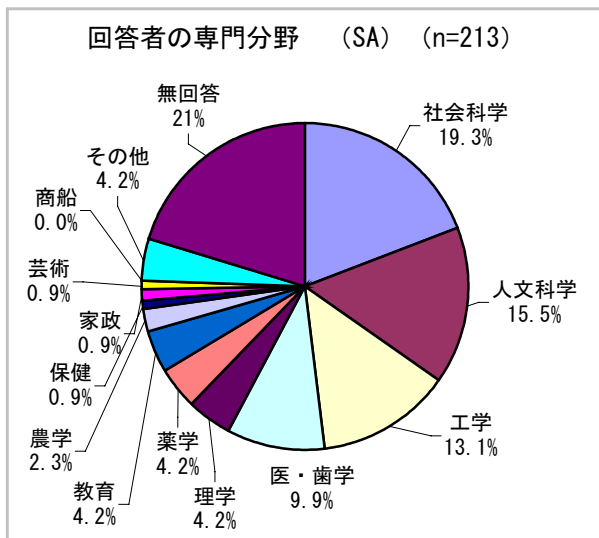
回答者の職務としては、「研究科長」(49.8%)が多く、回答者の半数近くを占める。続いて「副学長」(13.1%)、「職員」(11.3%)と続く。



問18. あなたの専門分野は次のうちどれですか。(SA)

研究科長や教員等、専門分野を持つ方に専門分野を尋ねたところ、「社会科学」(19.3%)、「人文科学」(15.5%)と文系が合わせて34.8%である。

「工学」(13.1%)、「理学」(4.2%)、「農学」(2.3%)、と理工系は19.6%である。また、「医・歯学」(9.9%)、「薬学」(4.2%)、「保健」(0.9%)と医・歯学系は全体の15%の割合となっている。



第2節 社会人向けアンケート調査

本節では、リカレント教育を利用する対象である社会人に対する意識調査を、インターネットによるアンケート形式にて実施した。

アンケートの結果から、社会人はリカレント教育などの生涯教育に対するニーズはあるが、仕事の内容や職場での処遇との結びつきが希薄であり、教育訓練効果が見え難い等、社会人のニーズと大学・大学院等で行われる教育訓練にミスマッチが見受けられる。

2 社会人向けアンケート調査

2.1 調査概要

■ 調査実施方法

項目	概要
調査方法	インターネット調査
調査地域	全国
調査対象者	(1) 大学卒業以上の学歴を持つ社会人(専業主婦、パート・アルバイト、無職、その他、の人を除く) (2) 在職中(フルタイム、パート・アルバイト等)、大学院に在学した経験のある人
調査時期	平成17年2月8日～平成17年2月14日(7日間)

- ・ 本調査では実査に入る前に、「大学卒業以上の学歴を持つ社会人」および「現在大学院に在学中の人」に対しメール(通称:リクルーティング・メール)でアンケート調査への協力を依頼した。
- ・ メールで属性等を尋ね、「就業経験のない人」や、調査時点において「専業主婦」、「パート・アルバイト」、「無職」、「その他」の人を調査対象者から外した。
- ・ 調査票は(1)大学卒業以上の学歴を持つ社会人(略称:一般社会人)、(2)在職中に大学院に在学した経験のある人(略称:社会人学生)に同一のものを使用しているが、対象者により設問を分けている。
- ・ 問1～問4で(1)、(2)の対象者を振り分け、問5～問11は(1)大学卒業以上の学歴を持つ社会人、問12～問29は(2)在職中、大学院に在学した経験のある人、問30～問38を共通の設問としている。

■ 回収結果

調査対象者	回収数
大学卒業以上の学歴を持つ社会人 [一般社会人]	1,761
在職中に大学院に在学した経験のある人 [社会人学生]	949
総回収数	2,710

■ 集計における留意事項

- ・ 集計分析は、①単純集計、②クロス集計、を行ってなっている。
- ・ 分析コメントについては、単純集計の分析結果は全ての設問においてコメントしている。クロス集計については、特徴の見られる設問のみコメントしている。
- ・ 集計における構成比率(%)は、四捨五入により合計比が100%にならない場合がある。

- ・ 集計は、基本的に小数点第2位を四捨五入している。そのために、SA(単一回答)の設問でも、合計が100%にならないことがある。

■ グラフ・文中の標記について

各設問において、次の略称を使用している。

略称名	意味
SA (Single Answer)	選択回答が1つのみ
NA (Number of Answer)	数字回答
MA (Multiple Answer)	複数回答 MA : 当てはまるもの全てに回答 MA ≤ ○ : 選択項目の中から○項目まで回答 ※例えば、「 MA ≤ 3 」とは、選択項目の中から「3つまで」選択するということを示す。 MA = ○ : 選択項目の中から○項目回答 ※例えば、「 MA = 3 」とは、選択項目の中から「3つ」選択するということを示す。
FA (Free Answer)	自由回答

■ クロス集計における留意事項

略称名	意味
専攻分野別	問13の「回答者の専攻分野(13分野)」とのクロス集計。
分野系統別	問13の「回答者の専攻分野(13分野)」を、「文系」、「理工系」、「医・歯学系」、「その他系」に統合した上でのクロス集計。 文系:「人文科学」、「社会科学」 理工系:「理学」、「工学」、「農学」 医・歯学系:「保健」、「医・歯学」、「薬学」 その他系:「家政」、「教育」、「芸術」、「商船」、「その他」
職務形態別	問3の「大学院通学中の就業経験」、問4の「大学院通学中に就業しなかった理由」を統合した上でのクロス集計。属性は以下の3つ。 フルタイムで働いていた(働いている) パートタイム、アルバイトなどで働いていた(働いている) 働きたかったが、条件が整わなかった

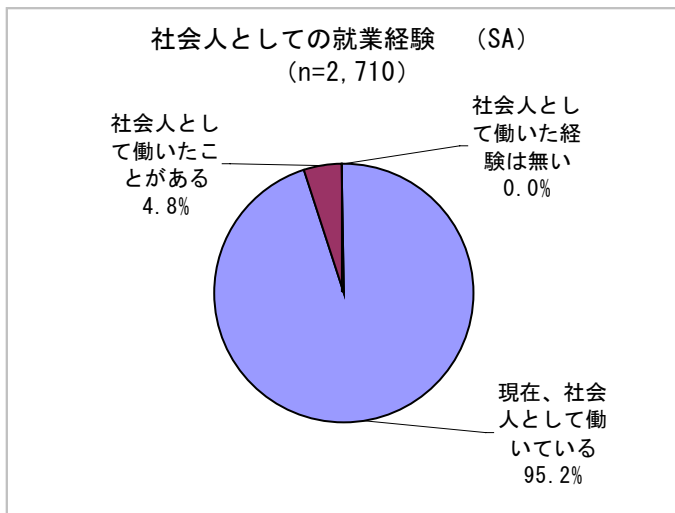
■ 比較設問について

大学院の教職員と社会人との意識を比較するために、『大学院向けアンケート』と『社会人向けアンケート』で選択項目等を統一した設問を幾つか設けている。また、社会人向けアンケートの中でも(1)大学卒業以上の学歴を持つ社会人、(2)在職中、大学院に在学した経験を持つ人に対し、選択項目等を統一した設問を設けている。同一条件下での回答ではないが、集計結果やグラフ等を掲載したので参考にされたい。

2.2 アンケート結果

問1. あなたは社会人として働いた経験(正社員等)がありますか？ (SA)

「現在、社会人として働いている」(95.2%)、「社会人として働いたことがある」(4.8%)とを合わせて100%となる。回答者は全て社会人として就業経験がある者を対象とし、それ以外の方は調査対象外とした。

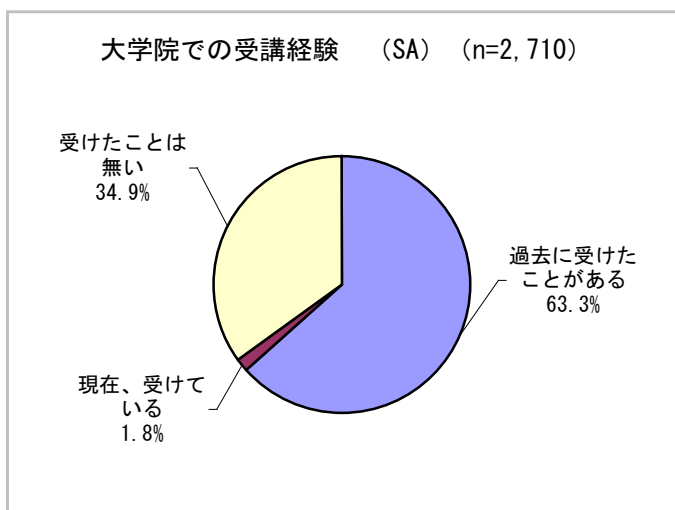


問2. あなたは大学院で教育を受けた経験がありますか？ (SA)

大学院で教育を受けたことがあるか、否かを問う設問である。「過去に受けたことがある」(63.3%)、「現在、受けている」(1.8%)、となっており、大学院での教育経験があるものが計65.1%となっている。

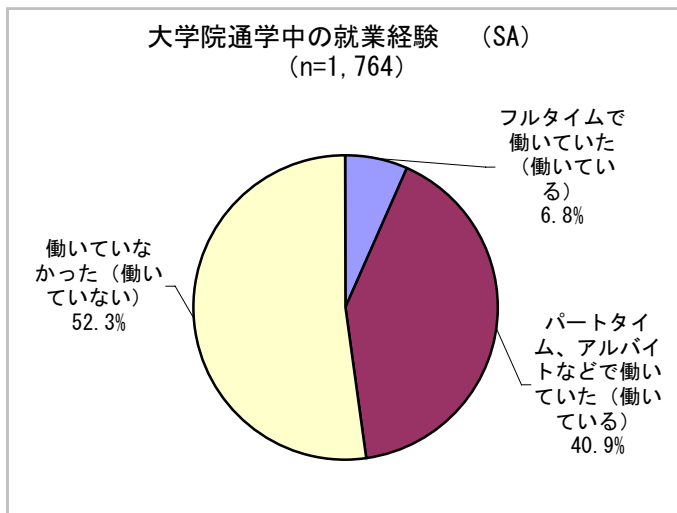
大学院で教育を受けたことが無い人は、34.9%となっている。

※なお、「過去に受けたことがある」、「現在、受けている」と答えた人には、問12に進んでもらい、大学院での教育と就業の両立についての設問に回答してもらっている。



問3. あなたは大学院に通っている間、就業していましたか(していますか)? (SA)

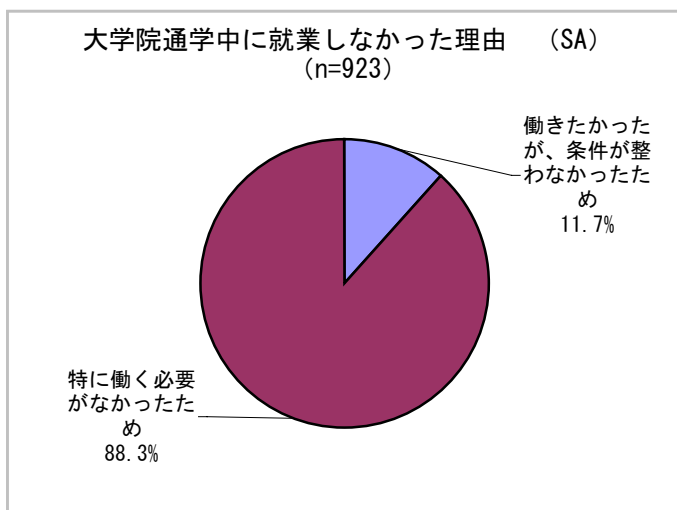
大学院に通学している間の就業状況については、「フルタイムで働いていた(働いている)」(6.8%)、「パートタイム、アルバイトなどで働いていた(働いている)」(40.9%)となっている。今回の調査では、大学院に通いながら就業していた人が回答者の約半数を占める。



問4. 大学院に通っている間、就業しなかった(していない)のはなぜですか? (SA)

問3で、(大学院在学中に)「働いていなかった(働いていない)」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「働きたかったが、条件が整わなかったため」(11.7%)、「特に働く必要がなかったため」(88.3%)と回答した。働きたかったが、諸条件が合わなかったという人は全体の約1割にのぼる。

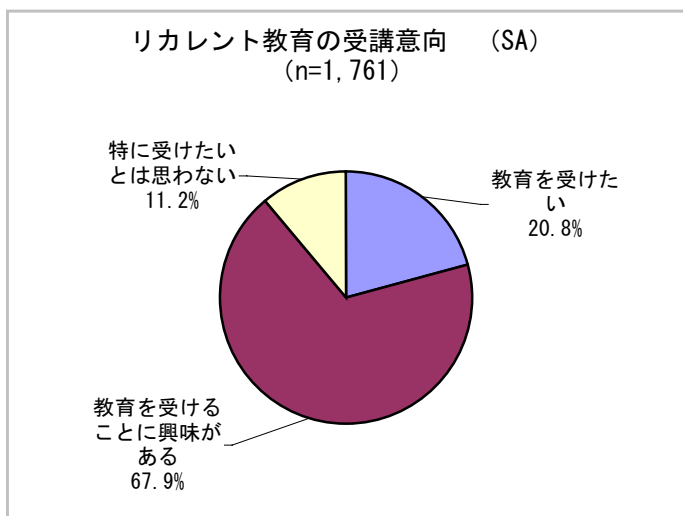
※なお、「働きたかったが、条件が整わなかった」と答えた人には、問12に進んでもらい、大学院での教育と就業の両立についての設問に回答してもらった。



A.一般社会人

問5. あなたが今後、再び教育を受けること(以降リカレント教育)についてどのように思いますか？
(SA)

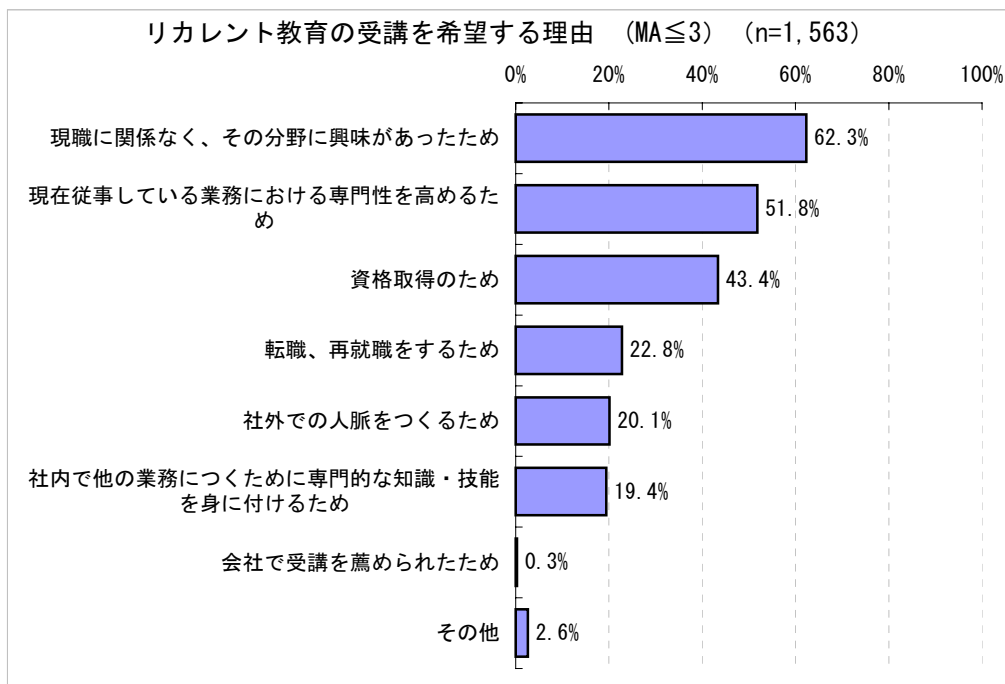
リカレント教育に対する受講意向を問う設問である。「教育を受けたい」(20.8%)であり、積極的に教育を受けたいと考えている人が2割程度いる。また、「教育を受けることに興味がある」(67.9%)も含めると、再び教育をうけることに肯定的な人が9割近くにのぼり、社会人になってからも教育を受けることへの意欲を持つ人が非常に多いことがうかがえる。



問6. あなたが今後、リカレント教育を受けたい、興味がある、と考える理由は次のうちどれですか？
(MA \leq 3)

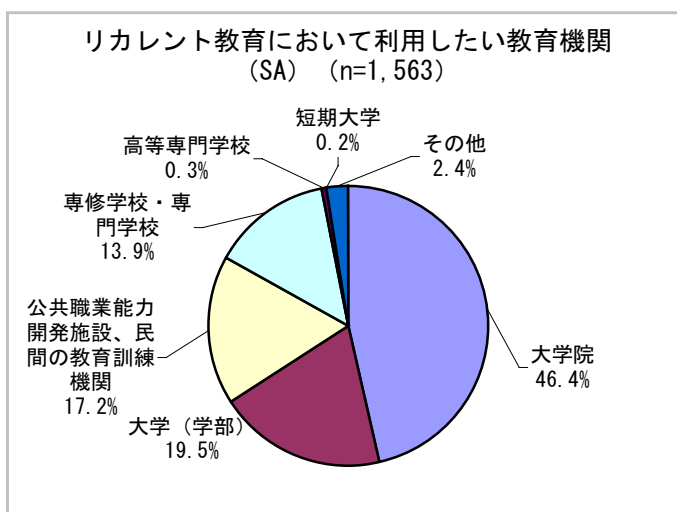
リカレント教育を受けたい、もしくは、興味がある人に対し、受講の動機を尋ねたところ、「現職に関係なく、その分野に興味があったから」(62.3%)と一番多く、続いて「現在従事している業務における専門性を高めるため」(51.8%)、「資格取得のため」(43.4%)、「転職、再就職をするため」(22.8%)となっている。

また、「転職、再就職をするため」(22.8%)と回答し、転職や再就職をするために教育を受けたいと考える人よりも、現在の仕事におけるキャリアアップを志向して教育を受けたいと考える人がより多い(51.8%)ことが見てとれる。



問7. 今後教育を受けるとしたら、どの教育機関で受けていますか？ (SA)

リカレント教育の受講を希望する人に対し、どの教育機関で受講したいかを尋ねたところ、「大学院」(46.4%)、「大学(学部)」(19.5%)、「公共職業能力開発施設、民間の教育訓練機関」(17.2%)となった。今回の調査では大卒以上の学歴を持つ人を対象としていることから、大学院を選択した人の割合が高いとも考えられる。

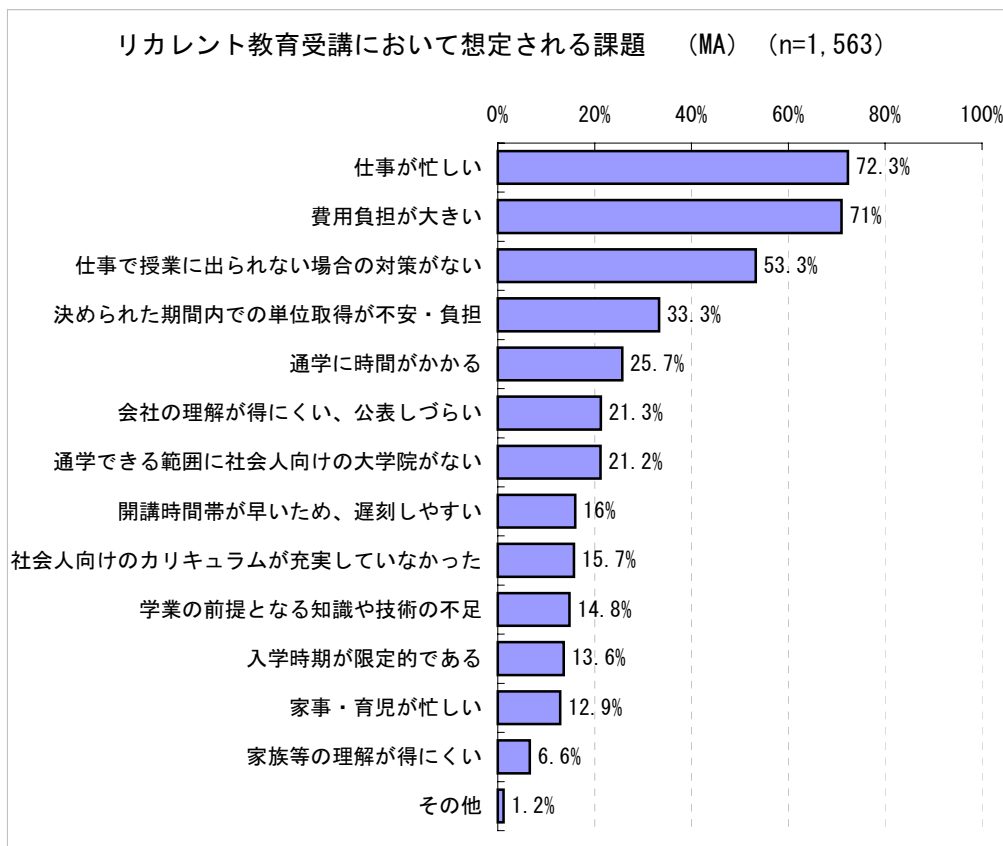


問8. あなたが、リカレント教育(生涯教育)を受ける場合に想定される課題は次のうちどれですか？ (MA)

リカレント教育を受ける場合に障害となる点を尋ねたところ、「仕事が忙しい」(72.3%)、「仕事で授業に出られない場合の対策がない」(53.3%)、「決められた期間内での単位取得が不安・負担」(33.3%)と、仕事と学業との両立に対する不安が非常に大きいことがわかる。

その他には「費用負担が大きい」(71%)が上位にあがっており、金銭的な負担も大きな障害となっていることがうかがえる。また、通学に関しては、「通学に時間がかかる」(25.7%)、「通学できる範囲に社会人向けの大学院がない」(21.2%)とアクセス面で課題を挙げる人も2割以上にのぼる。

なお、「家事・育児が忙しい」(12.9%)は相対的に低いですが、今回の調査では、専業主婦は調査対象からはずしていることに留意されたい。

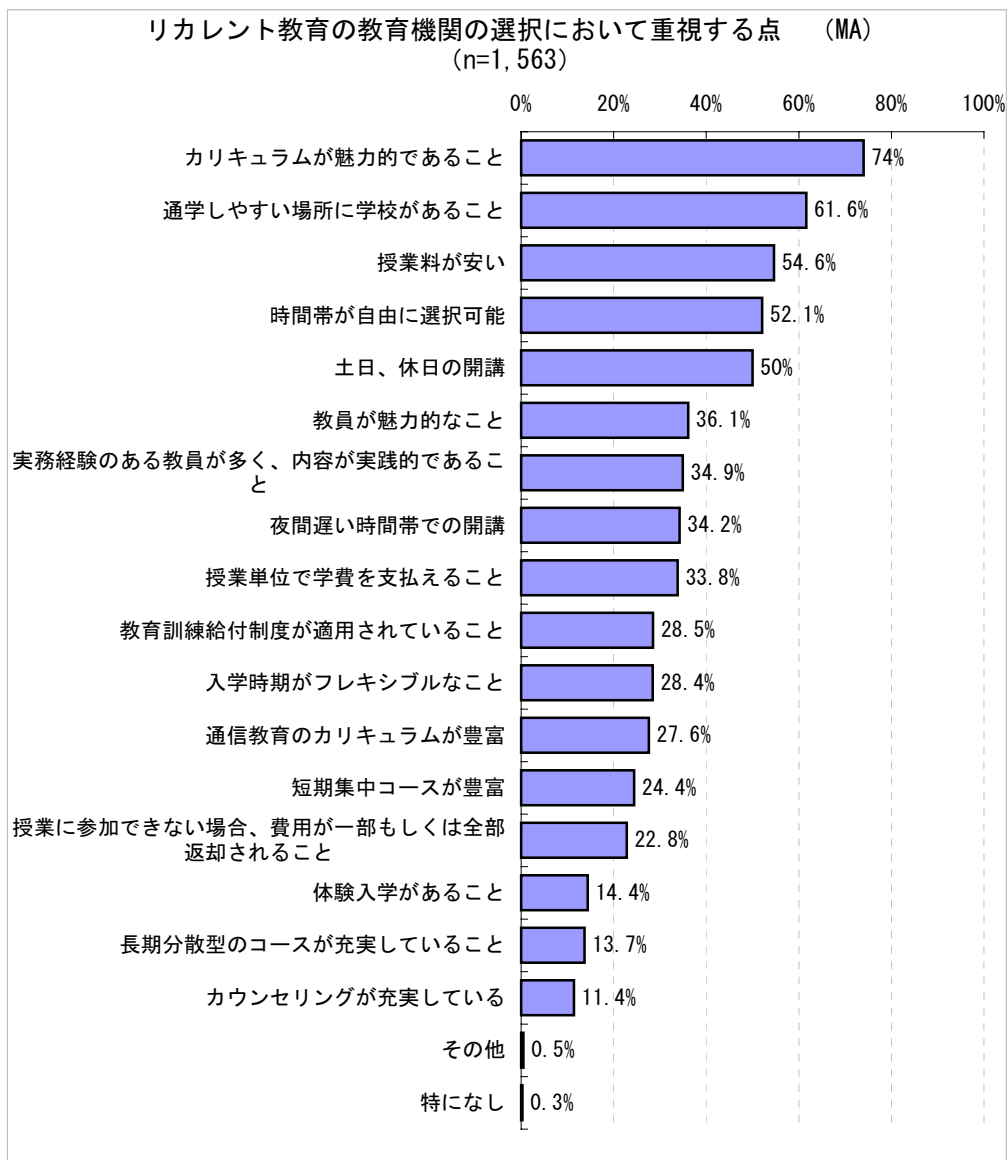


問9. あなたが、教育機関を選ぶ際に重視する点は次のうちどれですか？ (MA)

一方、教育機関を選ぶ際に重視する点を尋ねたところ、「カリキュラムが魅力的であること」(74%)と教育の内容を最も重視していることがわかる。続いて「通学しやすい場所に学校があること」(61.6%)、「授業料が安い」(54.6%)の順となっている。

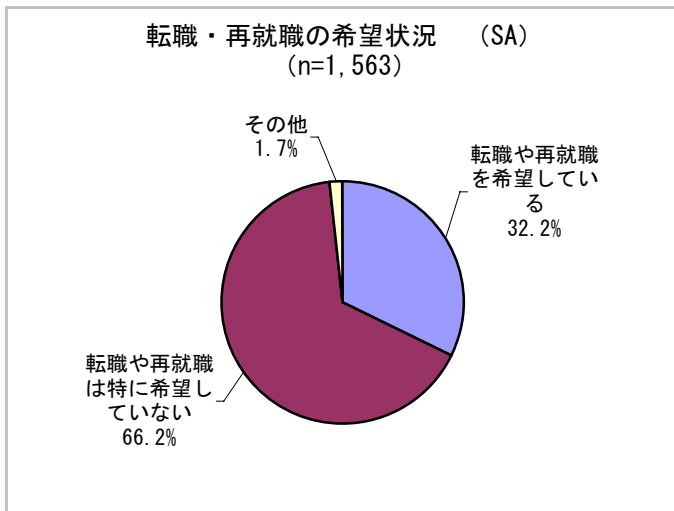
「時間帯が自由に選択可能」(52.1%)、「土日、休日の開講」(50%)も約5割以上の人を選択しており、仕事をしながら通学するにあたって、フレキシブルに授業の時間帯を選べることを重視していることがわかる。

また、「授業料が安い」(54.6%)との回答が多かったが、加えて3割以上の人「授業単位の学費を払えること」(33.8%)を重視していると回答している。授業時間だけでなく、授業料についても、フレキシブルな支払いができる仕組みが求められていることが見てとれる。



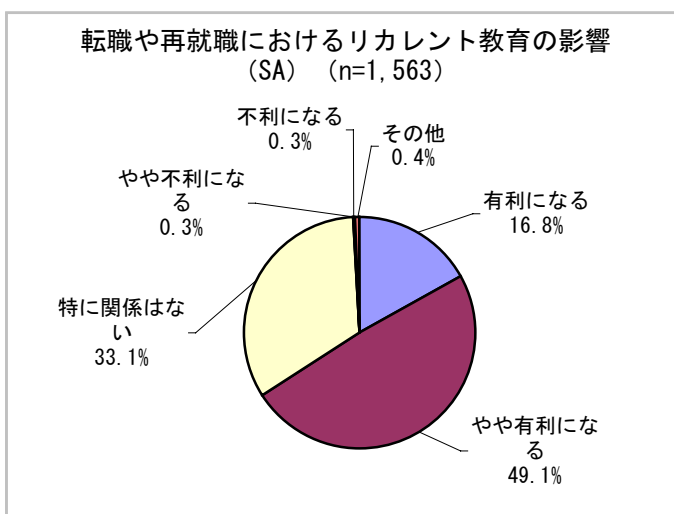
問10. 現在あなたは転職や再就職を希望していますか？ (SA)

転職や再就職の希望について尋ねたところ、「転職・再就職を希望している」(32.2%)、「転職や再就職を特に希望していない」(66.2%)であった。



問11. リカレント教育は、転職や再就職にどのような影響があると思いますか？ (SA)

転職や再就職に際し、リカレント教育がどのような影響を与えるかを回答してもらったところ、「有利になる」(16.8%)、「やや有利になる」(49.1%)、とリカレント教育が就職において良い影響を与えると考える人が6割以上を占めている。

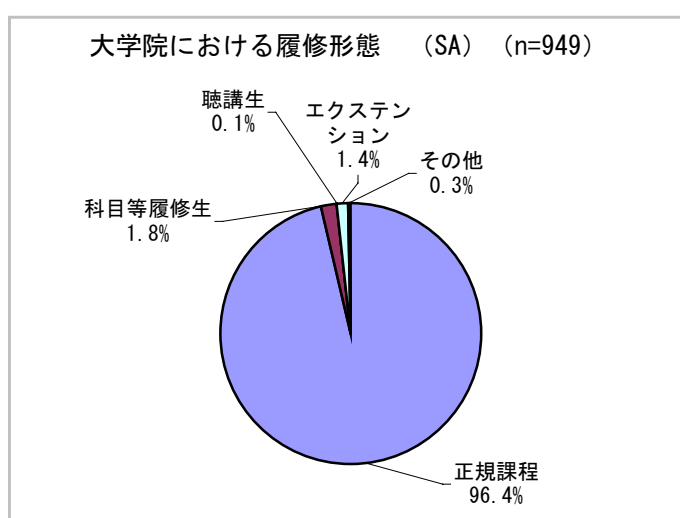


B.社会人学生

問12. 大学院での履修形態は次のうちどれですか？（SA）

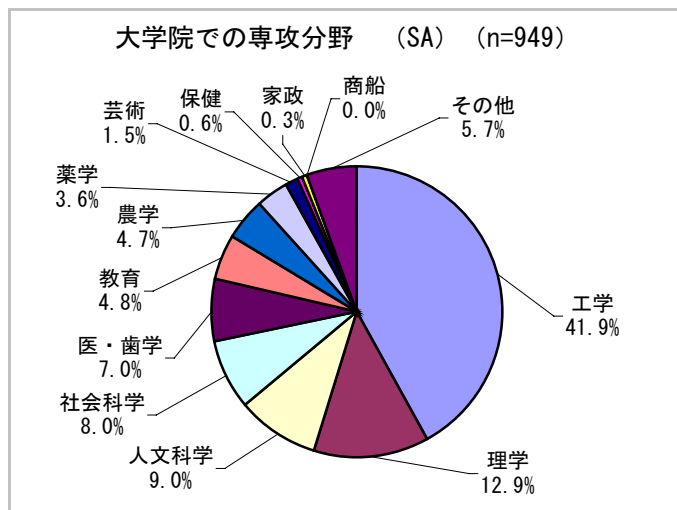
問12から問29では、フルタイムやパートタイム、アルバイト等で働きながら大学院に通った経験のある人、大学院に在学中に働きたかったが、条件が整わなかった人(以降「社会人学生」)を対象としている。

本問で履修形態を尋ねたところ、社会人学生のうち**96.4%**は「正規課程」の学生との結果となった。正規課程以外の学生は、「科目等履修生」(1.8%)、「聴講生」(0.1%)、「エクステンション」(1.4%)と、割合としては非常に少ない。



問13. あなたの大学院での専攻分野は次のうちどれですか？（SA）

大学院における専攻分野についての設問である。「工学」(41.9%)、「理学」(12.9%)、「人文科学」(9.0%)、「社会科学」(8.0%)となっている。一般的に大学院に進むのは理工系の学生が多いとされるが、今回のアンケートでは工学を専攻している人の割合が多い。



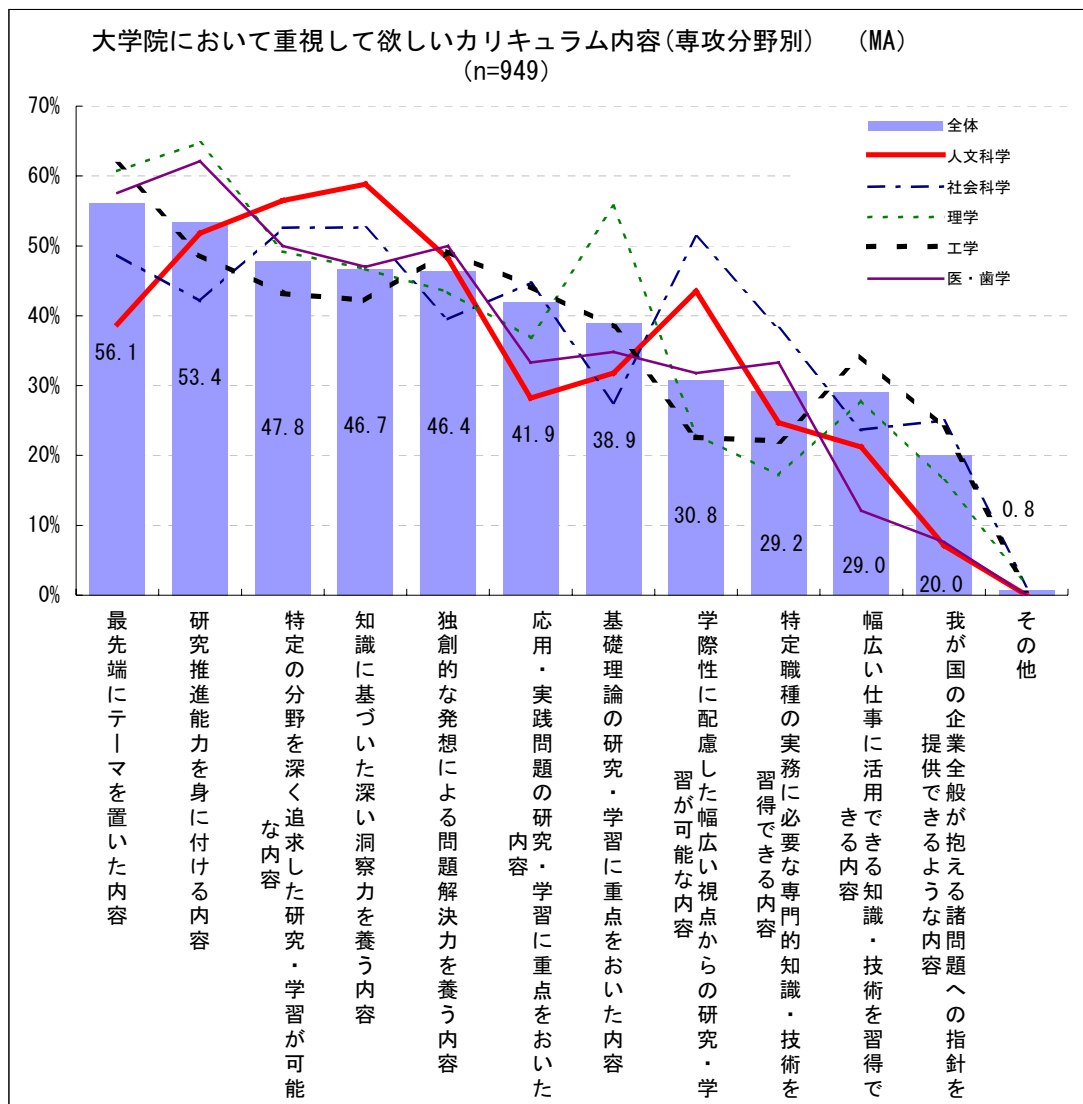
問14. あなたが、大学院のカリキュラムとして重視して欲しい内容は次のうちどれですか？ (MA)

大学院のカリキュラムとして重視する内容としては、「最先端にテーマをおいた内容」(56.1%)、「研究推進能力を身につける内容」(53.4%)、「特定の分野を追求した研究・学習が可能な内容」(47.8%)、「知識に基づいた深い洞察力を養う内容」(46.7%)となっている。

専攻分野別に見てみると、「人文科学」では、「知識に基づいた深い洞察力を養う内容」(58.8%)、「特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容」(56.5%)を挙げる人の割合が多い。「社会科学」でも同様の傾向が見てとれる。

対して、「工学」では「最先端にテーマを置いた内容」(61.6%)が最も多い。「理学」では「研究推進能力を身につける内容」(64.8%)、「最先端にテーマを置いた内容」(60.7%)のほかにも、「基礎理論の研究・学習に重点をおいた内容」(55.7%)も多い。

「医・歯学」では「研究推進能力を身に付ける内容」(62.1%)、「最先端にテーマを置いた内容」(57.6%)と工学と理学と同様の傾向が見られるが、「特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容」(50%)、「独創的な発想による問題解決能力を養う内容」(50%)への回答も多い。

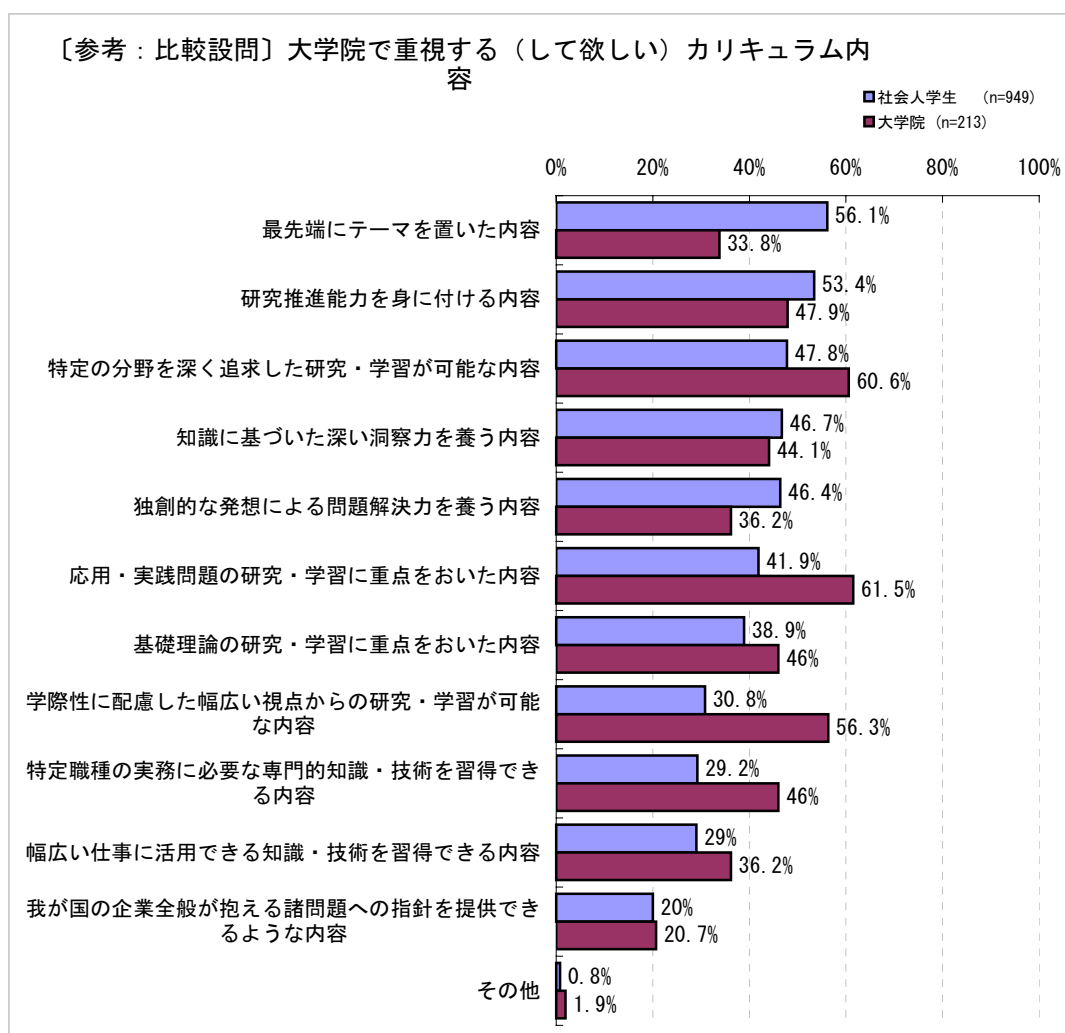


	最先端にテーマを置いた内容	研究推進能力を身に付ける内容	特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容	知識に基づいた深い洞察力を養う内容	独創的な発想による問題解決力を養う内容	応用・実践問題の研究・学習に重点をおいた内容	基礎理論の研究・学習に重点をおいた内容	学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習が可能な内容	特定職種の実務に必要な専門的知識・技術を習得できる内容	幅広い仕事に活用できる知識・技術を習得できる内容	我が国の企業全般が抱える諸問題への指針を提供できるような内容	その他	n
全体	56.1	53.4	47.8	46.7	46.4	41.9	38.9	30.8	29.2	29.0	20.0	0.8	949
人文科学	38.8	51.8	56.5	58.8	48.2	28.2	31.8	43.5	24.7	21.2	7.1	0.0	85
社会科学	48.7	42.1	52.6	52.6	39.5	44.7	27.6	51.3	38.2	23.7	25.0	1.3	76
理学	60.7	64.8	49.2	46.7	43.4	36.9	55.7	23.0	17.2	27.9	16.4	1.6	122
工学	61.6	48.7	43.2	42.2	49.2	44.2	38.4	22.6	22.1	34.2	23.9	0.8	398
農学	55.6	68.9	51.1	48.9	46.7	64.4	42.2	42.2	42.2	24.4	35.6	2.2	45
医・歯学	57.6	62.1	50.0	47.0	50.0	33.3	34.8	31.8	33.3	12.1	7.6	0.0	66
薬学	64.7	55.9	35.3	35.3	50.0	38.2	47.1	20.6	44.1	29.4	20.6	0.0	34
保健	50.0	66.7	66.7	66.7	50.0	16.7	16.7	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	6
家政	0.0	66.7	100.0	66.7	0.0	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	3
教育	37.0	60.9	60.9	41.3	32.6	53.2	34.8	41.3	60.9	21.7	19.6	0.0	46
芸術	42.9	35.7	64.3	57.1	28.6	42.9	14.3	21.4	35.7	28.6	7.1	0.0	14
その他	59.3	51.9	40.7	55.6	50.0	42.6	40.7	42.6	44.4	44.4	22.2	1.9	54

(n以外は%)

大学院の教職員が重視しているカリキュラム内容と、社会人学生が重視して欲しいカリキュラム内容を比較するために、『大学院向けアンケート』の間2、『社会人向けアンケート』の間14の回答の

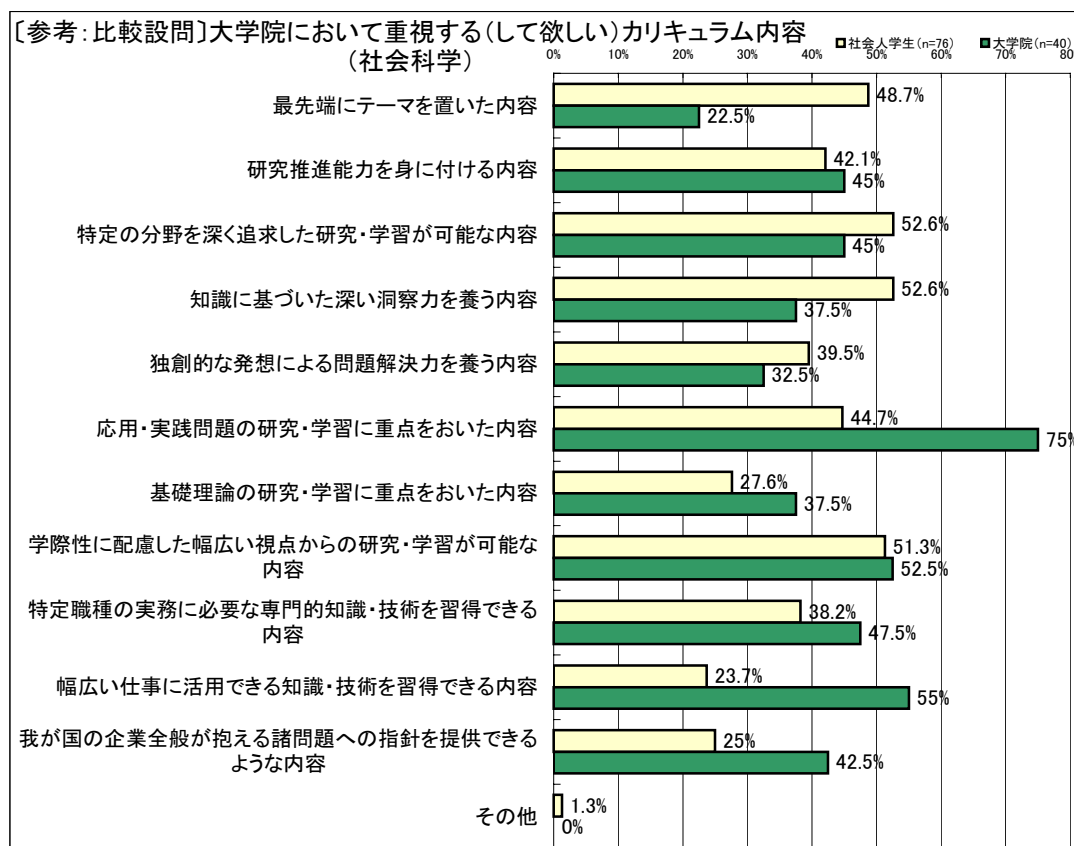
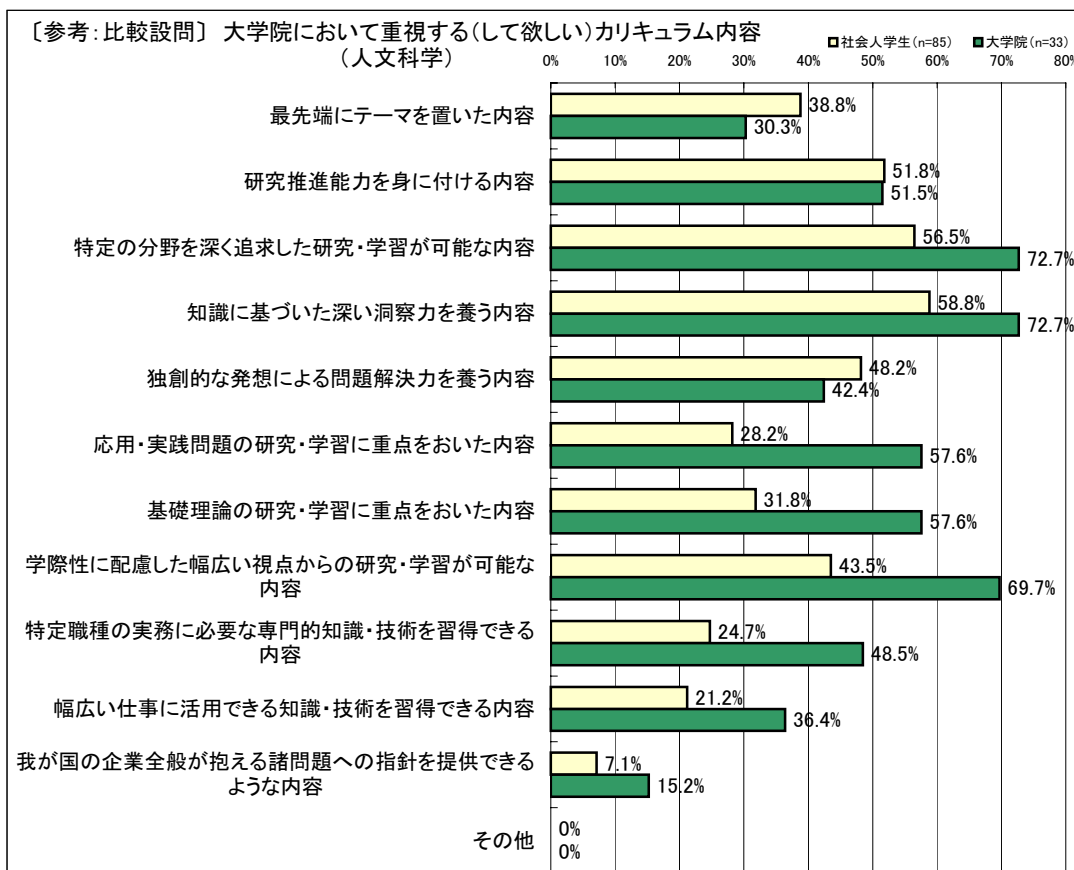
結果を統合し、グラフ化したものである。

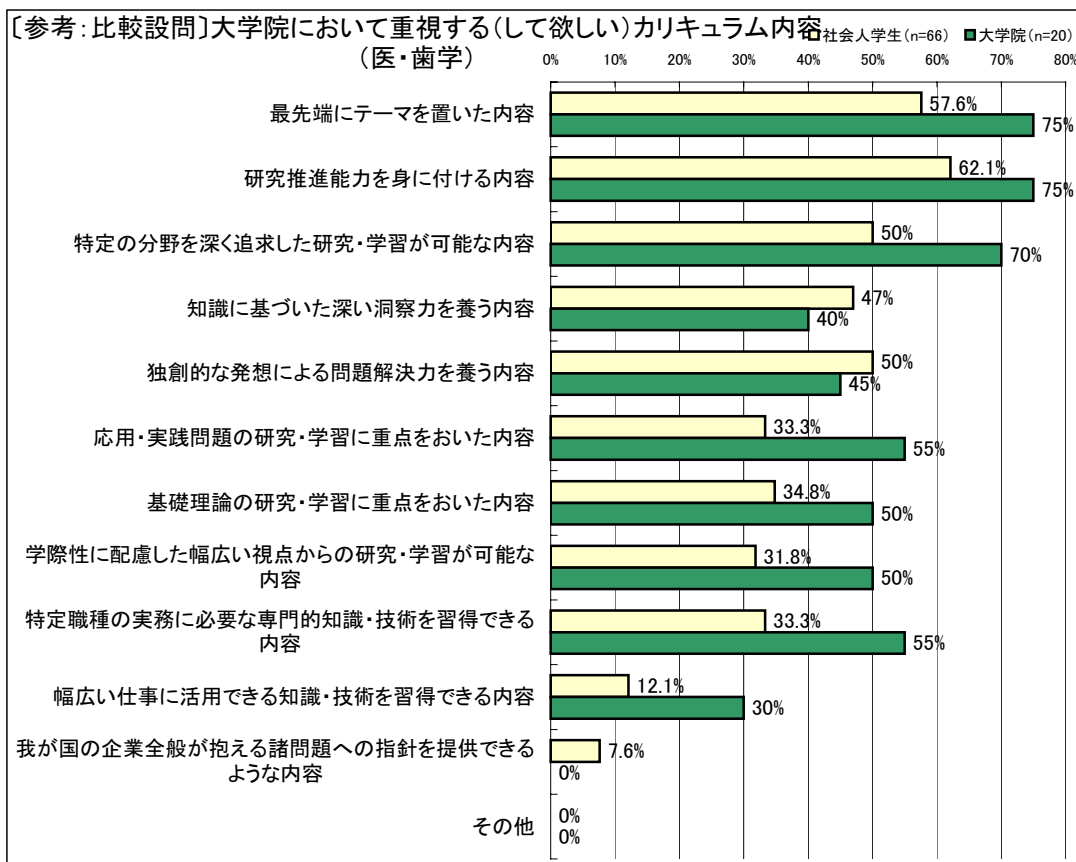
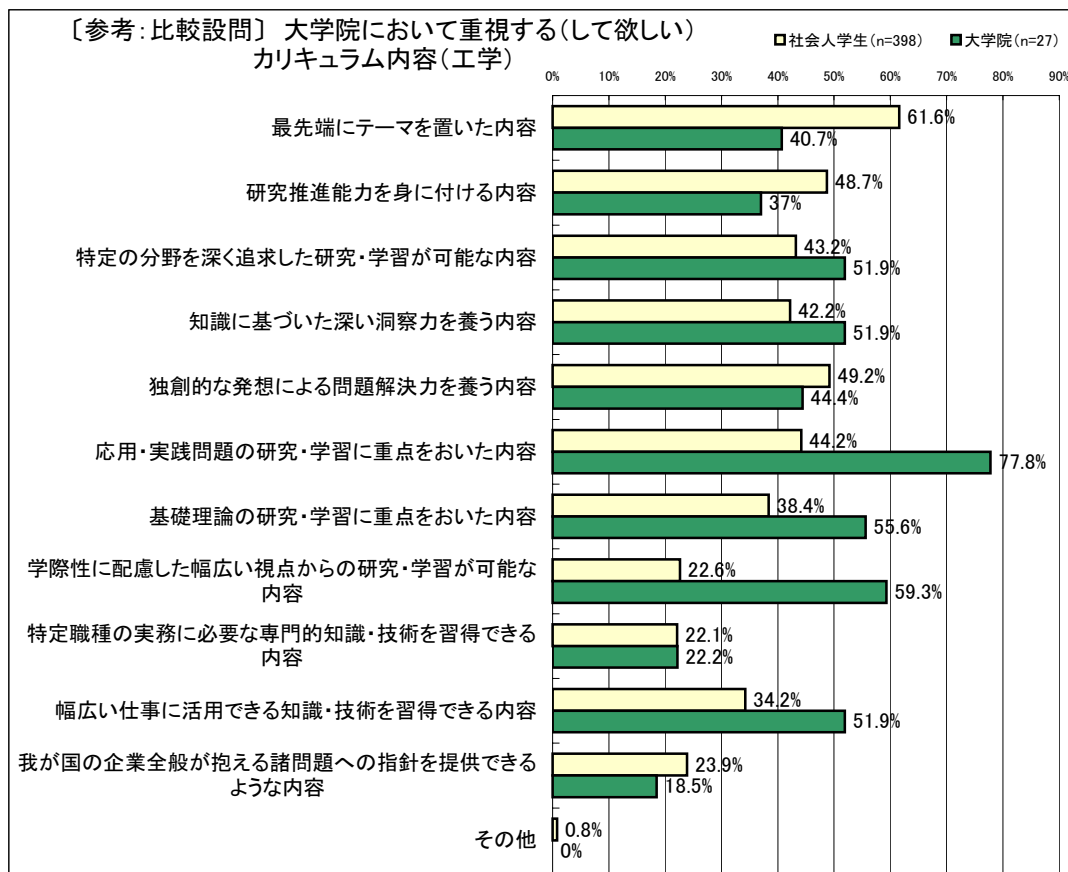


（『大学院向けアンケート』の問2、『社会人向けアンケート』の問14の単純集計結果に基づいて作成）

社会人学生は専攻分野によって重視するカリキュラム内容が異なっていたことを踏まえ、大学院の教職員との意識の差も専攻分野別にグラフ化したので参考にされたい。

(以下、『大学院向けアンケート』の問2、『社会人向けアンケート』の問14のクロス集計結果に基づいて作成)





		最先端にテーマを置いた内容	研究推進能力を身に付ける内容	学習が可能な内容	特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容	知識に基づいた深い洞察力を養う内容	養う内容	独創的な発想による問題解決力を養う内容	応用・実践問題の研究・学習に重点をおいた内容	基礎理論の研究・学習に重点をおいた内容	学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習が可能な内容	特定職種の実務に必要な専門的知識・技術を習得できる内容	幅広い仕事に活用できる知識・技術を習得できる内容	我が国の企業全般が抱える諸問題への指針を提供できるような内容	その他	n
全体	社会人学生	56.1	53.4	47.8	46.7	46.4	41.9	38.9	30.8	29.2	29.0	20.0	0.8	949		
	大学院	37.1	51.5	58.7	44.9	38.3	64.7	47.3	56.3	42.5	38.3	18.6	1.8	167		
人文科学	社会人学生	38.8	51.8	56.5	58.8	48.2	28.2	31.8	43.5	24.7	21.2	7.1	0.0	85		
	大学院	30.3	51.5	72.7	72.7	42.4	57.6	57.6	69.7	48.5	36.4	15.2	0	33		
社会科学	社会人学生	48.7	42.1	52.6	52.6	39.5	44.7	27.6	51.3	38.2	23.7	25.0	1.3	76		
	大学院	22.5	45.0	45.0	37.5	32.5	75.0	37.5	52.5	47.5	55.0	42.5	0	40		
理学	社会人学生	60.7	64.8	49.2	46.7	43.4	36.9	55.7	23.0	17.2	27.9	16.4	1.6	122		
	大学院	33.3	44.4	33.3	33.3	44.4	66.7	55.6	77.8	22.2	33.3	0	11.1	9		
工学	社会人学生	61.6	48.7	43.2	42.2	49.2	44.2	38.4	22.6	22.1	34.2	23.9	0.8	398		
	大学院	40.7	37.0	51.9	51.9	44.4	77.8	55.6	59.3	22.2	51.9	18.5	0	27		
農学	社会人学生	55.6	68.9	51.1	48.9	46.7	64.4	42.2	42.2	42.2	24.4	35.6	2.2	45		
	大学院	60.0	80.0	60.0	40.0	60.0	80.0	60.0	40.0	20.0	20.0	40.0	0	5		
医・歯学	社会人学生	57.6	62.1	50.0	47.0	50.0	33.3	34.8	31.8	33.3	12.1	7.6	0.0	66		
	大学院	75.0	75.0	70.0	40.0	45.0	55.0	50.0	50.0	55.0	30.0	0	0	20		
薬学	社会人学生	64.7	55.9	35.3	35.3	50.0	38.2	47.1	20.6	44.1	29.4	20.6	0.0	34		
	大学院	44.4	77.8	88.9	22.2	44.4	33.3	66.7	33.3	55.6	33.3	0	0	9		
保健	社会人学生	50.0	66.7	66.7	66.7	50.0	16.7	16.7	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	6		
	大学院	100.0	100.0	50.0	100.0	0	100.0	50.0	50.0	50.0	0	0	0	2		
家政	社会人学生	0.0	66.7	100.0	66.7	0.0	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	3		
	大学院	0	0	50.0	0	0	0	0	100.0	50.0	50.0	0	0	2		
教育	社会人学生	37.0	60.9	60.9	41.3	32.6	52.2	34.8	41.3	60.9	21.7	19.6	0.0	46		
	大学院	22.2	22.2	44.4	33.3	0	44.4	33.3	22.2	33.3	0	11.1	11.1	9		
芸術	社会人学生	42.9	35.7	64.3	57.1	28.6	42.9	14.3	21.4	35.7	28.6	7.1	0.0	14		
	大学院	0	50.0	100.0	50.0	0	0	0	50.0	0	0	0	0	2		
その他	社会人学生	59.3	51.9	40.7	55.6	50.0	42.6	40.7	42.6	44.4	44.4	22.2	1.9	54		
	大学院	33.3	66.7	66.7	11.1	55.6	88.9	22.2	66.7	66.7	22.2	11.1	11.1	9		

(n以外は%)

問15. 大学院で重視して欲しい教育方法は次のうちどれですか？ (MA)

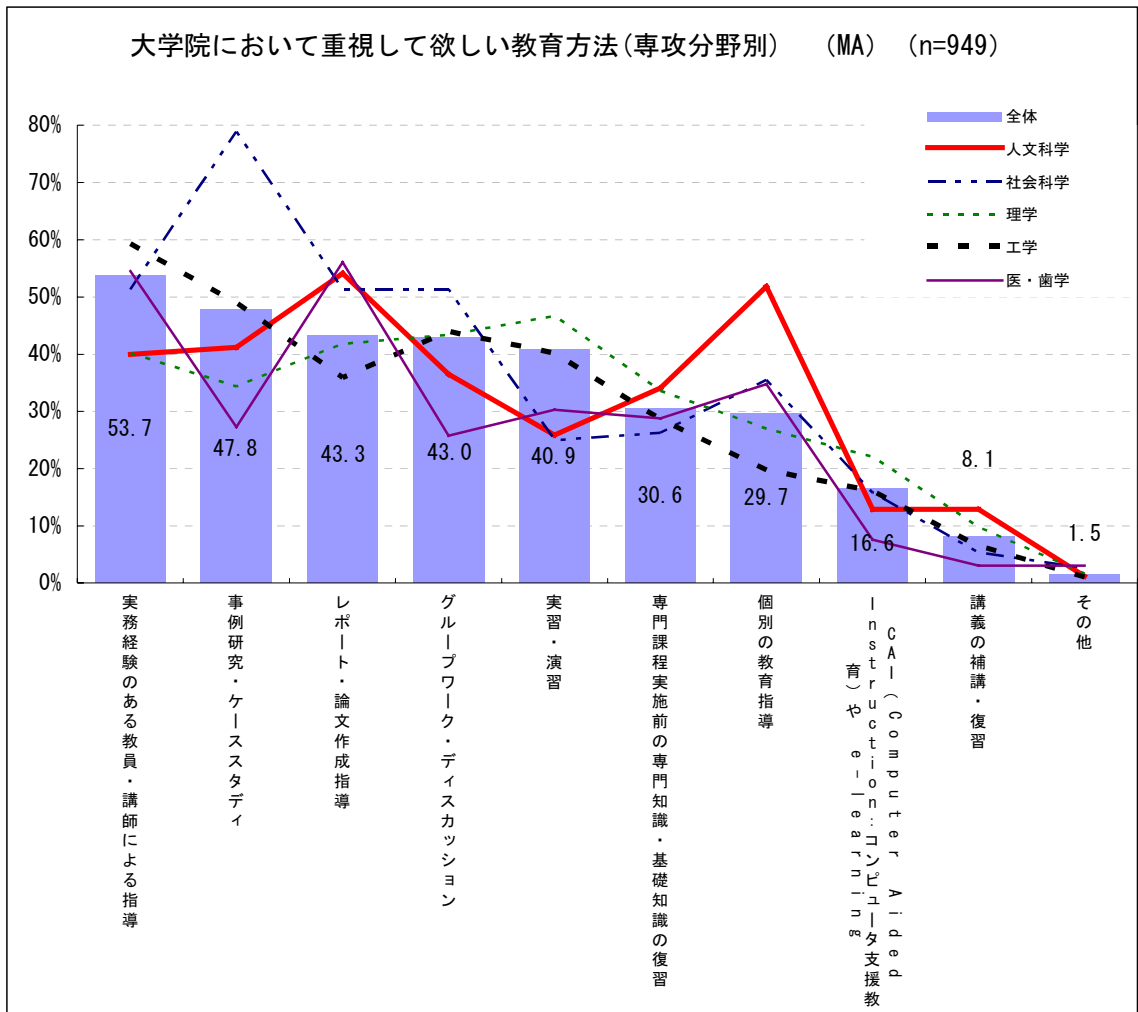
大学院で重視して欲しい教育方法は、「実務経験のある教員・講師による指導」(53.7%)、「事例研究・ケーススタディ」(47.8%)、「レポート・論文作成指導」(43.3%)、「グループワーク・ディスカッション」(43%)、「実習・演習」(40.9%)となっている。この結果からは、研究の実社会への適用について興味を持つ学生が多いことが推測される。

「CAI(Computer Aided Instruction:コンピュータ支援教育)やe-learning」(16.6%)は比較的 low、学生側のニーズはそれほど強くないことがうかがえる。

専攻分野別に見ると、「人文科学」では、「レポート・論文作成指導」(54.1%)、「個別の教育指導」(51.8%)が多い。「社会科学」では、「事例研究・ケーススタディ」(78.9%)が最も多く、「実務経験のある教員・講師による指導」(51.3%)、「レポート・論文作成指導」(51.3%)、「グループワーク・ディスカッション」(51.3%)が並んで多い。

「理学」は「実習・演習」(46.7%)、「グループワーク・ディスカッション」(43.4%)、「レポート・論文作成指導」(41.8%)、「実務経験のある教員・講師による指導」(40.2%)である。「工学」では、「実務経験のある教員・講師による指導」(59.3%)が最も多く、「事例研究・ケーススタディ」(49%)、「グループワーク・ディスカッション」(44%)となっている。「医・歯学」では、「レポート・論文作成指導」(56.1%)、「実

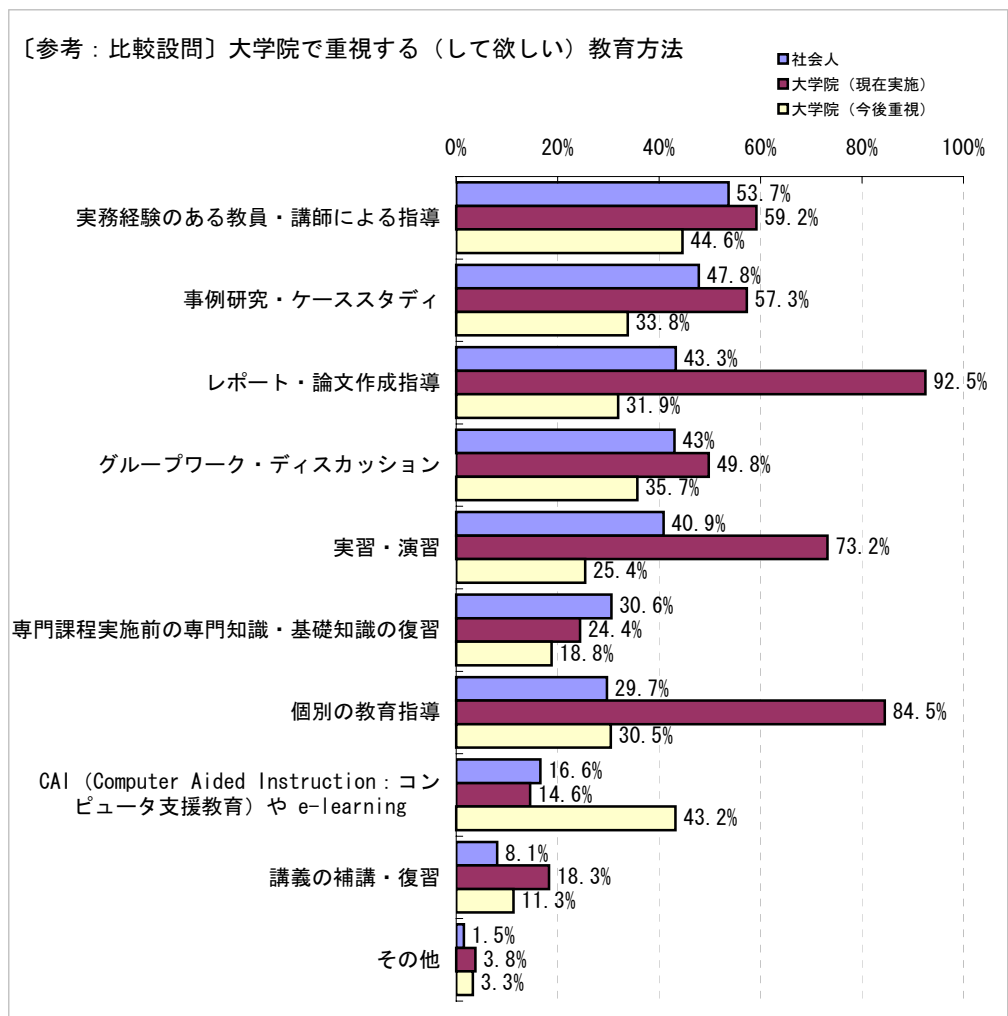
務経験のある教員・講師による指導」(54.5%)の割合が多い。



	実務経験のある教員・講師による指導	事例研究・ケーススタディ	レポート・論文作成指導	グループワーク・ディスカッション	実習・演習	専門課程実施前の専門知識・基礎知識の復習	個別的教育指導	CAIやe-learning	講義の補講・復習	その他	n
全体	53.7	47.8	43.3	43.0	40.9	30.6	29.7	16.6	8.1	1.5	949
人文科学	40.0	41.2	54.1	36.5	25.9	34.1	51.8	12.9	12.9	1.2	85
社会科学	51.3	78.9	51.3	51.3	25.0	26.3	35.5	15.8	5.3	2.6	76
理学	40.2	34.4	41.8	43.4	46.7	33.6	27.0	22.1	9.8	1.6	122
工学	59.3	49.0	35.9	44.0	40.2	28.6	19.8	16.1	6.5	1.0	398
農学	55.6	51.1	51.1	44.4	62.2	33.3	35.6	17.8	11.1	0.0	45
医・歯学	54.5	27.3	56.1	25.8	30.3	28.8	34.8	7.6	3.0	3.0	66
薬学	58.8	35.3	52.9	32.4	61.8	29.4	32.4	8.8	2.9	5.9	34
保健	50.0	50.0	83.3	33.3	16.7	50.0	66.7	16.7	16.7	0.0	6
家政	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	3
教育	65.2	63.0	41.3	52.2	45.7	30.4	34.8	23.9	10.9	0.0	46
芸術	50.0	21.4	28.6	14.3	71.4	21.4	28.6	21.4	0.0	0.0	14
その他	55.6	59.3	44.4	59.3	50.0	38.9	42.6	22.2	18.5	1.9	54

(n以外は%)

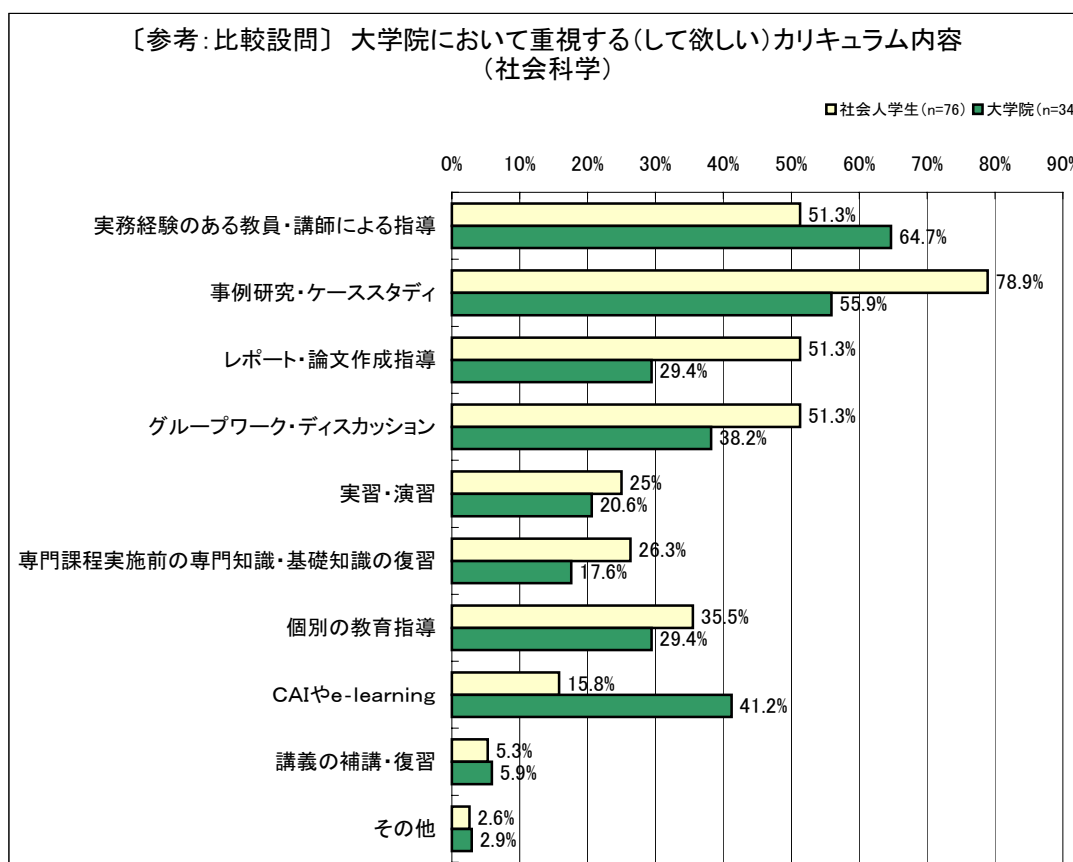
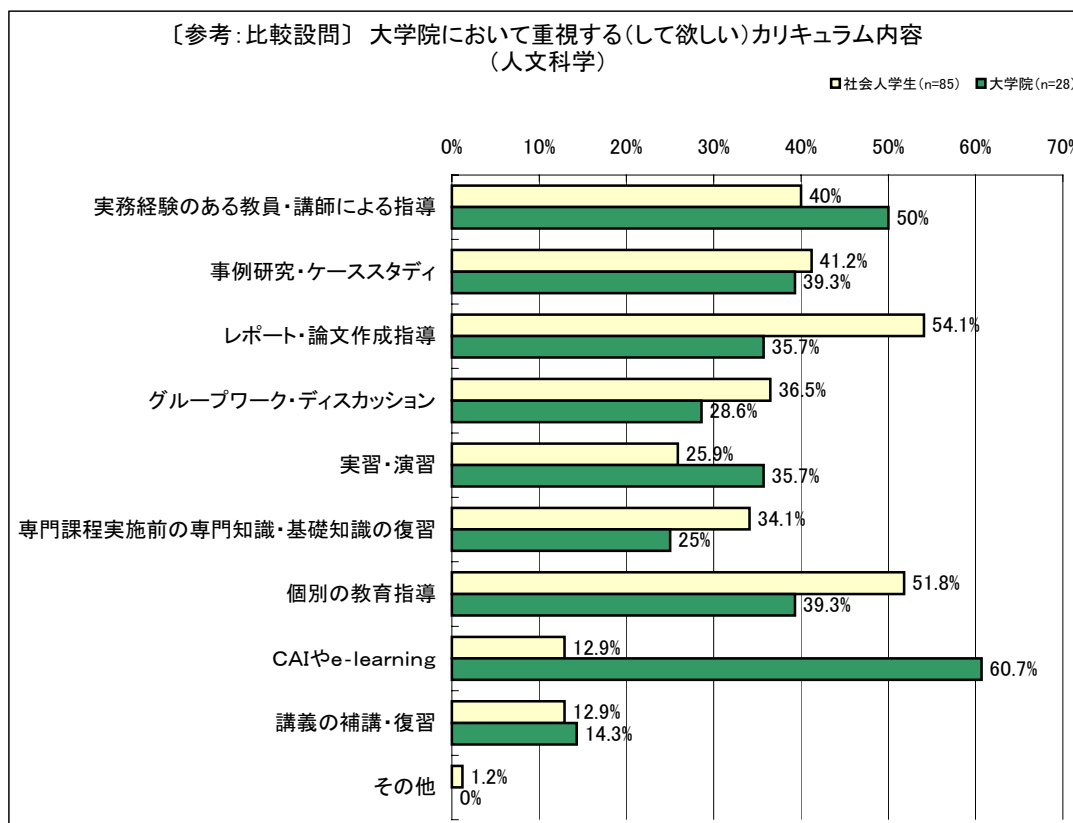
大学院の教職員が重視している教育方法と、社会人学生が望む教育方法とを比較するために、『大学院向けアンケート』の間2、『社会人向けアンケート』の間14の回答の結果を統合し、グラフ化した。

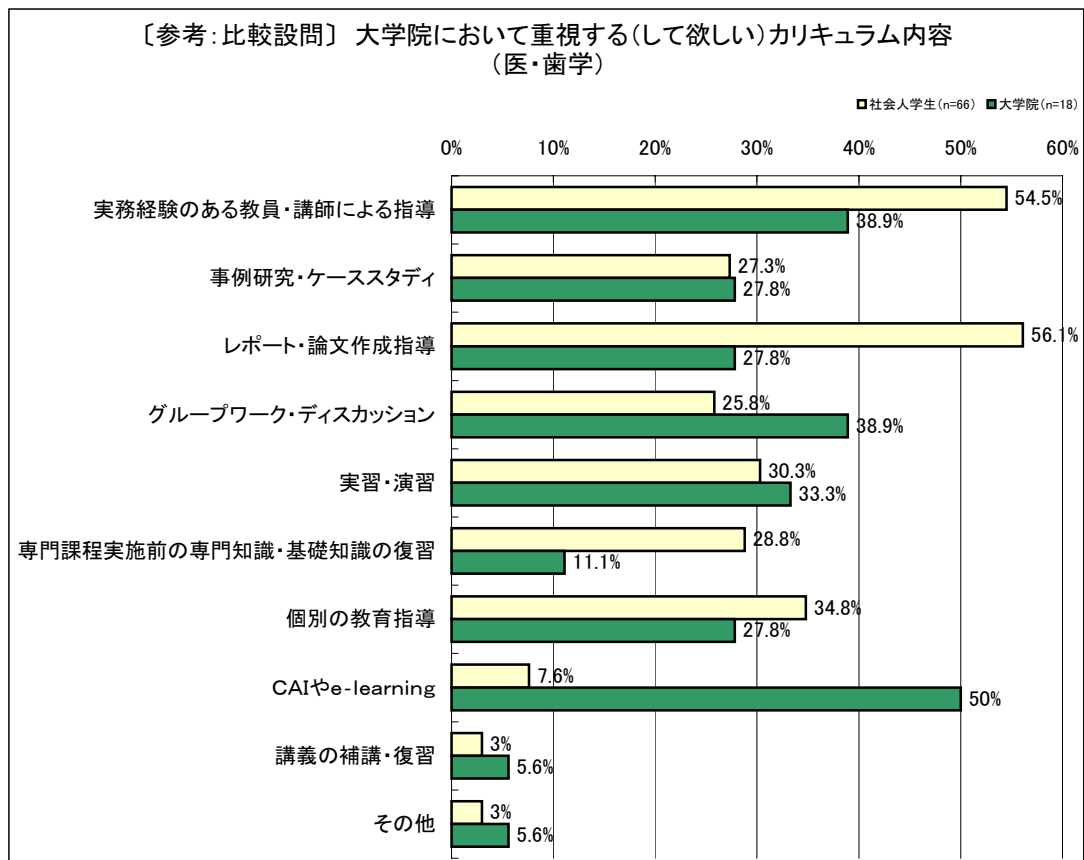
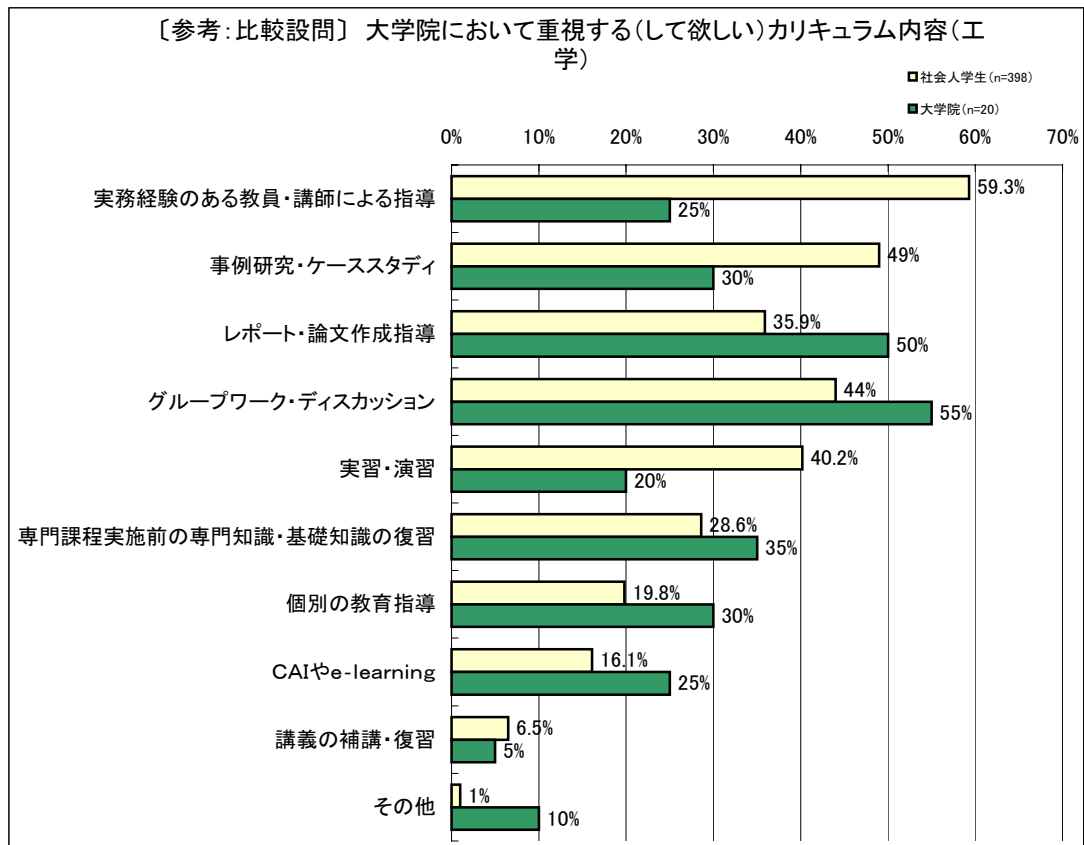


（『大学院向けアンケート』の問3、『社会人向けアンケート』の問15の単純集計結果に基づいて作成）

大学院で重視する教育方法についても、専攻分野別に集計したので参考にされたい。

(以下、『大学院向けアンケート』の問3②今後重視する教育方法、『社会人向けアンケート』の問15のクロス集計結果に基づいて作成)





		指導 実務経験のある 教員・講師による	事例研究・ケース スタディ	レポート・論文作 成指導	グループワー ク・ディスカッ ション	実習・演習	知識の復習	専門課程実施前 の専門知識・基礎 知識の復習	個別の教育指導	C A I や e - l e a r n i n g	講義の補講・復習	その他	n
全体	社会人学生	53.7	47.8	43.3	43.0	40.9	30.6	29.7	16.6	8.1	1.5	949	
	大学院	50.7	40.3	36.1	42.4	27.1	22.2	34.0	50.0	11.1	4.2	144	
人文科学	社会人学生	40.0	41.2	54.1	36.5	25.9	34.1	51.8	12.9	12.9	1.2	85	
	大学院	50.0	39.3	35.7	28.6	35.7	25.0	39.3	60.7	14.3	0	28	
社会科学	社会人学生	51.3	78.9	51.3	51.3	25.0	26.3	35.5	15.8	5.3	2.6	76	
	大学院	64.7	55.9	29.4	38.2	20.6	17.6	29.4	41.2	5.9	2.9	34	
理学	社会人学生	40.2	34.4	41.8	43.4	46.7	33.6	27.0	22.1	9.8	1.6	122	
	大学院	28.6	42.9	42.9	42.9	28.6	57.1	57.1	71.4	28.6	14.3	7	
工学	社会人学生	59.3	49.0	35.9	44.0	40.2	28.6	19.8	16.1	6.5	1.0	398	
	大学院	25.0	30.0	50.0	55.0	20.0	35.0	30.0	25.0	5.0	10.0	20	
農学	社会人学生	55.6	51.1	51.1	44.4	62.2	33.3	35.6	17.8	11.1	0.0	45	
	大学院	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0	40.0	80.0	0	0	5	
医・歯学	社会人学生	54.5	27.3	56.1	25.8	30.3	28.8	34.8	7.6	3.0	3.0	66	
	大学院	38.9	27.8	27.8	38.9	33.3	11.1	27.8	50.0	5.6	5.6	18	
薬学	社会人学生	58.8	35.3	52.9	32.4	61.8	29.4	32.4	8.8	2.9	5.9	34	
	大学院	66.7	33.3	44.4	77.8	33.3	22.2	22.2	44.4	0	11.1	9	
保健	社会人学生	50.0	50.0	83.3	33.3	16.7	50.0	66.7	16.7	16.7	0.0	6	
	大学院	0	0	0	0	0	0	0	100.0	50.0	0	2	
家政	社会人学生	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	3	
	大学院	100.0	0	0	50.0	0	0	0	0	0	0	2	
教育	社会人学生	65.2	63.0	41.3	52.2	45.7	30.4	34.8	23.9	10.9	0.0	46	
	大学院	62.5	37.5	50.0	50.0	25.0	25.0	37.5	50.0	25.0	0	8	
芸術	社会人学生	50.0	21.4	28.6	14.3	71.4	21.4	28.6	21.4	0.0	0.0	14	
	大学院	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0	100.0	0	0	0	2	
その他	社会人学生	55.6	59.3	44.4	59.3	50.0	38.9	42.6	22.2	18.5	1.9	54	
	大学院	55.6	55.6	44.4	44.4	33.3	22.2	44.4	88.9	33.3	0	9	

(n以外は%)

問16. 大学院において、重視して欲しい取組は次のうちどれですか？ (MA)

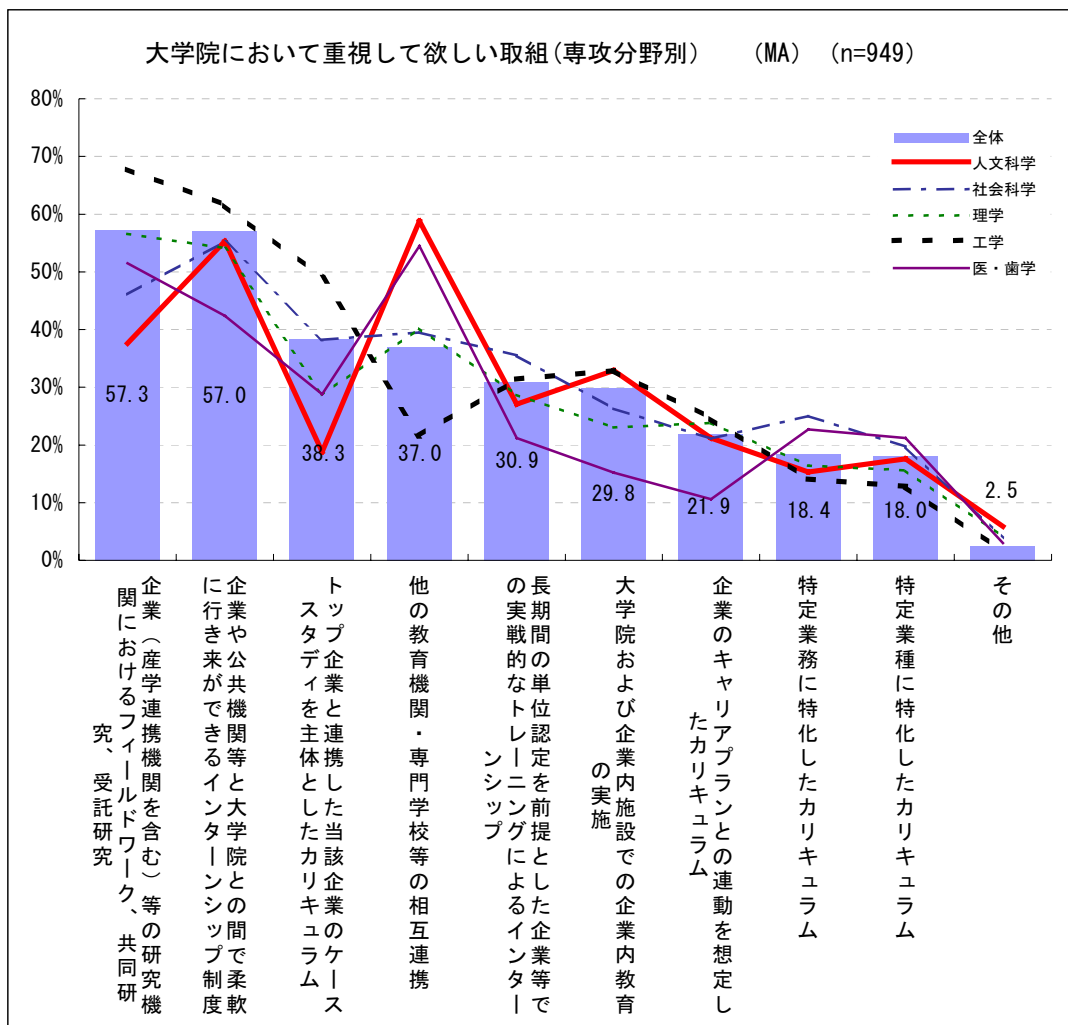
ここでは、企業や他の教育機関との連携のあり方として重視して欲しい取組を尋ねた。「企業(産学連携機関)等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究」(57.3%)、「企業や公共機関等と大学院との間で柔軟に行き来ができるインターンシップ制度」(57%)、に対してはそれぞれ半数以上の社会人学生が重視して欲しいと回答している。

また、「トップ企業と連携した当該企業のケーススタディを主体としたカリキュラム」(38.3%)にも4割近くの方が支持している。従来型の共同研究等による企業と大学院の交流だけでなく、実社会のノウハウを積極的に取り込むための新しい連携方法に対するニーズも強いことがうかがえる。

専攻分野別に見ると、「人文科学」では、「他の教育機関・専門学校等との相互連携」(58.8%)が最も多く、「企業や公共機関等と大学院との間で柔軟に行き来ができるインターンシップ制度」(55.3%)が次いで多い。「社会科学」では、「企業公共機関等と大学院との間で柔軟に行き来ができるインターンシップ制度」(55.3%)、「企業(産学連携機関を含む)等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究」(46.1%)となっている。

「理学」、「工学」でも上記のインターンシップ制度と産学連携・共同研究への回答割合が高い。ただし、「理学」では「他の教育機関・専門学校との連携」(40.2%)も多く、「工学」では「トップ企業と連携した当該企業のケーススタディを主体としたカリキュラム」(49%)への回答が多い。

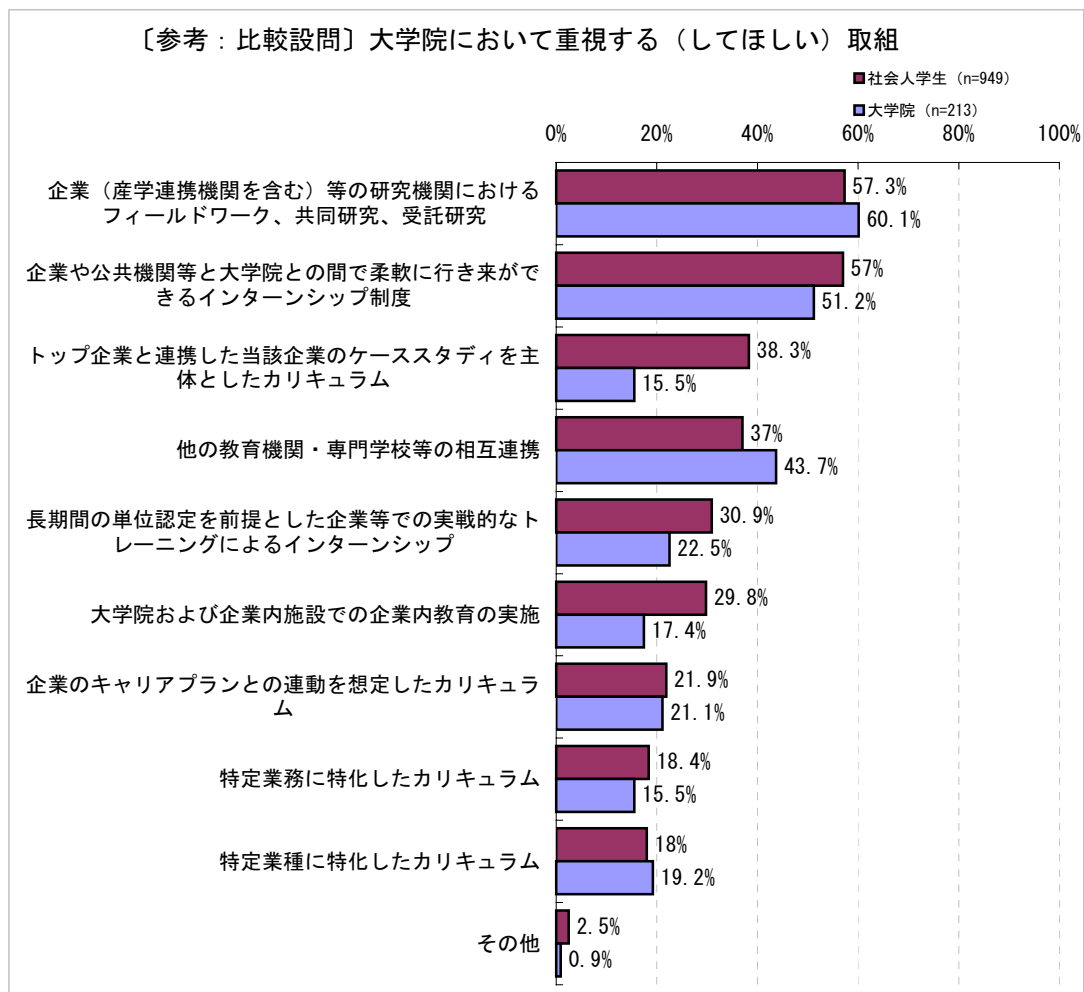
「医・歯学」では、「他の教育機関・専門学校等の相互連携」(54.5%)が最も多い。



	企業(産学連携機関を含む)等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究	企業や公共機関等と大学院との間で柔軟に行き来ができるインターンシップ制度	トップ企業と連携した当該企業のケーススタディを主体としたカリキュラム	他の教育機関・専門学校等の相互連携	長期間の単位認定を前提とした企業等での実践的なトレーニングによるインターンシップ	大学院および企業内施設での企業内教育の実施	企業のキャリアアップとの連動を想定したカリキュラム	特定業務に特化したカリキュラム	特定業種に特化したカリキュラム	その他	n
全体	57.3	57.0	38.3	37.0	30.9	29.8	21.9	18.4	18.0	2.5	949
人文科学	37.6	55.3	18.8	58.8	27.1	32.9	21.2	15.3	17.6	5.9	85
社会科学	46.1	55.3	38.2	39.5	35.5	26.3	21.1	25.0	19.7	3.9	76
理学	56.6	54.1	28.7	40.2	28.7	23.0	23.8	16.4	15.6	4.1	122
工学	67.8	61.6	49.0	21.6	31.4	32.9	24.6	14.1	12.8	1.5	398
農学	66.7	71.1	44.4	40.0	51.1	37.8	22.2	15.6	20.0	4.4	45
医・歯学	51.5	42.4	28.8	54.5	21.2	15.2	10.6	22.7	21.2	3.0	66
薬学	61.8	55.9	29.4	32.4	35.3	47.1	20.6	20.6	23.5	0.0	34
保健	50.0	66.7	16.7	66.7	33.3	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	6
家政	100.0	66.7	66.7	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	66.7	0.0	3
教育	39.1	45.7	28.3	76.1	26.1	23.9	8.7	23.9	28.3	0.0	46
芸術	14.3	35.7	21.4	50.0	35.7	14.3	7.1	28.6	57.1	0.0	14
その他	50.0	55.6	37.0	42.6	25.9	31.5	25.9	37.0	29.6	1.9	54

(n以外は%)

大学院の教職員が重視する取組と、社会人学生が重視して欲しい取組とを比較するために、『大学院向けアンケート』の間4、『社会人向けアンケート』の間16の回答の結果を統合し、グラフ化した。



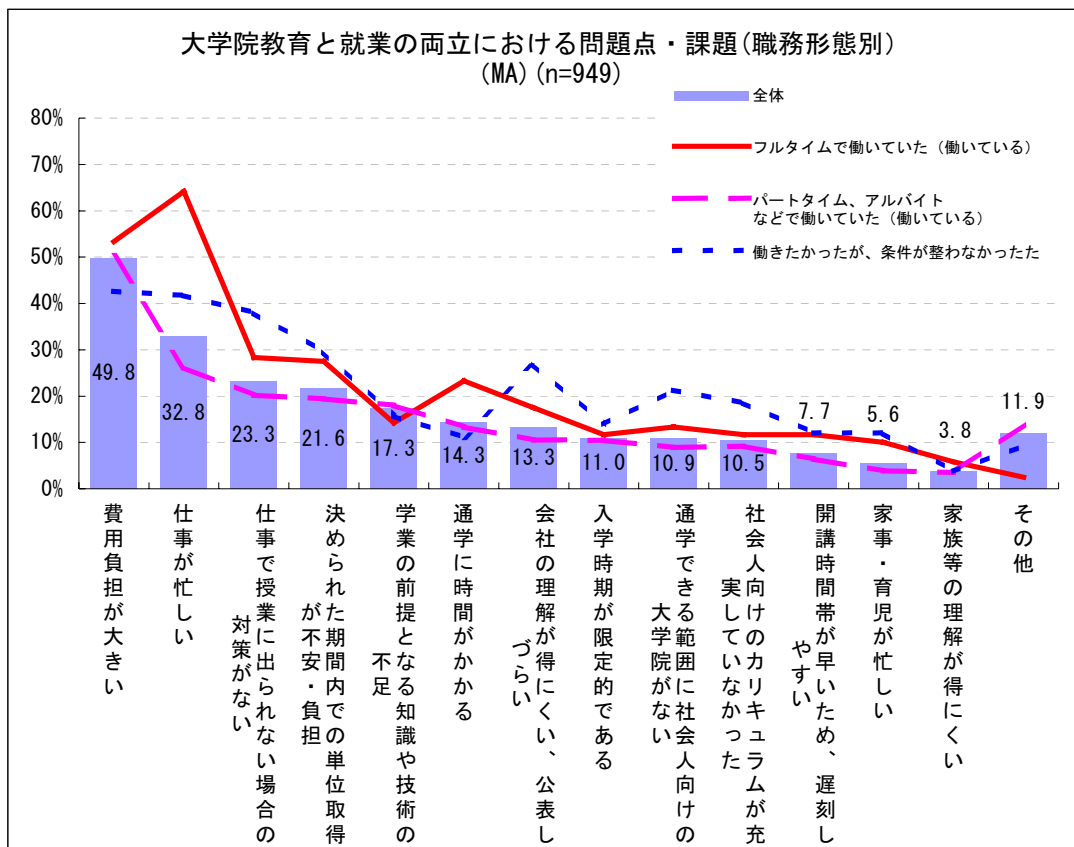
（『大学院向けアンケート』の問4、『社会人向けアンケート』の問16の単純集計結果に基づいて作成）

問17. 大学院での教育と就業を両立させるのに、苦勞する(した)点、課題は次のうちどれですか？
(MA)

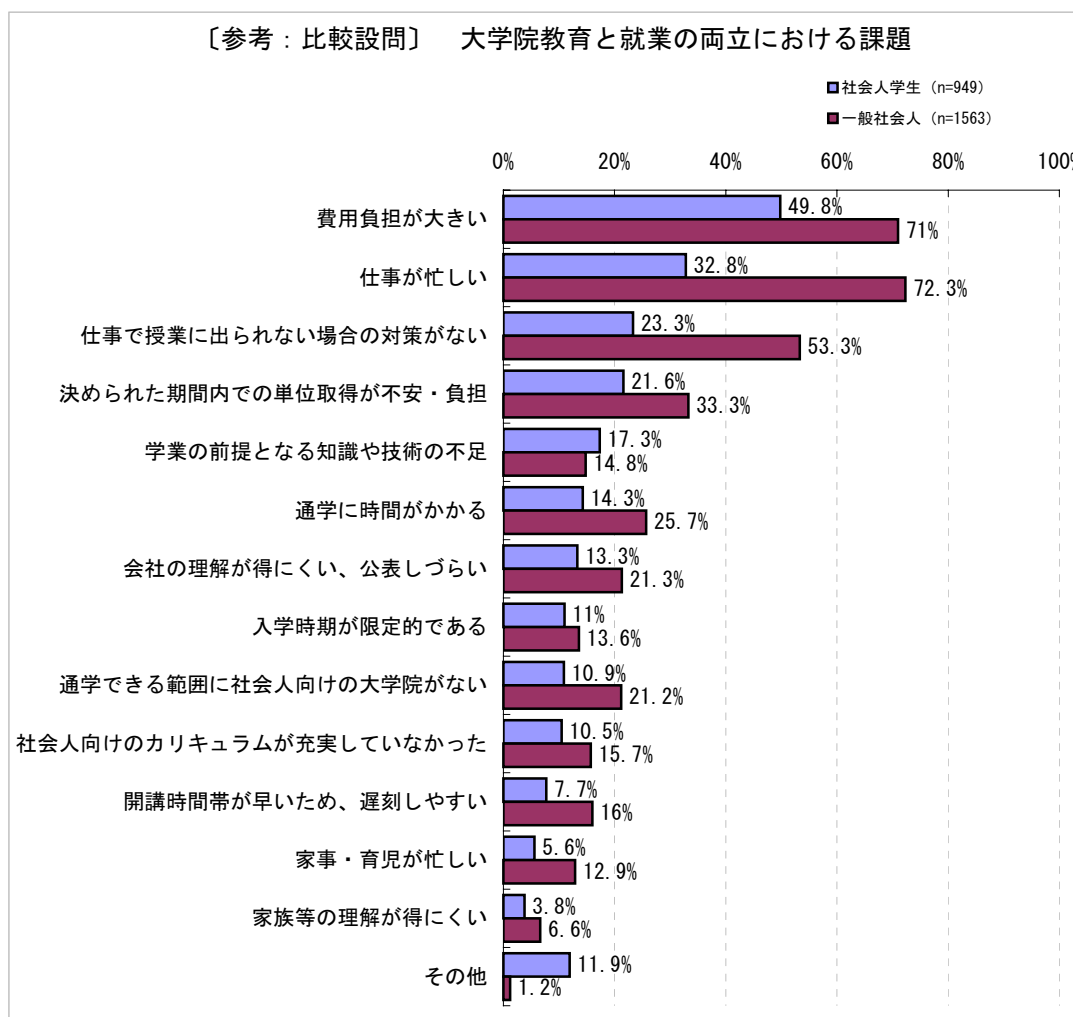
一般社会人と同様に、社会人学生に大学院での教育と就業との両立における課題を尋ねたところ、「費用負担が大きい」(49.8%)、「仕事が忙しい」(32.8%)等が上位に挙げられた。続いて「仕事で授業に出られない場合の対策がない」(23.3%)、「決められた期間内での単位取得が不安・負担」(21.6%)となっている。

仕事をしながら実際に通学してみると、費用負担が大きいことが最も大きな課題となることがわかる。仕事が忙しくて、授業にでられない、あるいは単位取得に影響が出ることに對し苦慮していることがうかがえる。

さらに「就業形態別」に結果を見ると、「働きたかったが、条件がそろわなかったため、働いていなかった(働いていない)」(以降「働けなかった人」)を見てみると、他の人と比べて、「仕事で授業に出られない場合の対策がない」(38.0%)、「会社の理解が得にくい、公表しづらかった」(26.9%)、「通学できる範囲に社会人向けの大学院がない」(21.3%)等への回答割合が多い。



『社会人向けアンケート』の問8(一般社会人)の回答と比較したものが以下のグラフである。回答の割合の差はあるものの、各選択肢の順位は大きくは変わらないことが見て取れる。



(『社会人向けアンケート』の問8および問17の単純集計結果に基づいて作成)

問18. 仕事をしながら大学院に通学するにあたって、大学に実施してほしいことは次のどれですか？ (MA)

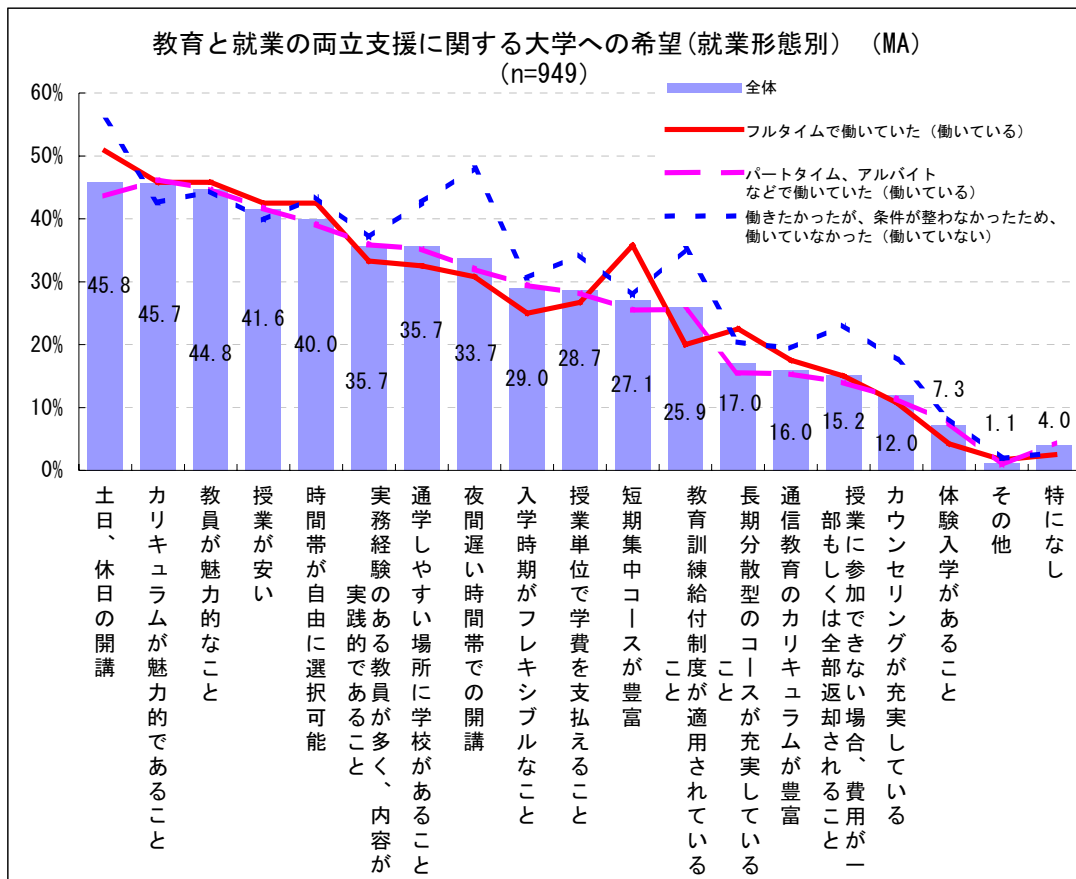
大学側に実施して欲しいことを、具体的に尋ねたところ、「土日、休日の開講」(45.8%)、「カリキュラムが魅力的であること」(45.7%)、「教員が魅力的であること」(44.8%)、「授業料が安い」(41.6%)、「時間帯が自由に選択可能」(40%)、などが順に挙げられている。

土日、休日の開講を実施している大学院は多いと思われるが、回答者の4割が土日、休日の開講を希望している。同様に、「夜間遅い時間帯での開講」(33.7%)に対しても3割以上の人希望していることになる。この結果から、土日、夜間開講のコースをさらに拡充して欲しいと考える人が多いということが言える。

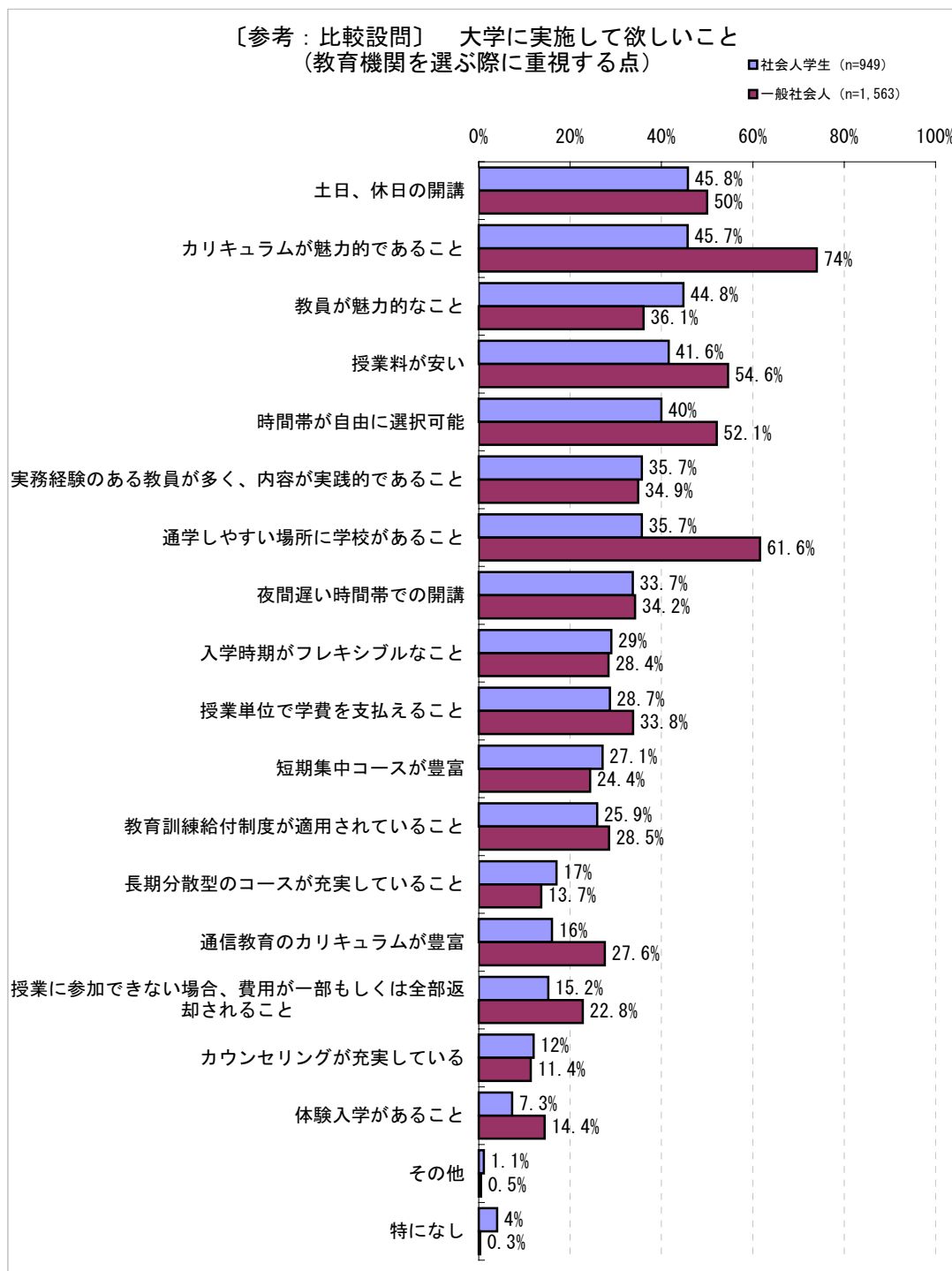
「就業形態別」で「働けなかった人」の結果を見てみると、働けなかった人が希望することとして、「土日、休日の開講」(55.6%)、「夜間遅い時間帯での開講」(48.1%)、「通学しやすい場所に学校があること」(42.6%)、「授業単位で学費が払えること」(34.3%)などが挙げられており、これらの対策

を求めているといえる。

この他に、「短期集中コースが豊富」(35.8%)については、「フルタイム」の人からの希望が多い。



『社会人向けアンケート』の問9(一般社会人)の回答と比較したものが以下のグラフである。一般社会人では、1位が「カリキュラムが魅力的であること」、2位が「通学しやすい場所に学校があること」、3位が「授業料が安い」の順となっているが、実際に働きながら通学した経験のある「社会人学生」は、1位「土日、休日の開講」、2位「カリキュラムが魅力的であること」、3位「教員が魅力的なこと」の順となっている。



(『社会人向けアンケート』の問9および問18の単純集計結果に基づいて作成)

問19. 大学院に対し、希望することを具体的にお聞かせください。(FA)

主な回答は次の通り。

大項目	小項目	件数
教育・研究	実践的な内容、就職後役立つ内容を重視	114
	教育内容の充実、カリキュラムの充実	48
	個人に合わせたカリキュラム、内容の自由な選択	28
	学問をするにふさわしい環境作り	15
	ハイレベルな専門知識・技術習得	14
	学際的な教育・研究の充実	14
	卒業条件をもっと厳しくする	13
	自分のやりたいようにする時間的ゆとり	11
	時代にあったカリキュラムの見直し	10
	研究内容の充実	10
	大学院でしかできない教育・研究の充実	10
	基礎と応用のバランス	9
	社会人としての基本資質を身につける	9
	基礎研究の充実	8
	国際的な人物育成にむけた教育	8
	研究者の育成	6
	インターンシップの充実	2
資格との連動、資格の取得が可能に	1	
社会人支援	社会人への大学院教育の見直し	18
	Eラーニング、通信教育の充実	15
	仕事場に近い教室の設置	14
	学問、家庭、仕事の両立のため履修のフレキシビリティ	13
	働く時間の確保	12
	夜間、土日開講	11
	社会人、外部の人間等への門戸を広く	7
	論文博士、論文修士への理解	2
	社会に出てからの研究へのフィードバック	1
企業連携	企業との連携の強化、産官学連携	15
	企業ニーズへの対応、企業ニーズにあった研究	6
	企業との共同開発、共同研究	4
教員	教員の質の向上	27
	実務経験のある教員による指導	13
	教員の横柄さ	3
体制	研究室の閉鎖性の排除	31
	教員や制度の情報を公開してアピール	24
	院生同士の情報交換の仕組み、研究の情報共有	11
	国内の他研究機関との連携	10
	議論ができる場の提供	9
	金儲けに走らないで欲しいこと	8
	多岐にわたってフレキシブルな対応を	6
	サービスの向上、提供	5
	体制による学兄との不公平感	4

大項目	小項目	件数
	海外との提携	3
	楽しみながら探究できる体制	1
金銭面	授業料を安く、経済的補助、奨学金制度	28
	給与や報償を与えること	12
	単位、科目ごとに支払い	4
	研究を仕事にしつつ、講義を受けられるように	4
	研究会参加への補助	3
就職	就職支援	8
	博士課程における就職支援	2
施設	研究設備の充実	6
	シャワー施設、仮眠施設の設置	5
	論文、文献、学術図書の充実	3
	保育施設	1

大項目	小項目	全体	人文学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	保健	家政	教育	芸術	その他	
教育・研究	実践的な内容、就職後役立つ内容を重視	114	0	10	15	72	4	0	6	1	0	5	1	0	
	教育内容の充実、カリキュラムの充実	48	0	11	7	20	1	0	0	0	0	5	4	0	
	個人に合わせたカリキュラム、内容の自由な選択	28	0	4	4	16	1	0	2	0	0	0	1	0	
	学問をするにふさわしい環境作り	15	0	0	4	5	1	0	0	2	1	2	0	0	
	ハイレベルな専門知識・技術習得	14	0	0	6	1	2	0	3	0	0	2	0	0	
	学際的な教育・研究の充実	14	0	2	2	8	1	0	0	0	0	0	1	0	
	卒業条件をもっと厳しくする	13	0	2	6	1	1	0	1	1	0	0	1	0	
	自分のやりたいようにする時間的ゆとり	11	0	2	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	
	時代にあったカリキュラムの見直し	10	0	2	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
	研究内容の充実	10	0	0	1	5	0	0	2	0	0	2	0	0	
	大学院でしかできない教育・研究の充実	10	0	1	4	4	0	0	1	0	0	0	0	0	
	基礎と応用のバランス	9	0	1	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	
	社会人としての基本資質を身につける	9	0	1	3	4	0	0	1	0	0	0	0	0	
	基礎研究の充実	8	0	1	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
	国際的な人物育成にむけた教育	8	0	1	3	3	0	0	0	0	0	1	0	0	
	研究者の育成	6	0	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	
	インターンシップの充実	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
	資格との連動、資格の取得が可能に	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	社会人支援	社会人への大学院教育の見直し	18	0	4	4	1	3	0	3	1	1	1	0	0
		Eラーニング、通信教育の充実	15	0	2	3	8	1	0	0	0	0	1	0	0
仕事場に近い教室の設置		14	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	
学問、家庭、仕事の両立のため履修のフレキシビリティ		13	0	1	3	3	1	0	2	0	0	3	0	0	
働く時間の確保		12	0	0	0	11	0	0	1	0	0	0	0	0	
夜間、土日開講		11	0	2	4	3	1	0	0	0	0	1	0	0	
社会人、外部の人間等への門戸を広く		7	0	2	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	
論文博士、論文修士への理解		2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
社会に出てからの研究へのフィードバック		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
企業連携		企業との連携の強化、産官学連携	15	0	1	5	8	0	0	0	0	0	0	1	0
	企業ニーズへの対応、企業ニーズにあった研究	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
	企業との共同開発、共同研究	4	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
教員	教員の質の向上	27	0	3	10	3	2	0	2	1	0	6	0	0	

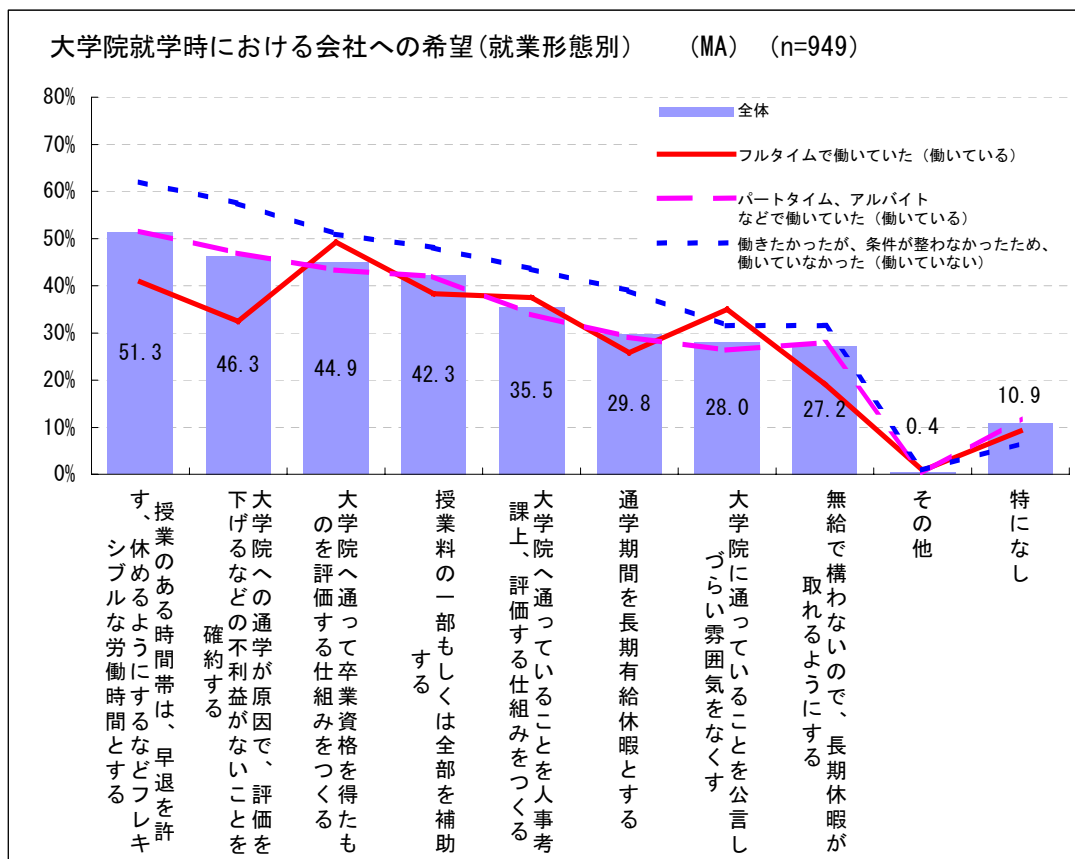
大項目	小項目	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	保健	家政	教育	芸術	その他
	実務経験のある教員による指導	13	0	4	1	2	2	0	1	0	0	3	0	0
	教員の横柄さ	3	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
体制	研究室の閉鎖性の排除	31	0	1	2	26	1	0	0	0	0	0	1	0
	教員や制度の情報を公開してアピール	24	0	0	2	20	0	0	0	0	0	2	0	0
	院生同士の情報交換の仕組み、研究の情報共有	11	0	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
	国内の他研究機関との連携	10	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0
	議論ができる場の提供	9	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0
	金儲けに走らないで欲しいこと	8	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	多岐にわたってフレキシブルな対応を	6	0	0	2	3	0	0	1	0	0	0	0	0
	サービスの向上、提供	5	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	体制による学兄との不公平感	4	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0
	海外との提携	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	楽しみながら探究できる体制	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
金銭面	授業料を安く、経済的補助、奨学金制度	28	0	3	12	3	4	0	1	0	0	4	1	0
	給与や報償を与えること	12	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0
	単位、科目ごとに支払い	4	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	研究を仕事にしつつ、講義を受けられるように	4	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	研究会参加への補助	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
就職	就職支援	8	0	1	3	1	0	0	0	0	1	1	1	0
	博士課程における就職支援	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
施設	研究設備の充実	6	0	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0
	シャワー施設、仮眠施設の設置	5	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0
	論文、文献、学術図書の充実	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	保育施設	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

問20. あなたが、在学中に会社に希望することは次のうちどれですか？ (MA)

在学中に会社に希望することを尋ねた設問である。「授業のある時間帯は、早退を許す、休めるようにするなどフレキシブルな労働時間とする」(51.3%)、「大学院への通学が原因で評価を下げるなどの不利益がないことを確約する」(46.3%)が上位にあげられる。

「大学院へ通って卒業資格を得たものを評価する仕組みをつくる」(44.9%)、「大学院へ通っていることを人事考課上、評価する仕組みをつくる」(35.5%)等も高い。この結果から、『確実に通学できるような職場側の環境』への要望が最も強く、その次に、『大学院で学ぶことに対する評価』を要望していることがわかる。

なお、「働きたかった人」は全般的に会社に対する希望がどの項目に対しても多く、会社側の理解や協力を必要としていたことがうかがえる。



問21. 会社に対し希望することを具体的にお聞かせください。(FA)

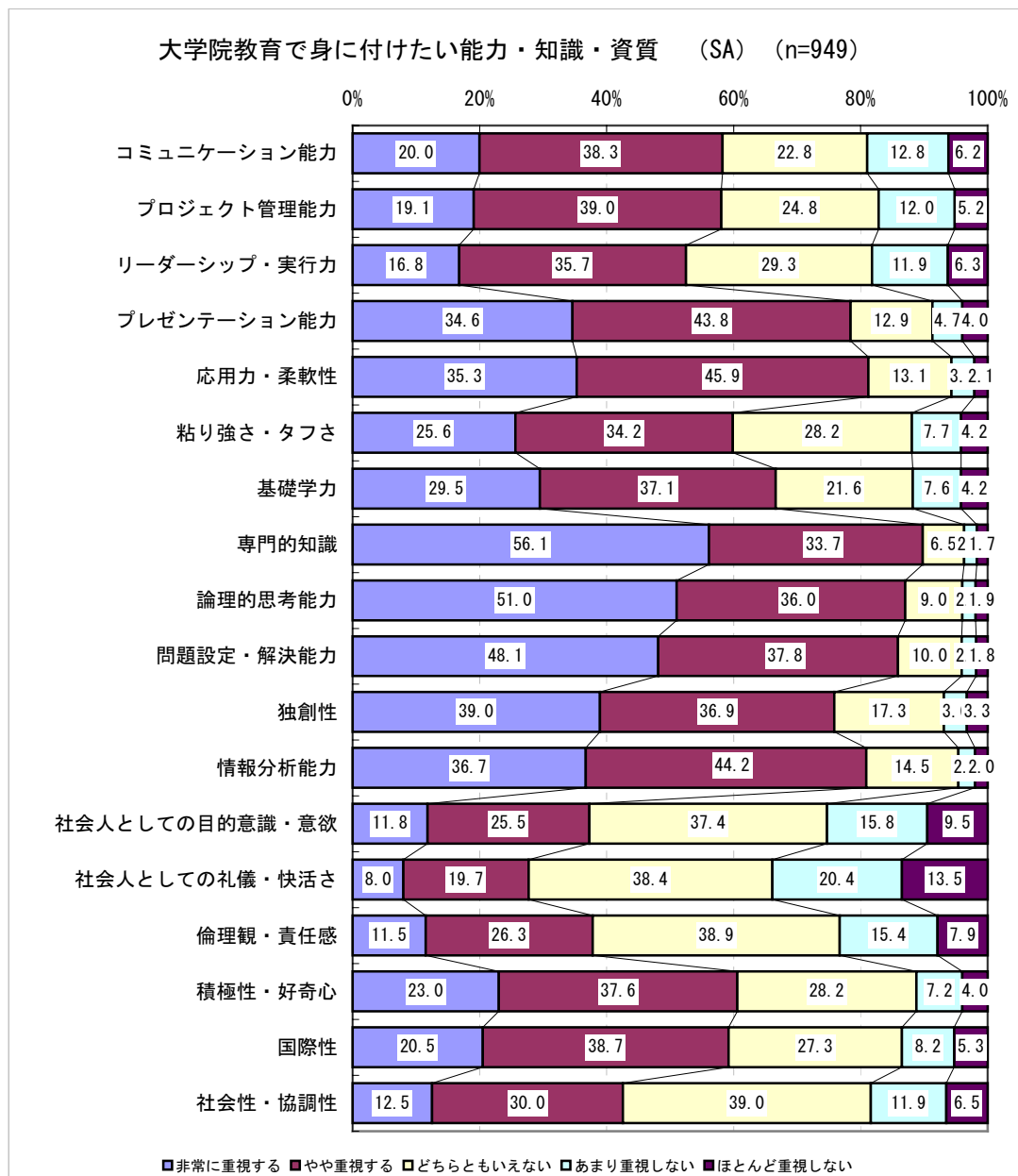
主な回答は次の通り。

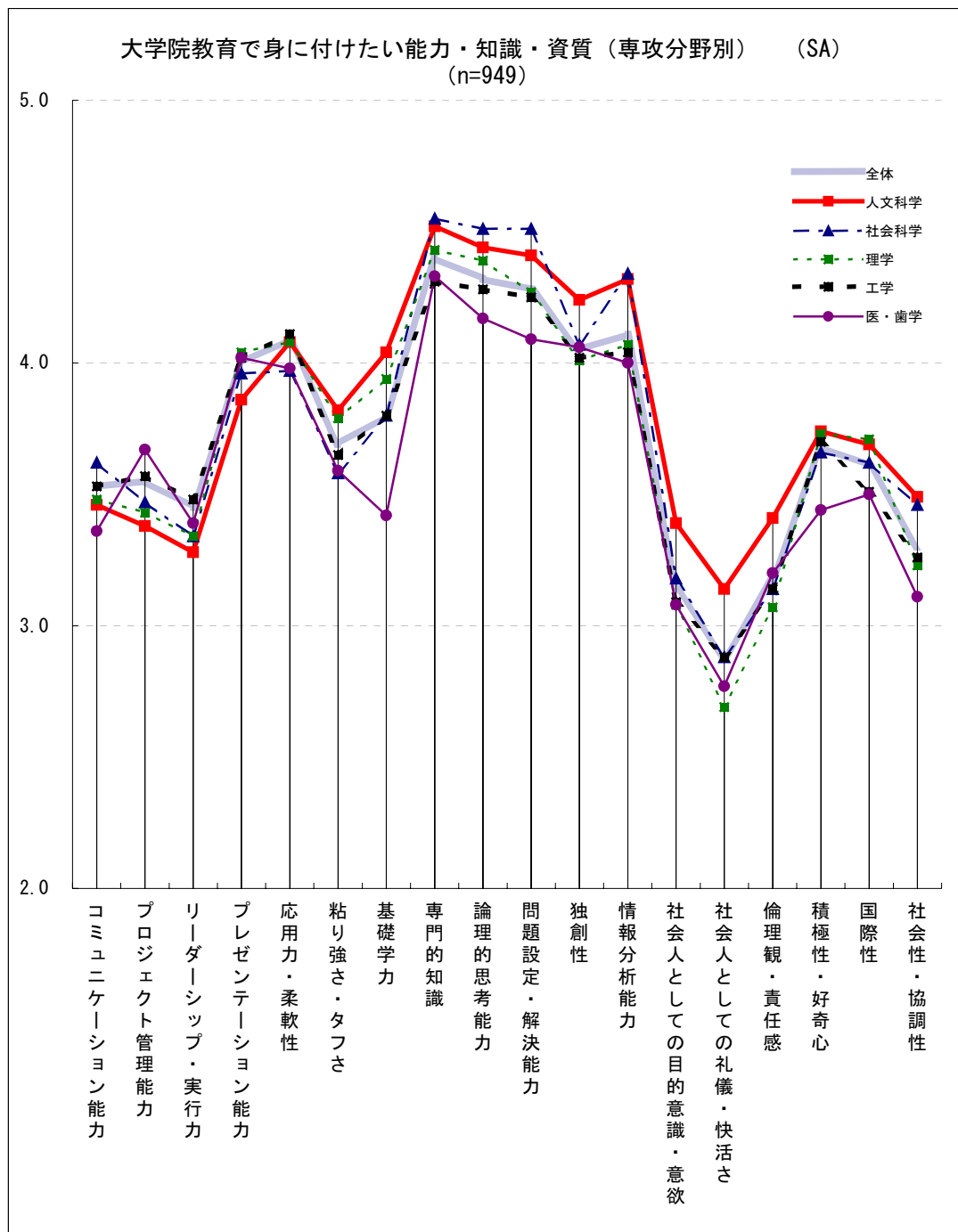
項目	件数
大学院を出たことに対する正しい評価、向学心への評価、習得した技術・知識への評価	74
大学院へ行くことへの理解、学業で多忙なことへの理解、同僚や上司のねたみをどうにかすること	67
大学院へ行くことを奨励、積極的なバックアップ、大学院に通うことに対する社内の制度の明確化	62
経済的な補助、費用の負担	59
フレキシブルな労働時間、時間の融通をきかせられること	49
賃金や待遇の保証、不利益が生じないようにすること、人事考課・給料・評価を下げないこと、その確約、もとの職に戻れるようにすること	43
会社側も先行投資として学業をとらえること、会社の利益として捉えること、人材育成としてとらえること	35
残業の削減、仕事量の削減・調整、勉強・通学時間の確保	32
公言しづらい雰囲気を無くすこと、通学を認める雰囲気作り	24
大学院で学んだ知識を生かせる分野への再配置、そのキャリアシステム	19
給与・報酬への反映、優遇	19
休職制度、長期休暇制度	18
有給休暇をとりやすくすること、無給でも休暇が取れること	17
柔軟な対応、柔軟な姿勢	11
研究者の派遣、大学院と会社との連携	9
外部研修として取り入れる、社員教育として推進、研修とみなす	8
共同研究、大学と企業との交流	6
大学院に通う時間も勤務に含めること	5
人員不足に対する、会社側での体制確保、人員確保	5
自分の意志で通っているため、特に優遇措置などは必要ない	5
会社の制度として認められているため満足、フレキシブルな対応をしてくれた	4
相互理解、社費留学生の流出についての制度について明確化	3
業務時間でなく、成果での評価、研究成果に対する正当な評価	3
業務に関係の無い学科の履修も認めること	2
学業のため退職した場合における再雇用の確約	2
院了による、高年齢であっても就業機会を奪わない、在学学生や院了の雇用機会の枠の確保	2
在学中の勤務地の配慮、在宅勤務を認める	2
大学院に行ったからといって、即実践に役立つと考えて欲しくない	1
大学院に行かせる目的の明確化	1
大学院での学習成果を社内に広める	1
大学に通っていることを秘密にして欲しい	1
共同でカリキュラムを開発	1

問22. 大学院での教育を通じて、あなたが身に付けたい能力・知識・資質等についてお聞かせください。以下の能力・知識・資質等に関する各項目に対して、「ほとんど重視しない」～「非常に重視する」の5段階で評価してください。(SA)

大学院教育を通じて身に付けたい能力・知識・資質を尋ねた設問である。非常に重視する、やや重視するに着目して見てみると、最も多い項目は「専門的知識」(非常に重視する: 56.1%、やや重視する: 33.7%)、「論理的思考能力」(51.0%、36%)、「問題設定・解決能力」(48.1%、37.8%)等、思考能力や知識を身に付けたいとの意識が強い。

そのほかには、「応用力・柔軟性」(35.3%、45.9%)、「情報分析能力」(36.7%、44.2%)、「プレゼンテーション能力」(34.6%、43.8%)なども重視する能力として挙げられている。





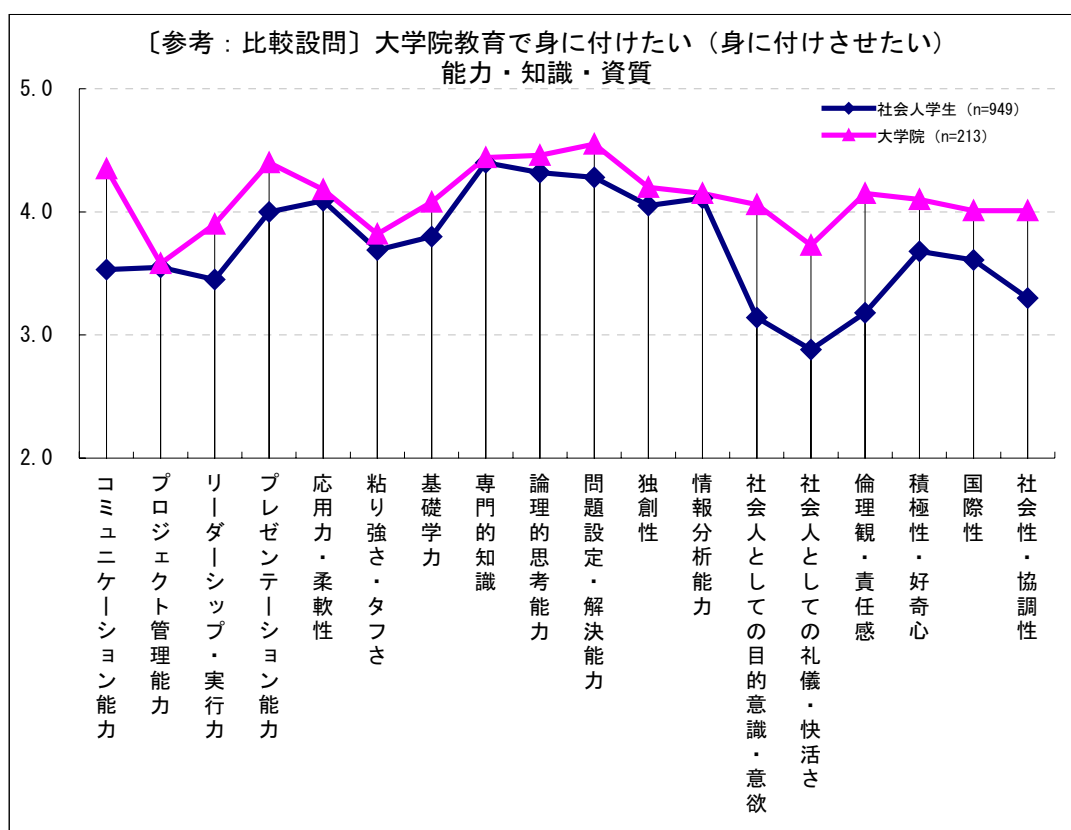
専攻分野別に見た場合には、全般的にさほど大きな差はないが、特徴的なところを挙げると、「人文科学」は、平均と比べて「専門的知識」(4.52)、「論理的思考能力」(4.44)、「問題設定・解決能力」(4.41)、「独創性」(4.24)、「情報分析能力」(4.32)等が重視されている。

「社会科学」は、平均と比べると「専門的知識」(4.55)、「論理的思考能力」(4.51)、「問題設定・解決能力」(4.51)が重視されている。

「医・歯学」では、全般的に平均より低いが、「プロジェクト管理能力」(3.67)は他の専攻分野と比べて重視する傾向がある。

	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	保健	家政	教育	芸術	その他	n
コミュニケーション能力	3.53	3.46	3.62	3.48	3.53	3.42	3.36	3.56	3.83	3.00	3.48	3.86	3.87	949
プロジェクト管理能力	3.55	3.38	3.47	3.43	3.57	3.78	3.67	3.91	3.83	3.33	3.37	3.36	3.63	
リーダーシップ・実行力	3.45	3.28	3.34	3.34	3.48	3.60	3.39	3.65	4.17	3.33	3.43	3.07	3.65	
プレゼンテーション能力	4.00	3.86	3.96	4.04	4.02	4.29	4.02	4.06	4.67	3.33	3.76	3.79	4.00	
応用力・柔軟性	4.09	4.08	3.97	4.08	4.11	4.36	3.98	4.06	4.17	3.33	3.85	3.93	4.28	
粘り強さ・タフさ	3.69	3.82	3.58	3.79	3.65	3.98	3.59	3.71	4.00	3.67	3.46	4.07	3.70	
基礎学力	3.80	4.04	3.80	3.94	3.80	3.82	3.42	3.71	3.83	3.33	3.61	3.86	3.76	
専門的知識	4.40	4.52	4.55	4.43	4.31	4.62	4.33	4.47	4.67	3.67	4.57	4.43	4.39	
論理的思考能力	4.32	4.44	4.51	4.39	4.28	4.47	4.17	4.18	4.33	3.67	4.24	4.07	4.35	
問題設定・解決能力	4.28	4.41	4.51	4.27	4.25	4.53	4.09	4.09	4.50	3.67	4.24	4.00	4.28	
独創性	4.05	4.24	4.07	4.01	4.02	4.24	4.06	3.85	4.33	3.67	3.87	4.57	4.00	
情報分析能力	4.11	4.32	4.34	4.07	4.04	4.22	4.00	4.06	3.83	4.00	4.02	3.93	4.30	
社会人としての目的意識・意欲	3.14	3.39	3.18	3.08	3.09	3.29	3.08	3.03	3.83	3.00	3.00	3.57	3.20	
社会人としての礼儀・快活さ	2.88	3.14	2.88	2.69	2.88	2.89	2.77	2.76	4.00	3.00	2.93	3.43	2.83	
倫理観・責任感	3.18	3.41	3.14	3.07	3.14	3.04	3.20	3.12	4.00	3.00	3.17	3.50	3.39	
積極性・好奇心	3.68	3.74	3.66	3.73	3.70	3.71	3.44	3.56	4.33	3.00	3.52	4.14	3.74	
国際性	3.61	3.69	3.62	3.71	3.51	3.82	3.50	3.59	4.17	3.33	3.61	4.43	3.72	
社会性・協調性	3.30	3.49	3.46	3.23	3.26	3.27	3.11	3.00	4.17	3.33	3.57	3.64	3.28	

大学院の教職員が大学院教育を通じて身につけさせたい能力・知識・資質と、社会人学生が大学院教育を通じて身につけたいと考える能力・知識・資質とを比較するために、『大学院向けアンケート』の問5、『社会人向けアンケート』の問22の回答の結果を統合したものが次のグラフである。



（『大学院向けアンケート』の問5、『社会人向けアンケート』の問22の数量化集計結果に基づいて作成）

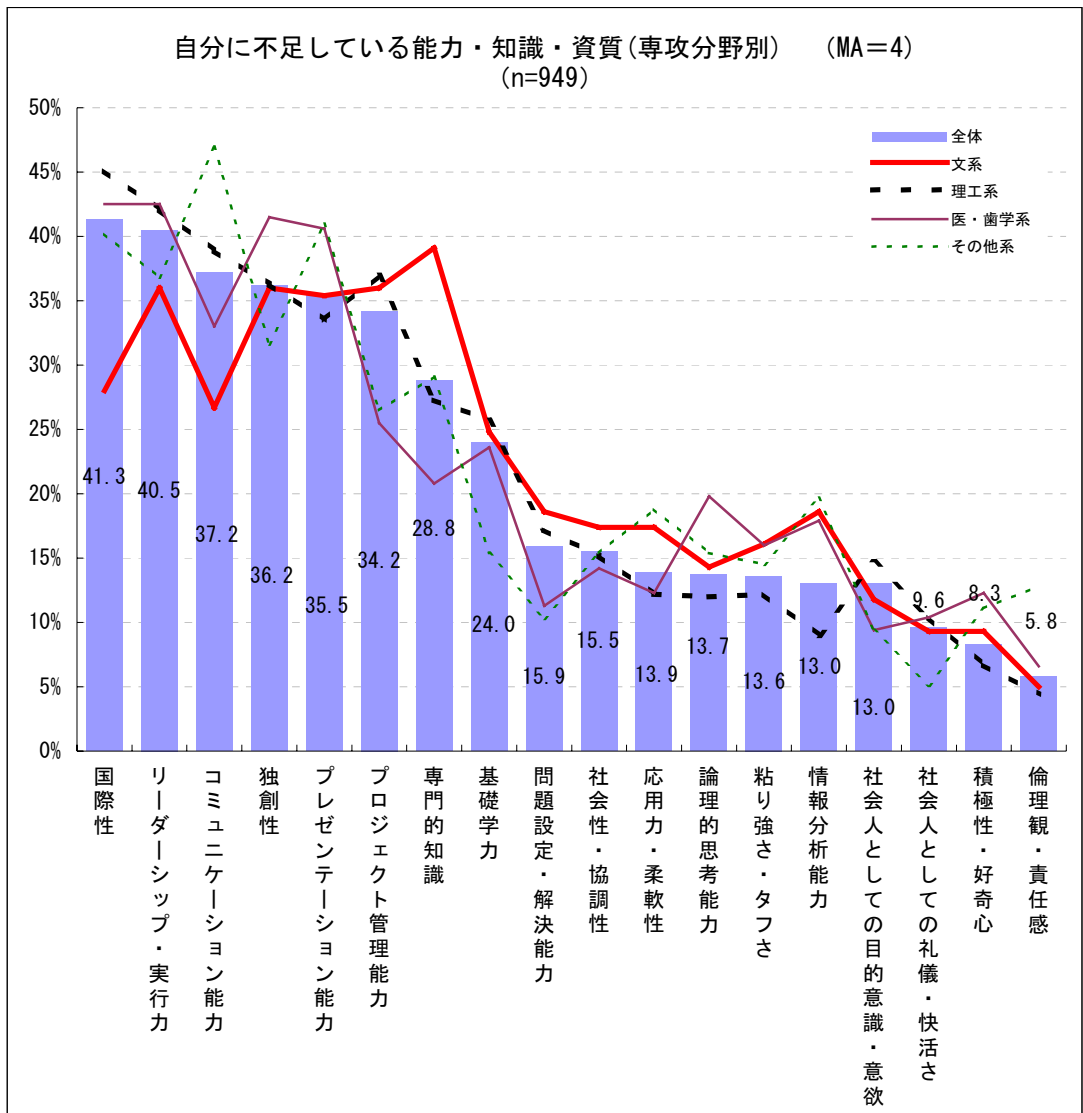
問23. あなたが自分自身に不足していると感じた・感じている資質・能力・知識等を以下の中から4つお選びください。(MA=4)

一方、自分自身に不足している資質・能力・知識を尋ねたところ、「国際性」(41.3%)が最も高く、「リーダーシップ・実行力」(40.5%)、「コミュニケーション能力」(37.2%)、「独創性」(36.2%)と続く。

前の設問(問22)で、特に、身につけたい能力として挙げられていた「問題設定・解決能力」(15.9%)、「論理的思考能力」(13.7%)、「情報分析能力」(13%)については、不足と考える人は相対的に少なく、それほど不足とは感じていないとの結果が出ている。

分野系統別で見た場合、「文系」では、「専門的知識」(39.1%)、「プロジェクト管理能力」(36%)、「リーダーシップ・実行力」(36%)が不足しているとの回答が多い。「理工系」では、「国際性」(45.1%)、「リーダーシップ・実行力」(42.1%)、「コミュニケーション能力」(38.9%)、「独創性」(36.3%)の順で不足していると回答した人が多い。

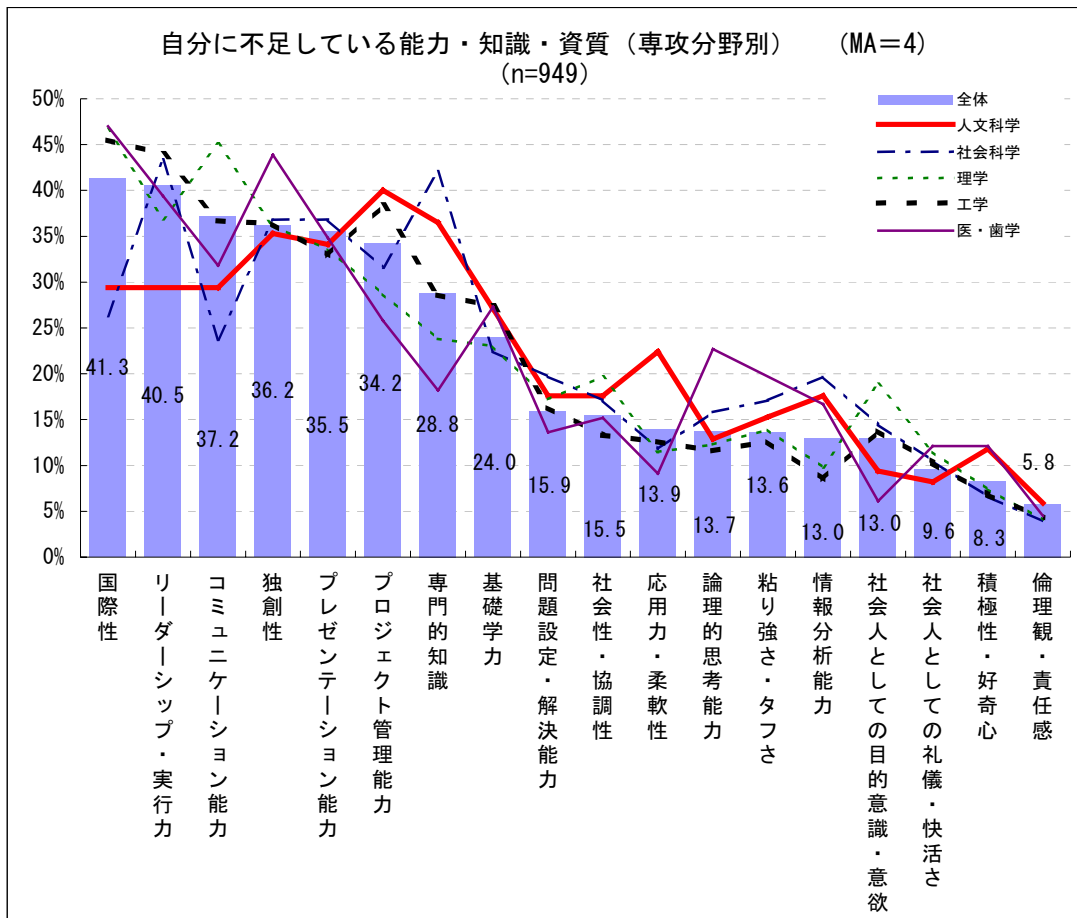
「医・歯学系」では、「リーダーシップ・実行力」(42.5%)、「国際性」(42.5%)、「独創性」(41.5%)、「プレゼンテーション能力」(40.6%)が不足しているとの回答割合が多い。



	国際性	実行力	リーダーシップ・実行力	コミュニケーション能力	独創性	プレゼンテーション能力	プロジェクト管理能力	専門的知識	基礎学力	問題設定・解決能力	社会性・協調性	応用力・柔軟性	論理的思考能力	粘り強さ・タフさ	情報分析能力	社会人としての目的意識・意欲	社会人としての礼儀・快活さ	社会人としてのの礼儀・快活さ	積極性・好奇心	倫理観・責任感	n
全体	41.3	40.5	37.2	36.2	35.5	34.2	28.8	24.0	15.9	15.5	13.9	13.7	13.6	13.0	13.0	9.6	8.3	5.8	949		
文系	28.0	36.0	26.7	36.0	35.4	36.0	39.1	24.8	18.6	17.4	17.4	14.3	16.1	18.6	11.8	9.3	9.3	5.0	161		
理工系	45.1	42.1	38.9	36.3	33.5	37.0	27.3	25.7	17.2	15.2	12.2	12.0	12.2	9.0	14.7	10.4	6.7	4.4	565		
医・歯学系	42.5	42.5	33.0	41.5	40.6	25.5	20.8	23.6	11.3	14.2	12.3	19.8	16.0	17.9	9.4	10.4	12.3	6.6	106		
その他系	40.2	36.8	47.0	31.6	41.0	26.5	29.1	15.4	10.3	15.4	18.8	15.4	14.5	19.7	9.4	5.1	11.1	12.8	117		

(n以外は%)

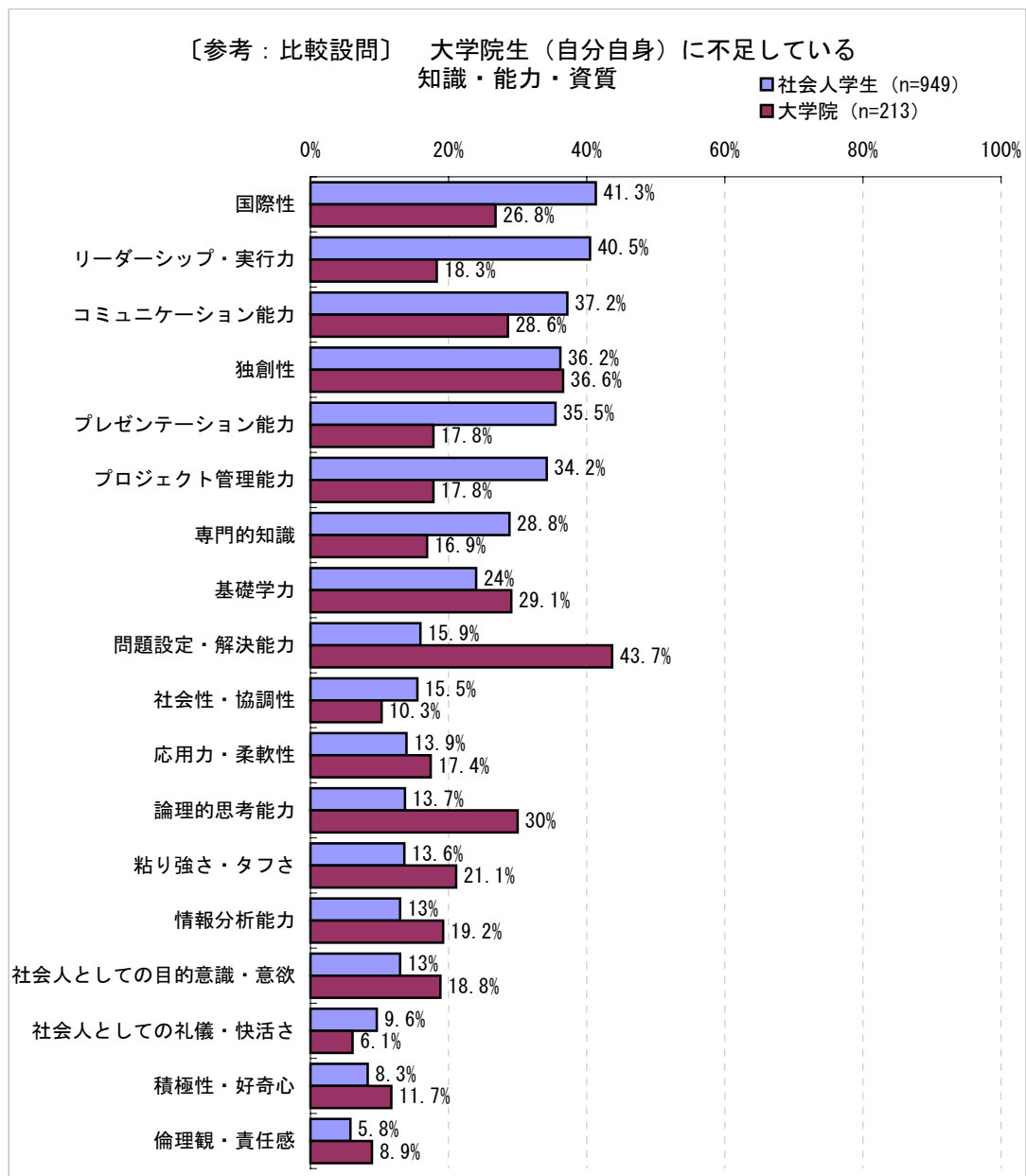
専攻分野別の回答は以下のとおりである。



	国際性	実行力	リーダーシップ・実行力	コミュニケーション能力	独創性	プレゼンテーション能力	プロジェクト管理能力	専門的知識	基礎学力	問題設定・解決能力	社会性・協調性	応用力・柔軟性	論理的思考能力	粘り強さ・タフさ	情報分析能力	社会人としての目的意識・意欲	社会人としての礼儀・快活さ	社会人としてのの礼儀・快活さ	積極性・好奇心	倫理観・責任感	n
全体	41.3	40.5	37.2	36.2	35.5	34.2	28.8	24.0	15.9	15.5	13.9	13.7	13.6	13.0	13.0	9.6	8.3	5.8	949		
人文科学	29.4	29.4	29.4	35.3	34.1	40.0	36.5	27.1	17.6	17.6	22.4	12.9	15.3	17.6	9.4	8.2	11.8	5.9	85		
社会科学	26.3	43.4	23.7	36.8	36.8	31.6	42.1	22.4	19.7	17.1	11.8	15.8	17.1	19.7	14.5	10.5	6.6	3.9	76		
理学	46.7	36.9	45.1	36.1	33.6	28.7	23.8	23.0	17.2	19.7	11.5	12.3	13.9	9.8	18.9	11.5	7.4	4.1	122		
工学	45.5	44.0	36.7	36.4	32.9	38.4	28.6	27.4	16.3	13.3	12.6	11.6	12.6	8.5	13.8	10.3	6.8	4.3	398		
農学	37.8	40.0	42.2	35.6	37.8	46.7	24.4	17.8	24.4	20.0	11.1	15.6	4.4	11.1	11.1	8.9	4.4	6.7	45		
医・歯学	47.0	39.4	31.8	43.9	34.8	25.8	18.2	27.3	13.6	15.2	9.1	22.7	19.7	16.7	6.1	12.1	12.1	4.5	66		
薬学	32.4	50.0	38.2	35.3	50.0	26.5	23.5	17.6	8.8	14.7	20.6	11.8	8.8	14.7	17.6	8.8	11.8	8.8	34		
保健	50.0	33.3	16.7	50.0	50.0	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	16.7	6		
家政	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	3		
教育	50.0	28.3	41.3	45.7	30.4	19.6	32.6	15.2	8.7	15.2	19.6	17.4	8.7	19.6	8.7	6.5	10.9	21.7	46		
芸術	21.4	28.6	28.6	21.4	42.9	35.7	28.6	14.3	7.1	35.7	7.1	21.4	21.4	28.6	7.1	0.0	28.6	21.4	14		
その他	37.0	44.4	55.6	22.2	50.0	29.6	27.8	14.8	13.0	11.1	22.2	13.0	18.5	16.7	11.1	3.7	5.6	3.7	54		

(n以外は%)

大学院の教職員が今の学生に不足していると考えられる能力・知識・資質と、社会人学生自身が自分に不足していると考えられる能力・知識・資質とを比較するために、『大学院向けアンケート』の間6、『社会人向けアンケート』の間23の回答結果を統合した。



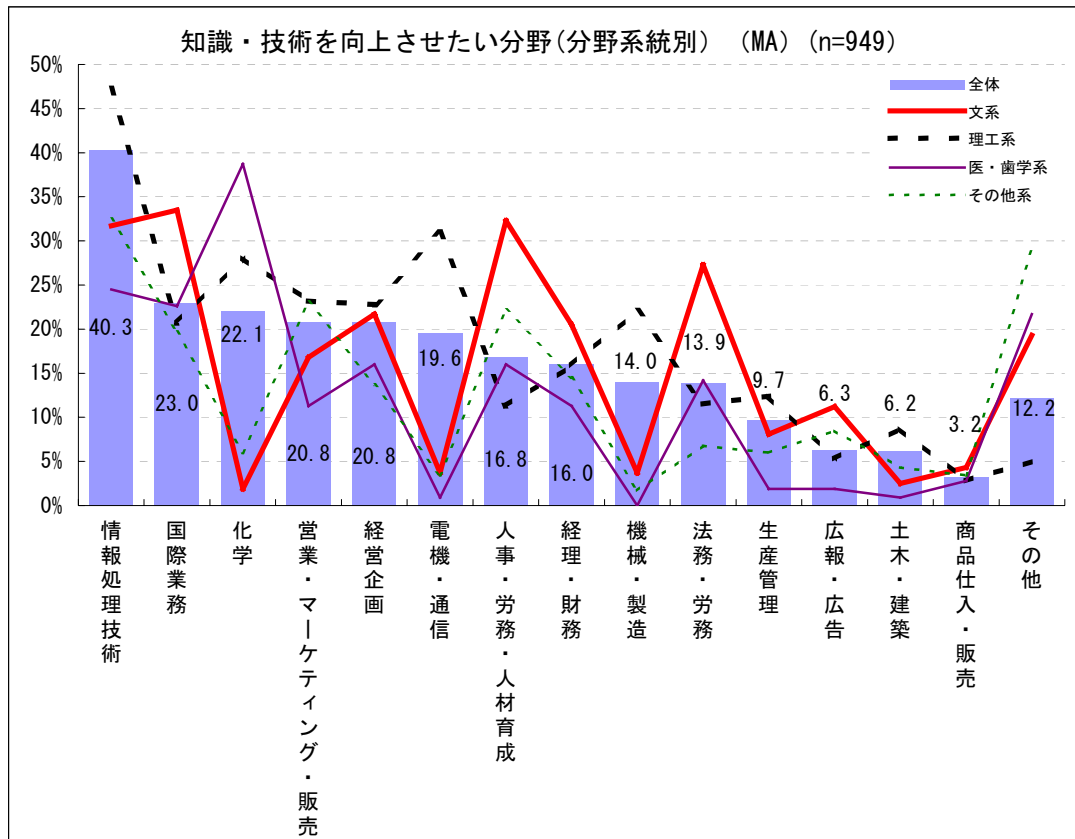
（『大学院向けアンケート』の問6、『社会人向けアンケート』の問23の単純集計結果に基づいて作成）

大学の教職員の間では、「問題設定・解決能力」や「論理的思考能力」が学生に不足していると捉える人が多かったが、社会人学生では、「国際性」、「リーダーシップ・実行力」、「コミュニケーション能力」が欠けているとの回答が多かった。

問24. あなたが知識・技術を向上させたい分野は、次のうちどれですか？（MA）

大学院での教育を通じて知識・技術を向上させたい分野としては、「情報処理能力」（40.3%）、「国際業務」（23%）、「化学」（22.1%）、「営業・マーケティング・販売」（20.8%）となっている。「情報処理能力」が最も回答数が多かったが、今回の調査がインターネット調

査である点に留意して結果を読み取る必要がある。



分野系統別で見ると、「情報処理技術」は「理工系」(47.3%)だけでなく、「文系」(31.7%)も約3割の人が知識・能力を向上させたいとしている。また、「営業・マーケティング・販売」において、「文系」(16.8%)、「理工系」(23.2%)となっており、理工系の2割の人が営業・マーケティング・販売に関する知識を得たいと考えていることがわかる。「経営企画」は、「文系」(21.7%)、「理工系」(22.8%)と、文系理系を問わず回答者の割合が高い。

「医・歯学系」では、「化学」(38.7%)と最も高いが、「情報処理技術」(24.5%)、「国際業務」(22.6%)など、化学以外の分野への関心も高いことがうかがえる。

	情報処理技術	国際業務	化学	営業・マーケティング・販売	経営企画	電機・通信	人材育成	人事・労務・人	経理・財務	機械・製造	法務・労務	生産管理	広報・広告	土木・建築	商品仕入・販売	その他	n
全体	40.3	23.0	22.1	20.8	20.8	19.6	16.8	16.0	14.0	13.9	9.7	6.3	6.2	3.2	12.2	949	
文系	31.7	33.5	1.9	16.8	21.7	3.7	32.3	20.5	3.7	27.3	8.1	11.2	2.5	4.3	19.3	161	
理工系	47.3	20.7	28.1	23.2	22.8	31.0	11.3	15.9	22.1	11.5	12.4	5.3	8.7	2.8	5.0	565	
医・歯学系	24.5	22.6	38.7	11.3	16.0	0.9	16.0	11.3	0.0	14.2	1.9	1.9	0.9	2.8	21.7	106	
その他系	32.5	19.7	6.0	23.1	13.7	3.4	22.2	14.5	1.7	6.8	6.0	8.5	4.3	3.4	29.1	117	

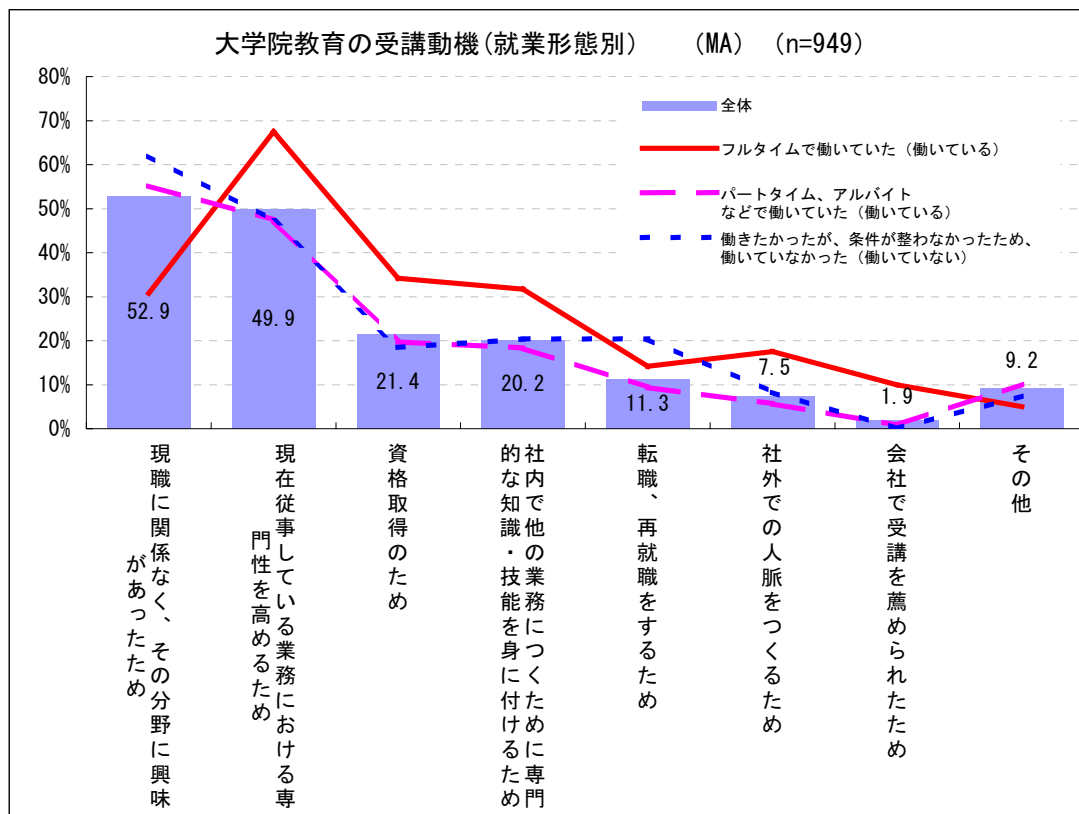
(n以外は%)

問25. あなたが大学院で教育を受けた主な目的・動機は次のうちどれですか？（MA ≤ 3）

大学院で教育を受けた主な理由を尋ねたところ、「現職に関係なく、その分野に興味があったから」(52.9%)が最も多く、次いで「現在従事している業務における専門性を高めるため」(49.9%)という回答が最も多かった。

それと比較して、「転職・再就職をするため」(11.3%)という回答は少なく、転職や再就職のために大学院に通う人よりも、現職の専門性を高めたいという人の割合の方が多という結果となった。

さらに、就業形態別で見ると、「フルタイム」の人は「現在従事している業務における専門性を高めるため」(67.5%)と回答している人が最も多く、逆に「現職に関係なく、その分野に興味があったため」(30.8%)としている人の割合は比較的少ない。また、「資格取得のため」(34.2%)、「社内で他の業務につくために専門的な知識・技能を身につけるため」(31.7%)と回答している人の割合が他の就業形態の人よりも多い。

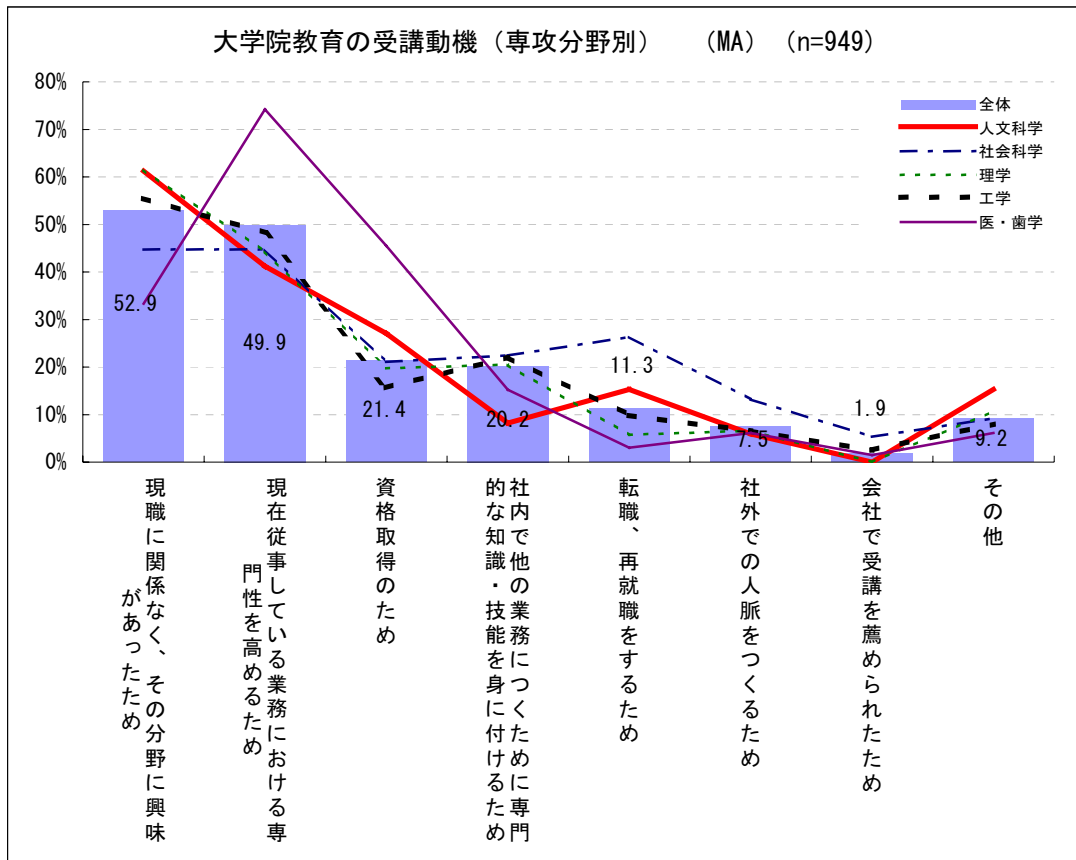


専攻分野別で受講動機を見てみると、「現職に関係なく、その分野に興味があったから」(52.9%)で回答の割合が多いのは、「理学」(61.5%)、「人文科学」(61.2%)、少ないのは「医・歯学」(33.3%)、「社会科学」(44.7%)である。

「現在従事している業務における専門性を高めるため」(49.9%)で回答割合が多いのは、「医・歯学」(74.2%)で突出している。「資格取得のため」(21.4%)では「医・歯学」(45.5%)が他と比べて割合が非常に多いほか、「人文科学」(27.1%)も平均より多い。

「社内で他の業務につくために専門的な知識・技能を身につけるため」(20.2%)では、「人文科学」(8.2%)が他と比べて少ない。「転職・再就職をするため」(11.3%)では、「社会

科学」(26.3%)、「人文科学」(15.3%)が多く、理工系の「理学」(5.7%)、「工学」(9.8%)、「医・歯学」(3%)では少ない。



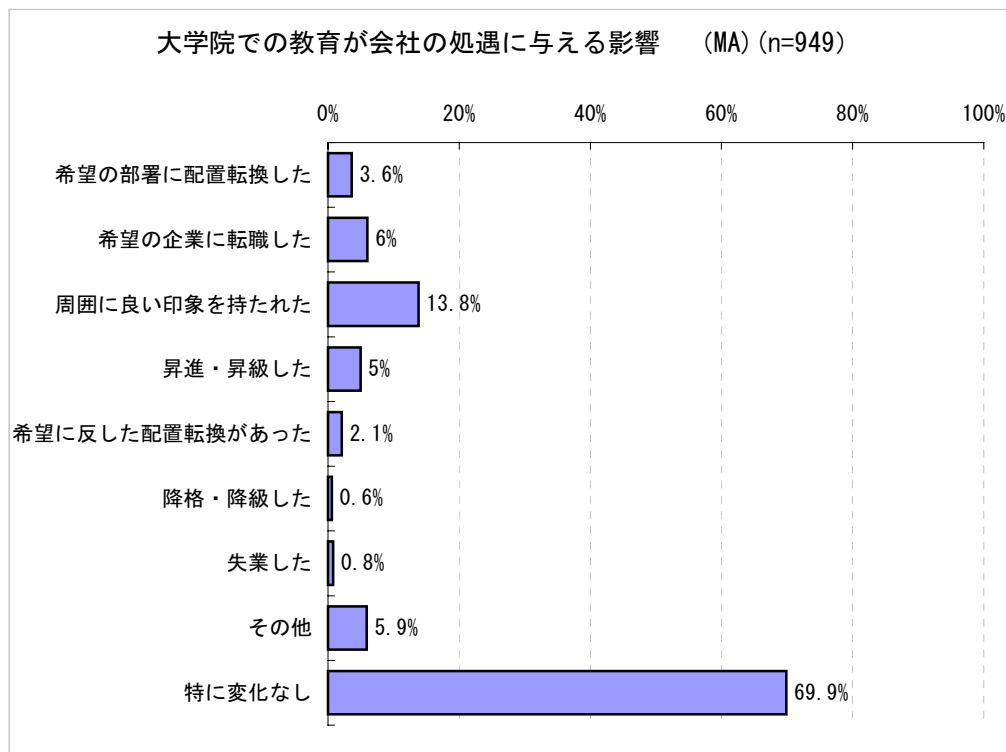
	興味があったため	現職に関係なく、その分野に専門性を高めるため	現在従事している業務における資格取得のため	社内で他の業務につくために専門的な知識・技能を身につけるため	転職、再就職をするため	社外での人脈をつくるため	会社で受講を薦められたため	その他	n
全体	52.9	49.9	21.4	20.2	11.3	7.5	1.9	9.2	949
人文科学	61.2	41.2	27.1	8.2	15.3	5.9	0.0	15.3	85
社会科学	44.7	44.7	21.1	22.4	26.3	13.2	5.3	9.2	76
理学	61.5	44.3	19.7	20.5	5.7	6.6	0.0	10.7	122
工学	55.5	48.2	15.6	22.1	9.8	6.5	2.5	8.0	398
農学	62.2	33.3	13.3	26.7	8.9	4.4	0.0	15.6	45
医・歯学	33.3	74.2	45.5	15.2	3.0	6.1	1.5	6.1	66
薬学	47.1	70.6	20.6	35.3	17.6	14.7	0.0	2.9	34
保健	16.7	100.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	6
家政	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	3
教育	34.8	60.9	34.8	19.6	13.0	4.3	2.2	8.7	46
芸術	71.4	64.3	14.3	0.0	7.1	28.6	0.0	0.0	14
その他	46.3	50.0	27.8	18.5	13.0	9.3	3.7	9.3	54

(n以外は%)

問26. あなたが大学院で教育を受けたことによって、会社での処遇に変化がありましたか？
(MA)

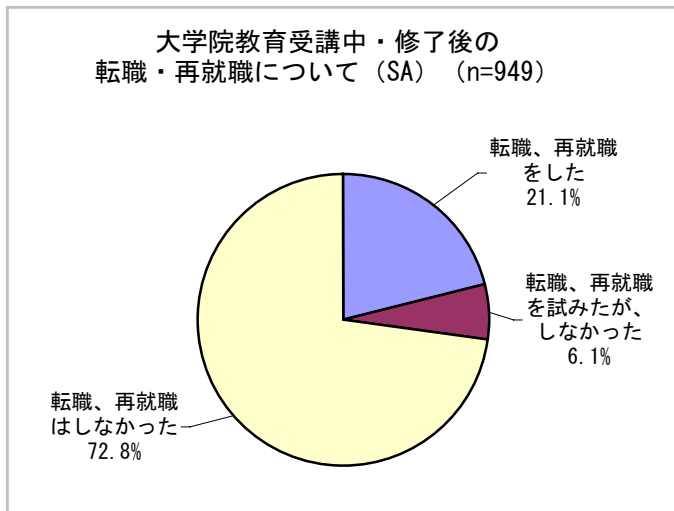
会社での処遇に対する影響を問う設問である。「特に変化なし」(69.9%)が約7割を占め、大学院の教育は良くも悪くも会社の処遇には直接的に影響はなかったと考える人が多いことがわかった。

「周囲によい印象を持たれた」(13.8%)、「希望の部署に配置転換した」(3.6%)、「希望の企業に転職した」(6%)、「昇進・昇級した」(5%)と、好影響があったとする人も一定割合いる。逆に、「希望に反した配置転換があった」(2.1%)、「降格・降級した」(0.6%)、「失業した」(0.8%)と悪影響があったとする人もいるものの、その割合は相対的にかなり少ない。



問27. あなたは、大学院で受講中もしくは修了後、転職、再就職をしようとした、あるいは、しましたか？ (SA)

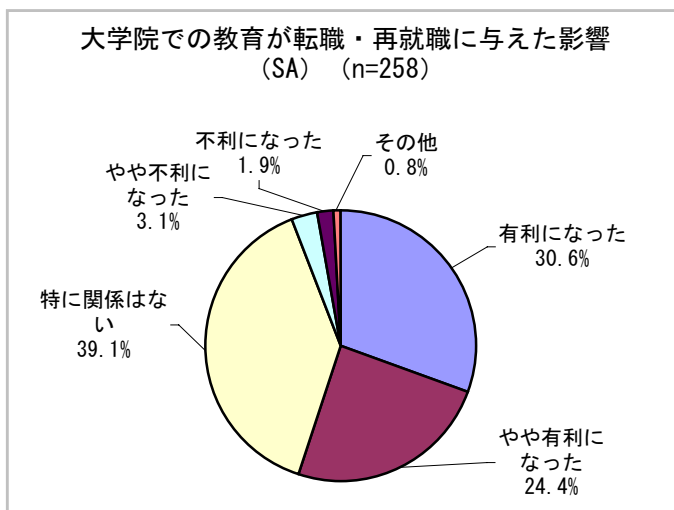
在学中あるいは修了後に、転職や再就職をしようとしたか尋ねたところ、「転職、再就職をした」(21.1%)、「転職、再就職を試みたが、しなかった」(6.1%)と回答した人と合わせて3割弱の人が転職、再就職をした、あるいは試みたとの結果が得られた。



問28. 大学院での教育が、あなたの転職や再就職の採用に与えた影響は次のうちどれですか？ (SA)

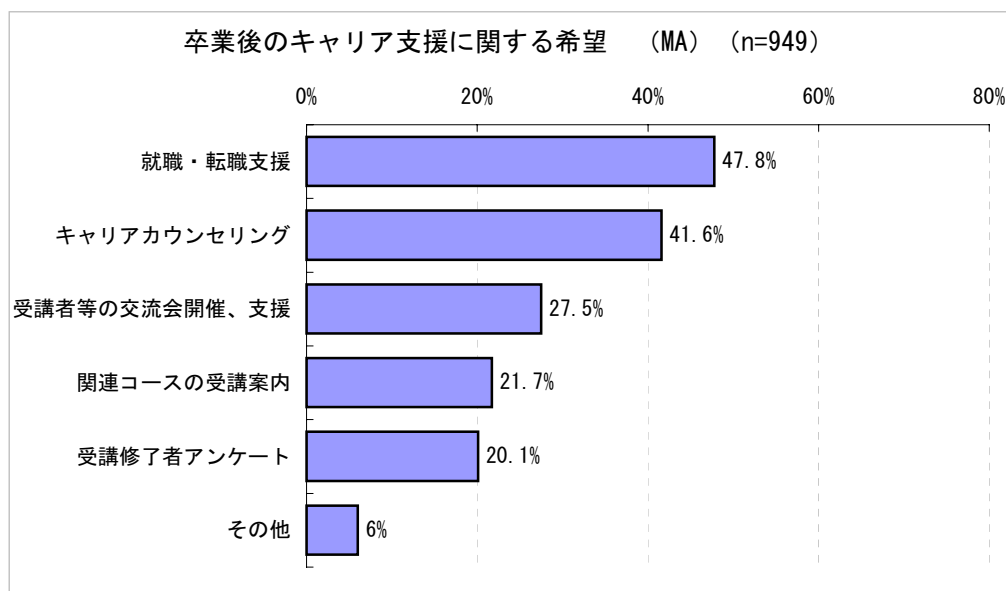
問27で、転職や再就職をした、あるいは試みた人に対し、採用の際に大学院の教育が与えた影響について尋ねたところ、「有利になった」(30.6%)、「やや有利になった」(24.4%)と好影響だったとの回答をした人が半数以上となった。一方で、「特に関係はない」(39.1%)との回答も多く、大学院の教育が必ずしも採用に影響を与えているとは言い切れないとも言える。

「やや不利になった」(3.1%)、「不利になった」(1.9%)と、採用に不利な影響があった人も少なからずいることにも留意したい。



問29. 卒業後のキャリア支援に向けて、大学院に実施して欲しいことは次のうちどれですか？ (MA)

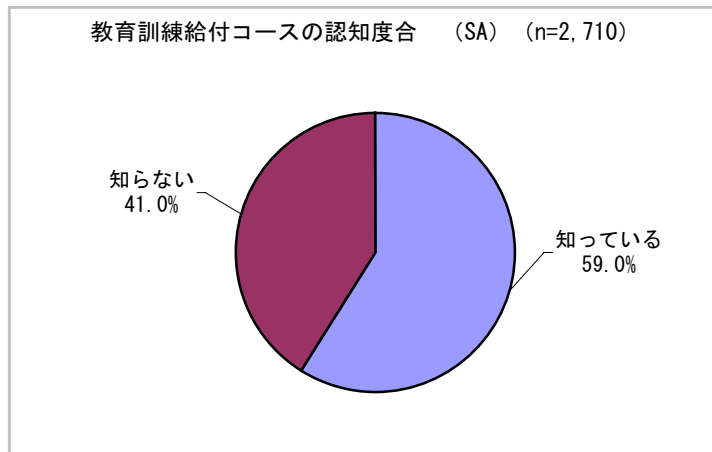
卒業後のキャリア支援に関する要望を尋ねたところ、「就職・転職支援」(47.8%)と最も高く、続いて「キャリアカウンセリング」(41.6%)との回答が多かった。一般学生のみならず、社会人学生においても、就職・転職支援に関して大学への期待が高いことがうかがえる。



共通設問

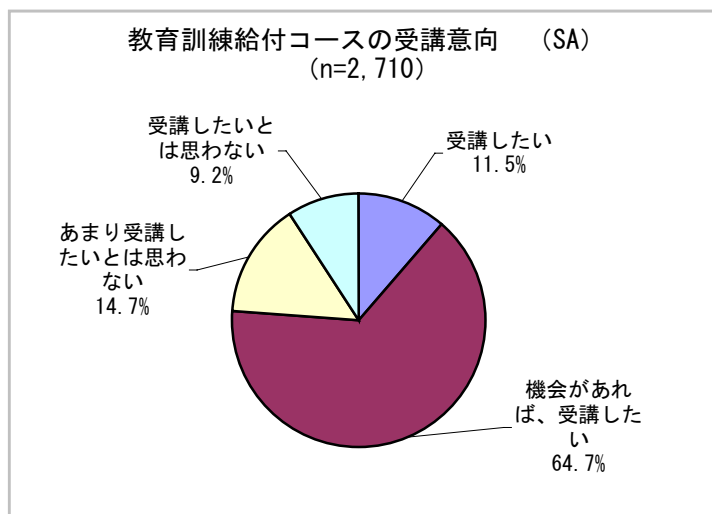
問30. あなたは、「教育訓練給付コース」とはどういったものであるか知っていますか？
(SA)

一般社会人、社会人学生共通の設問である。教育訓練給付コースを知っているか否か尋ねたところ、約6割の人が知っていると回答した。



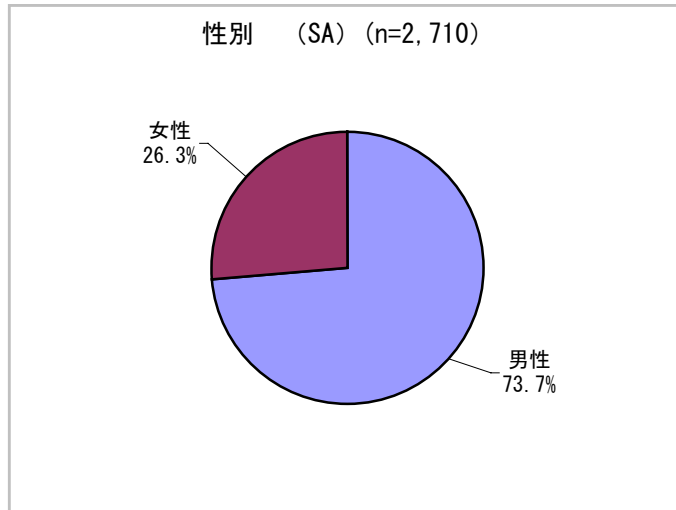
問31. 教育訓練給付コースとは以下のようなものですが、大学院において教育訓練給付コースを受講したいと思いますか？ (SA)

教育訓練給付コースの受講意向を尋ねたところ、「受講したい」(11.5%)「機会があれば受講したい」(64.7%)と受講に積極的な人が7割以上を占めた。



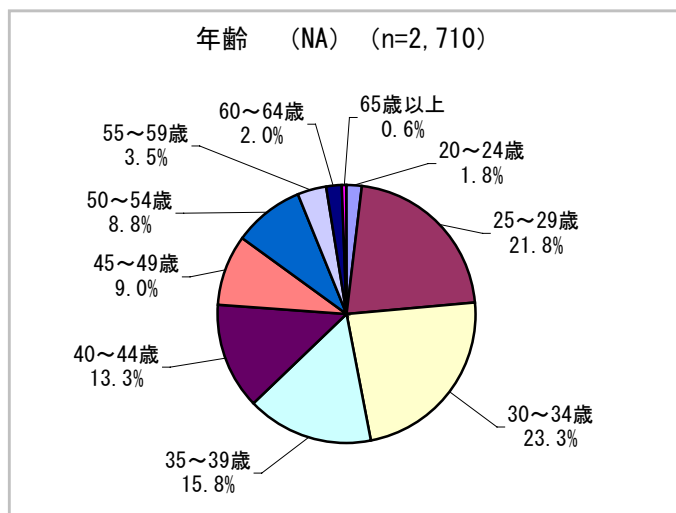
問32. あなたの性別を教えてください。(SA)

回答者の約7割が「男性」(73.7%)、約3割が「女性」(26.3%)である。



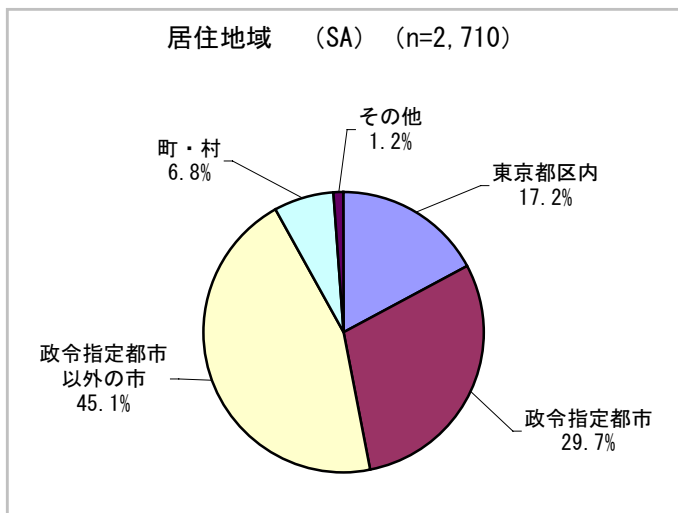
問33. あなたの年齢を教えてください。(NA)

回答者は「25~29歳」(21.8%)、「30~34歳」(23.3%)、「35~39歳」(15.8%)と25歳から39歳が約6割を占める。



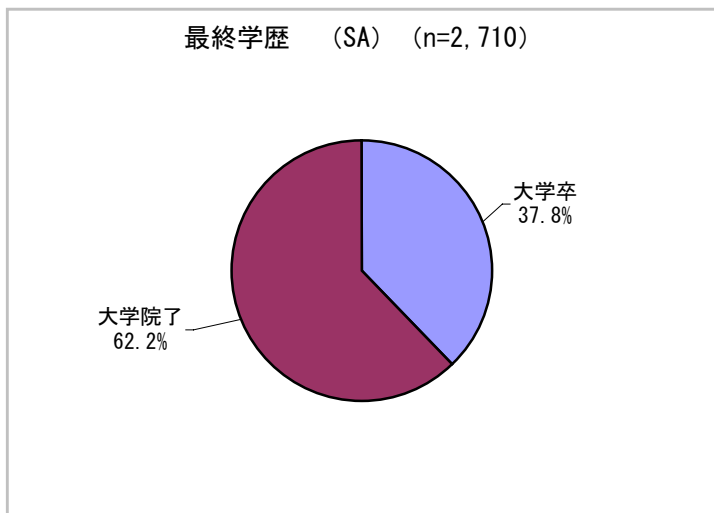
問34. あなたの居住地域を教えてください。(SA)

回答者の居住地は、「政令指定都市以外の市」(45.1%)、「政令指定都市」(29.7%)、「東京都区内」(17.2%)となっている。



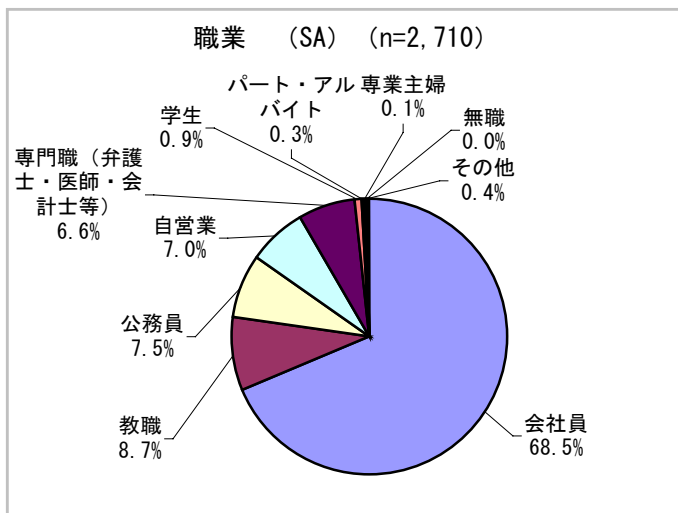
問35. あなたの最終学歴を教えてください。(SA)

回答者の最終学歴は、「大学院了」(62.2%)、「大学卒」(37.8%)となっている。



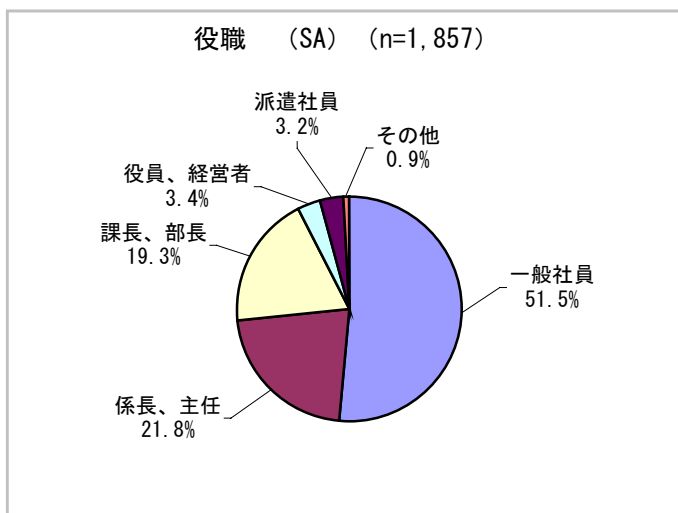
問36. あなたの現在の職業を教えてください。(SA)

回答者の職業は、「会社員」(68.5%)、「教職」(8.7%)、「公務員」(7.5%)、「自営業」(7%)、「専門職(弁護士・医師・会計士)」(6.6%)となっている。



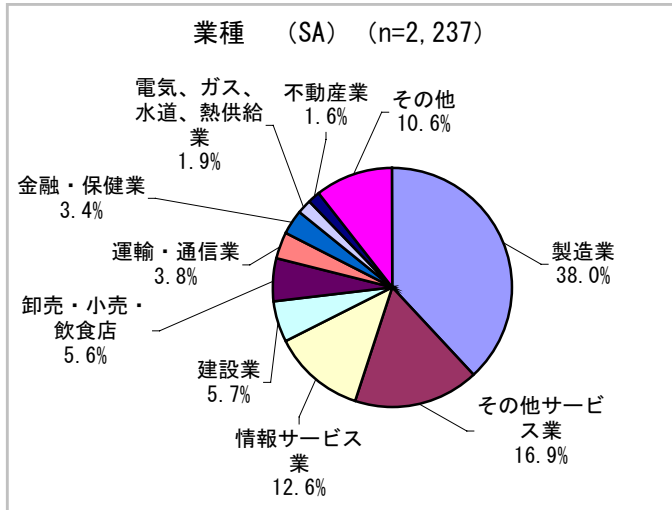
問37. あなたの役職を教えてください。(SA)

問36で「会社員」と回答した人の役職は、割合が多い順に「一般社員」(51.5%)、「係長、主任」(21.8%)、「課長、部長」(19.3%)となった。



問38. あなたの業種を教えてください。(SA)

問36で、「会社員」、「自営業」、「専門職(弁護士・医師・会計士等)」、「その他」と回答した人に、業種を尋ねた。割合が多い順に、「製造業」(38%)、「その他サービス業」(16.9%)、「情報サービス業」(12.6%)、「建設業」(5.7%)、「卸売・小売・飲食店」(5.6%)であった。



第3節 大学・大学院等における社会人教育に関するヒアリング調査

3-1 調査目的

大学・大学院等において社会人教育への取組状況、今後の展開等を把握し、本調査（アンケート調査）結果の補完を目的とする。

3-2 調査対象

文部科学省の中央教育審議会大学分科会大学院部会（以下、中教審大学院部会）を踏まえて制度化、あるいは今後、求められる人材養成機能として取り組むべきリカレント教育システムをキーワードに、インターネットの検索機能を利用し、上位に表示（アクセス件数が高い＝注目度が高い）される教育機関を中心に抽出した。

また地域による取り組み状況の違いを見るため、首都圏、関西圏だけでなく、他の地域の教育機関に対しても調査した。

3-3 調査内容

①中教審大学院部会が示す、今後の大学院に求められる教育（※）と、調査対象教育機関の創設目的について

- （※） ・優れた研究・開発能力を持つ研究者／確かな教育・研究能力を備えた大学教員の養成
- ・高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成
- ・知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成

②社会人教育への取り組み状況について

- ◇社会人教育への関心度
- ◇社会人に対する教育カリキュラムの考え方、及びその展開について
- ◇産学連携に対する考え方
- ◇社会人受け入れに対する取り組みについて

③期待を担う教育機関として、期待する側（国、自治体、企業など）への要望

- ◇教育修了者に対する処遇に関する提案
- ◇教育期間の経済的な問題に対する提案

④社会人教育（リカレント教育や生涯学習）のあるべき姿について

3-4 調査結果のまとめ

(1) 大学・大学院等、高等教育機関が置かれた状況について

少子化の進展により、2007年を境に「競争を避ければ誰でも入学できる」時代に突入し、大学経営としては厳しい時代を迎えるが、企業等に対し、大学・大学院等（以下、大学）に眠る知的財産の開放等による新たな大学の活用提案をすることで、産学連携による産業再生を担う機関としての活力が生まれている。

今回ヒアリング調査した大学院等においても、少子化による大学本体への逆風が強まる中、これらの新たな機会、および社会人ニーズを捉え、積極的に新たな教育機会、産学連携による研究等を提案し展開して、更なる拡充を検討されているところが多く見受けられた。

ただ、今後も社会人教育は需要増加が見込まれるものの、各高等教育機関が一斉に社会人を対象とした教育の提供を始めているため、過度の競争が学問自体の質をおとしめる原因となり、好ましくないという意見も聞かれた。

(2) リカレント教育、生涯学習など社会人教育の考え方について

国立大学法人も含め、社会人教育への取り組みは現在積極的、もしくは今後積極的に展開するという答えが大半で、どの大学院等においても質の良いリカレント教育や生涯学習の機会、産学連携による大学院等の新たな価値の創出が必要であるとの認識であった。

ただし、社会人アンケート結果にもあるとおり、大学に求める「質の高い教育」は、結果として学生に対し相応の負担を求めることとなり、また勉学のための時間もかなりの負荷となるため、社会人学生に対する時間的、金銭的支援が必要であるとの意見も聞かれた。

これらについては、すでにある文部科学省における各種の奨学金制度、厚生労働省における能力開発給付金等の拡充を求めるものから、欧米のようにベンチャー企業に対する支援と同様な考えの下、投資対象としての教育費の支援、もしくは投資対象そのものにすべきという考え方を持たれている回答者もいた。

その他にも、法律実務家養成のため平成16年度より各地に開校された法科大学院などは、弁護士が不足する自治体などが学生に対し、資格取得後に一定期間その土地での活動といった賦役を課すことで、その対価として通学中の支援を行う（自治医科大の法律家版）といった意見や、理工学系などでは地域の

産業振興の柱として、自治体と共同で地域研究機関として活動を義務付け、成果に応じて教育活動に対する援助をする仕組みも提案された。

(3) 大学・大学院等、高等教育機関から企業等への要望について

今回、各大学のヒアリングにご協力いただいた方の属性については、学部長、もしくは事務局長等、ある程度業務全般を見渡せる方をお願いしたが、社会人に魅力的な教育カリキュラムとしては、第一線で活躍される実務者による教育が必要との認識であった。これらの貴重な教育者を提供する側の企業に対しても、一定の理解を得られるような土壌作りが必要であるとのことである。

3-5 ヒアリング事例について

ヒアリングを行った大学については、マトリックス表を用いてその結果を紹介する。あらかじめ用意した質問事項についてご回答いただいた上で、教育の「特徴、方針」と「リカレント教育に対する認識」という視点から、「問題点、関心事項、要望、その他意見」という形で自由に回答して頂き、大学等が特定できないレベルで、その内容を以下にまとめた。

ヒアリング事例 No.1

カテゴリ：1年制大学院 分野：理工学系 場所：首都圏	リカレント教育に関する認識 ・リカレント教育、生涯学習機運の高まり
特徴・方針 ・高度専門職業人の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・習得分野を個々の専門分野に対し付加する目的で、インターフェース的な活躍が期待される人材の育成。 ・企業派遣の学生が多く、教育面で配慮（就業時間、教育費）されている学生が大半。 ・少子化と大学院数の増加による、大学院生の質の低下を懸念。 ・既存学部、学科の在籍教授陣の前向きな取り組みと、幅広い人脈により、社会人にとって魅力的な第一線の実務経験者が担当を教授陣に招聘している。 ・社会人の利便性を図り昼夜同一授業。

ヒアリング事例 No.2

カテゴリ：専門職大学院 分野：社会科学系 場所：首都圏	リカレント教育に関する認識 ・資格制度の変更 ・大学設立の規制緩和
特徴・方針 ・高度専門職業人の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・司法試験合格を目的とするため、企業からのバックアップが得られる学生はほとんどいない。 ・第一線の実務経験者が担当するためコストが高く、内容も高度なため相当な覚悟が必要。 ・現在のところ新司法試験制度に左右される。 ・地方法曹界の量的充実を目指した、自治体のバックアップ制度新設（自治医科大の法曹版）。

ヒアリング事例 No. 3

カテゴリ：大学院 分野：理工学系 場所：地方	リカレント教育に関する認識 ・産学連携の一環としての社会人学生受入れ
特徴 ・実践的・創造的かつ指導的技術者の養成 ・社会人を対象とした講座の設置	・既存の課程・専攻に対し、社会人特別選抜枠の設定。 ・企業活力の低下により、社会人入学者数が減少。 ・企業都合による退職後の入学者に対する援助が必要。

ヒアリング事例 No. 4

カテゴリ：1年制大学院 分野：理工学系 場所：首都圏	リカレント教育に関する認識 ・社会人向けのサテライトキャンパスを開設
特徴 ・高度専門職業人の養成 ・産官学連携による先進的分野の教育	・e-learningによる授業の補講。 ・魅力あるカリキュラムを展開すると学費がその分高額になるため、教育にかかる費用に公的な援助の増額が望まれる。 ・e-learningを用いた高度な教育を検討。

ヒアリング事例 No. 5

カテゴリ：コミュニティカレッジ 分野：一般教養 場所：首都圏	リカレント教育に関する認識 ・地域に対する教養講座として古くから展開
特徴 ・高度で知的な素養のある人材の養成	・生涯学習の場として短期の教養講座を実施し、語学系を中心に企業単位で受講の申込みがある。 ・バブル後は企業の積極的な教育投資がなくなり、受講者自体が漸減。 ・中高の英語教師に対する語学力アップのための講座を展開していく。

ヒアリング事例 No. 6

カテゴリ：大学院大学 分野：社会科学系 場所：地方	リカレント教育に関する認識 ・企業派遣を主体とするが、ODAによる海外留学生も受け入れる。
特徴 ・高度専門職業人の養成を目的としながらも、研究者の養成も目指す ・企業の中核的人材を養成する目的で産業界が主体となり設立	・国際色豊かなキャンパスで、教授陣も外国から招聘し教育内容も国際的に高い評価を得ているが、企業からの寄付により運営している関係で景気に左右される。 ・学生の派遣、寄付など企業の教育に対する理解が必要。 ・実施しているカリキュラムは海外からも評価が高く、学内環境も国際人養成として認知されている。

ヒアリング事例 No. 7

カテゴリ：総合大学 分野：全般 場所：地方	リカレント教育に関する認識 ・社会人枠等の配慮はなし
特徴 ・学部により研究者養成、高度専門職業人、教養教育	・産学連携として、地域企業からの研究テーマを募集し、成果、論文等を公開している。 ・社会人を対象とした教育も検討。

ヒアリング事例 No. 8

カテゴリ：総合大学 分野：全般 場所：地方	リカレント教育に関する認識 ・秋期に特別選抜を実施
特徴・方針 ・高度専門職業人養成	・共同研究、受託研究を通して、企業、自治体等との交流を図る。 ・地方では社会人に特化したカリキュラムは、実質的に不可能であるが、一般学生を社会に送り出す機関として社会人でも通用するカリキュラムを模索。

ヒアリング事例 No. 9

カテゴリ：総合大学 分野：全般 場所：地方	リカレント教育に関する認識 ・サテライトキャンパスを設け、地域に根ざした講座を展開予定
特徴・方針 ・地域将来を考慮した高度専門職業人の養成	・「実学実践」と「地域貢献」を推進し、学外との共同研究を展開。 ・社会人学生の教育に対する投資を所得控除。 ・学生の間は所得税を免除など。 ・自治体と一体となって、地域社会に貢献できるカリキュラムを展開。

ヒアリング事例 No. 10

カテゴリ：通信制大学 分野：人文系 場所：首都圏	リカレント教育に関する認識 ・企業人でなく、社会人として重要な諸問題に焦点を置いた教育を展開
特徴・方針 ・現代社会に必要な心の教育や、教養教育	・インターネットによる受講システムを確立し、受講に係るコストを抑え、一般社会人が全国各地からでも出席できるシステムを用意。 ・スクーリングなどもインターネットを利用。

ヒアリング事例 No. 11

カテゴリ：総合大学 分野：社会科学系 場所：関西圏	リカレント教育に関する認識 ・近隣他大学の積極的展開もあり、早い時期から社会人教育に取り組む ・リカレント教育は大学間の競争でもあると、質の良いカリキュラムを用意し、最上位の評価を得られるよう取り組む
特徴・方針 ・研究者養成機関でもあり、高度専門職業人を養成することも重要な役割と認識	・社会人の自主的な入学を待つだけでなく、地元企業との良好な関係を友好的に利用し、ニーズをくみ上げカリキュラムに反映させた上で、社会人学生を派遣していただく努力をしている。 ・用意したカリキュラムに関し、社会人、企業からは時代に即したスピーディーな変更を求められる場合もあるので、文部科学省の設置基準に関する時間的な柔軟性をお願いしたい。 ・一般的な企業活動に合わせ易いよう、セメスタを導入。 ・企業派遣以外の社会人学生に対して、再就職などのためのキャリアカウンセリングの必要性を感じている。 ・大学として学生全般に対し、自前の奨学金制度等は用意しているが、国に対しても財政的な支援がされるような制度を望む。

ヒアリング事例 No. 12

カテゴリ：総合大学 分野：社会科学系 場所：関西圏	リカレント教育に関する認識 <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の方針に従い、社会人に対するカリキュラムを用意したが、その過程で社会人からの高等教育に対するニーズの高さを実感し、今後は積極的に展開していく
特徴・方針 <ul style="list-style-type: none"> 研究者養成機関 	<ul style="list-style-type: none"> 入学直前の学力は問題視しないが、英語力に関しては選考に際し重視する。 経済的な面での大変さもあるが、社会人学生に対する学び、研究するための時間的な配慮が、企業側に欠けていると感じる。 経済界で活躍する同窓生のネットワークをフル活用し、リカレント教育を重要な責務と認識した上で、他では実現しにくい分野でのカリキュラムを検討している。 社会人を派遣する企業にとり、大きなリターンを得られるようなカリキュラムを用意することが重要。

ヒアリング事例 No. 13

カテゴリ：総合大学大学院、地域センター 分野：人文、社会科学系 一般教養 場所：関西圏	リカレント教育に関する認識 <ul style="list-style-type: none"> 社会人のニーズがある分野については社会人枠を設け、社会人学生からのニーズを踏まえ、魅力あるカリキュラムの提供を実践 場所、時間等を社会人が教育を受けやすいよう配慮し、大学の付帯設備についても、利用が可能なように変更
特徴・方針 <ul style="list-style-type: none"> 研究者育成を目標としながらも、時代に即した教養教育も重視 社会人の多様なニーズに答えるため、研究科の中をプログラム制とし、様々なケーススタディと、社会人学生が抱えている職場での諸問題に対する指導、提案を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 教養教育、高度専門職業人、学術研究者養成と、学生の適正を見極め、全ての教育が提供できるような仕組みを模索している。 リカレント教育に対する啓蒙を一層進めることは当然として、現行雇用慣行の弾力化、公的な経済支援の拡充が望まれる。 従来の学生だけでなく、社会人に対しても教育を提供していることを、地域社会活動を通じてアピールし、実践することが大学側にも必要と考え展開している。